

BIM啓発専門部会 2025年度 活動報告

「BIM活用の実情把握に関するアンケート」 の実施報告

アンケートの目的・概要

- 各企業のBIM推進施策に役立つものにするを目的に実施

■ 目的

- ① 日建連会員（建築）におけるBIM活用・展開状況や導入後抱えている課題等を把握し、会員企業各々のBIM推進施策に役立つものにする。
- ② 施工BIMを中心に設計や維持管理・運用を含めた全体の調査とし、プロジェクトを通じたBIM推進状況を把握する。

■ 実施概要

【実施時期】 2025年11月20日～2026年2月20日

【実施対象】 日建連建築本部及び本部直下の委員会参加の会員企業

【実施方法】 eメールにて発信、回収（Excelシートに入力）

【回答状況】 50社／62社（回答率81%）

アンケートの目的・概要

■ プロジェクトの各段階におけるBIMの活用度合いを定量的に見える化

■ 分析概要

- 2021年を起点に2年ごとに実施した調査との比較を行い、4年間の進捗状況を明示した。
(原則として2021年調査と比較。2023年からの新規項目は2023年調査と比較)
- 特徴的な実施内容として、プロジェクトの各段階（設計、施工、引渡し・維持管理・運用、改修）におけるBIM活用の展開度合いに関する定量的なモニタリングを行った。

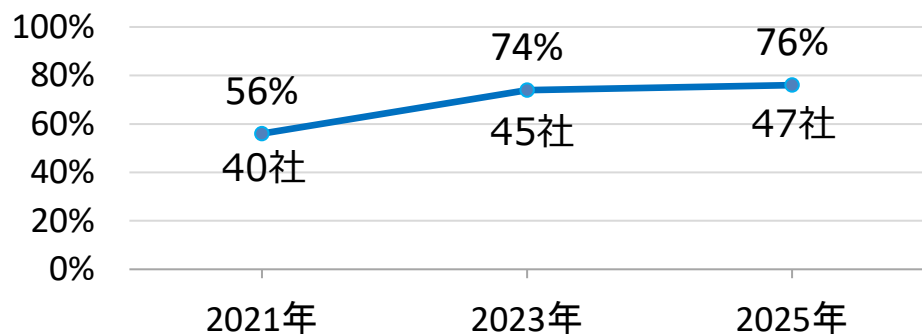
■ 分析項目

1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況
4. 設計におけるBIM活用状況
5. 施工におけるBIM活用状況
6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況
7. 改修工事における活用状況
8. BIM推進の方針・整備と活用の相関
9. 効果、課題、将来性
10. BIM未導入企業の回答分析

アンケート結果の概要

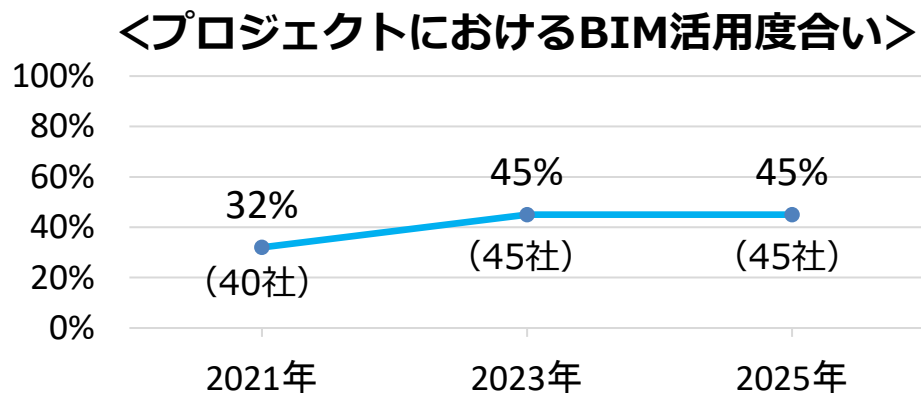
■ BIM活用度合いは設計・施工とも4年間で13%増加

■ BIMの導入状況



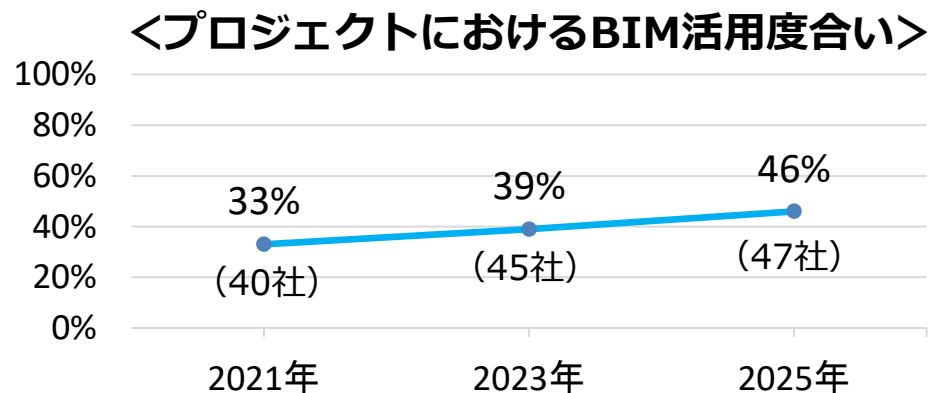
• BIM導入企業は4年間で7社増えて47社（76%）に達した。

■ 設計におけるBIM活用状況



• 最初の2年間で45%に達した。直近の2年間は変化無し。

■ 施工におけるBIM活用状況



• 調査ごとに同程度増加して46%に達した。

アンケート結果の集計・分析－ 1

1. 回答企業の属性

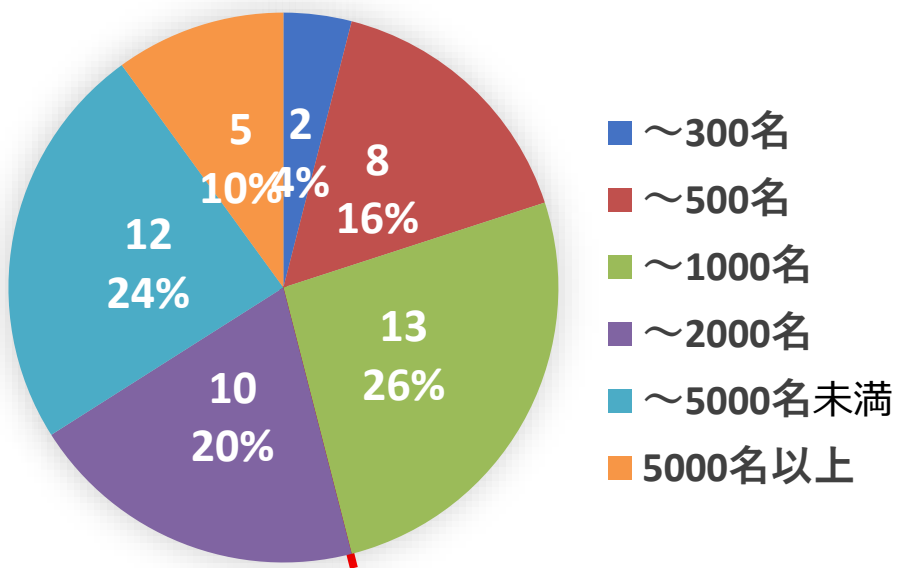
- ① 会社規模（従業員数）
- ② BIMの導入状況
- ③ BIMの導入期間

1. 回答企業の属性 ①会社規模

■ 企業の回答数は2021年調査から10社増えて50社に

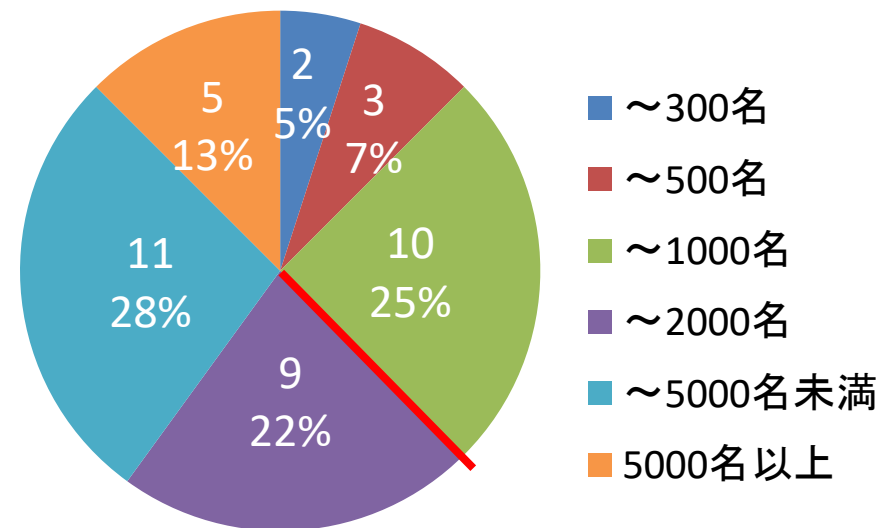
アンケート2025

対象62社中、回答50社



アンケート2021

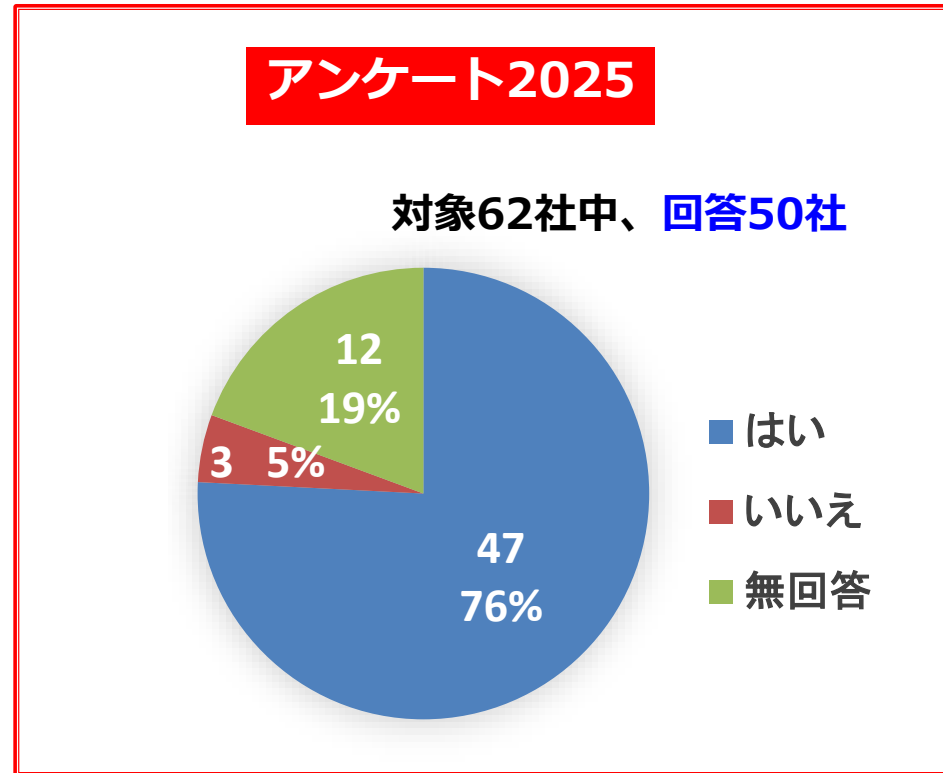
対象72社中、回答40社



- 2021年調査から増えた10社の内訳は、従業員1000名以下の企業が8社、従業員1000名を超える企業が2社である。

1. 回答企業の属性 ②BIMの導入状況

■ BIM導入の回答を得た企業は2021年調査から7社増えて47社（76%）に



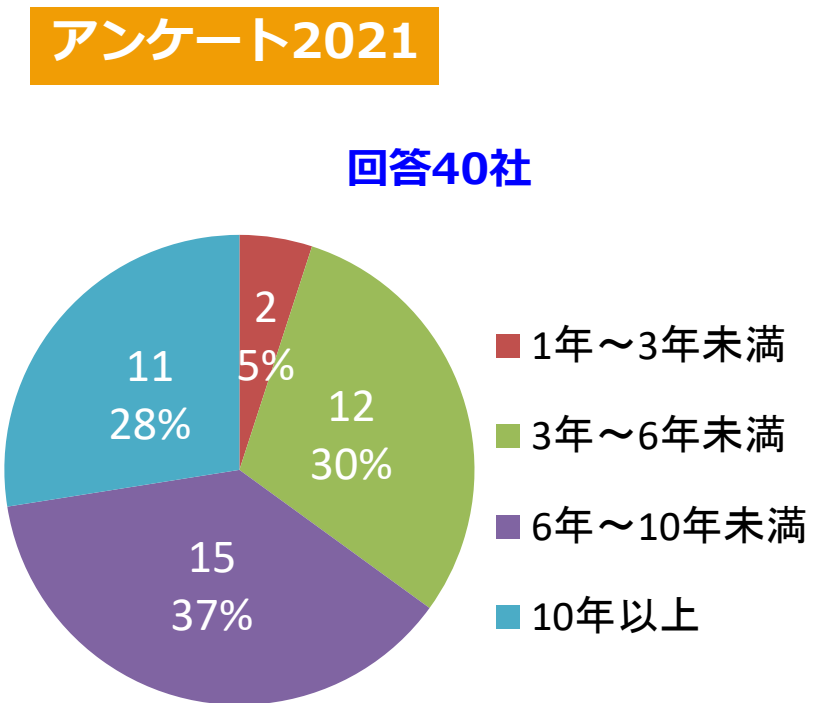
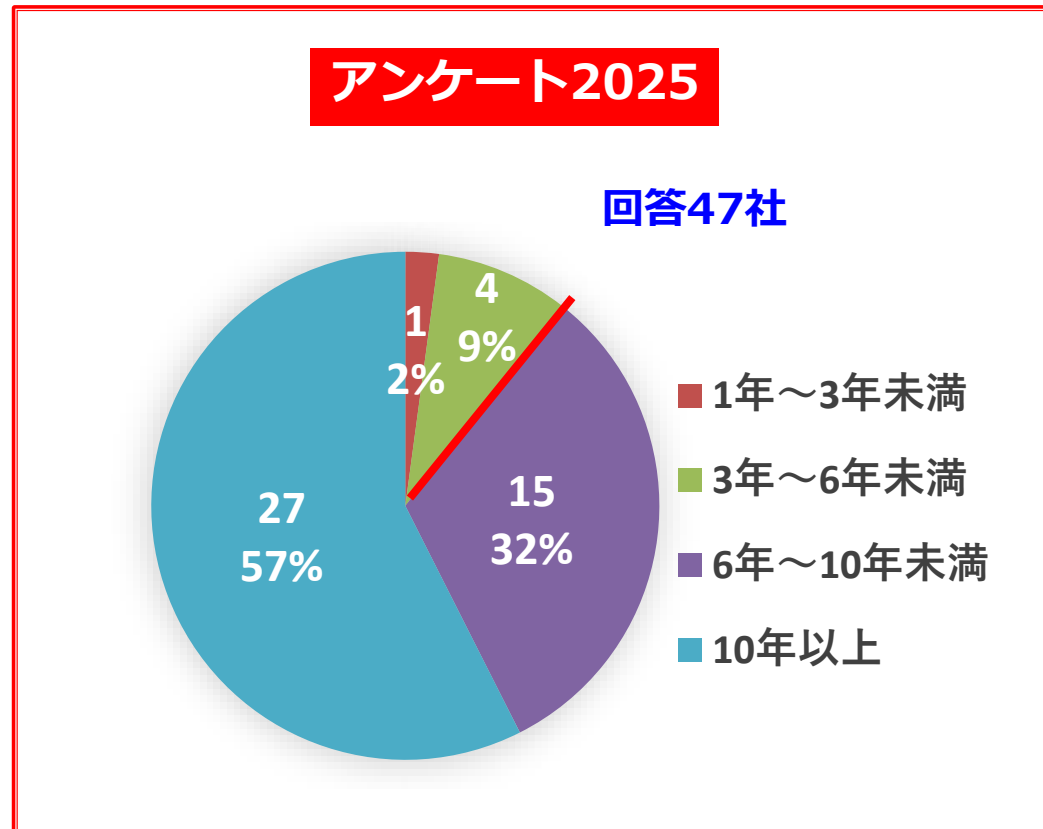
アンケート2021

対象72社中、回答40社

- 導入していない企業は3社あり。
- 以降の設問については、2025年調査でBIM導入済みの47社と2021年又は2023年調査で導入済みの企業との比較を行う（2023年調査からの追加項目あり）。

1. 回答企業の属性 ③BIMの導入期間

■ BIM導入6年以上の企業は42社で、2021年から全社が継続していることが伺われる



• BIM導入企業の89%が導入期間6年以上に至っている。

アンケート結果の集計・分析－2

1. 回答企業の属性

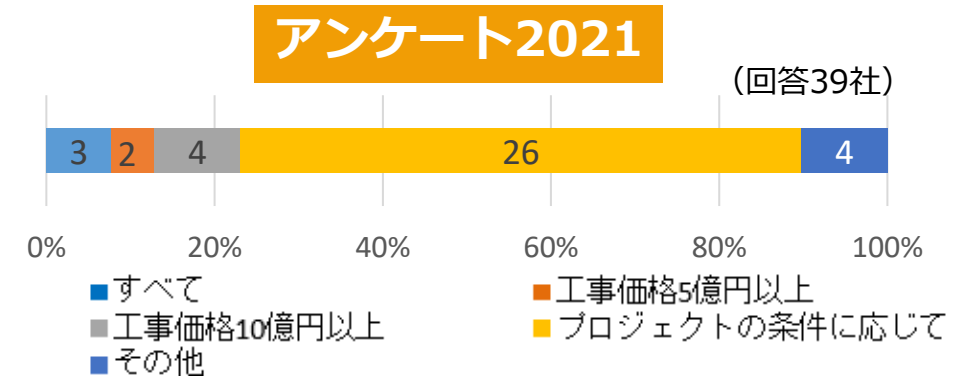
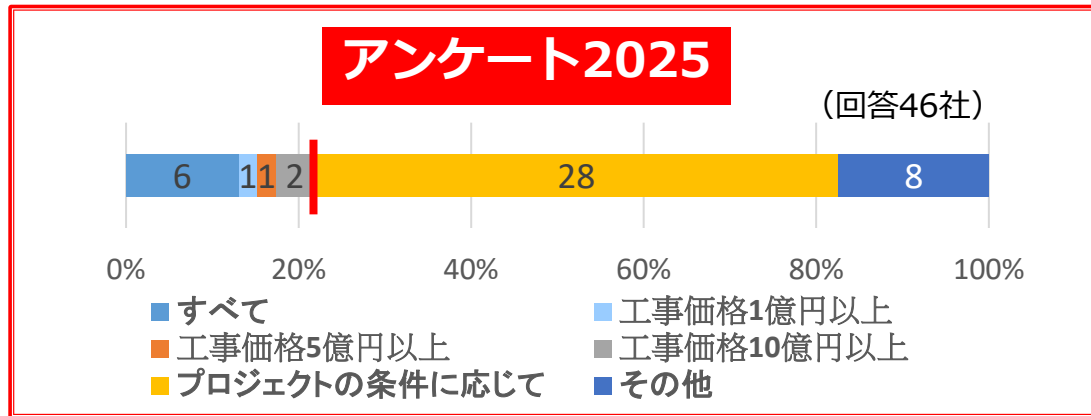
2. BIM推進の方針

- ① BIM適用案件の選定方法
- ② 標準となるBIMワークフロー及び主たるデータ運用方法（方針）
- ③ 使用しているBIM関連ツール

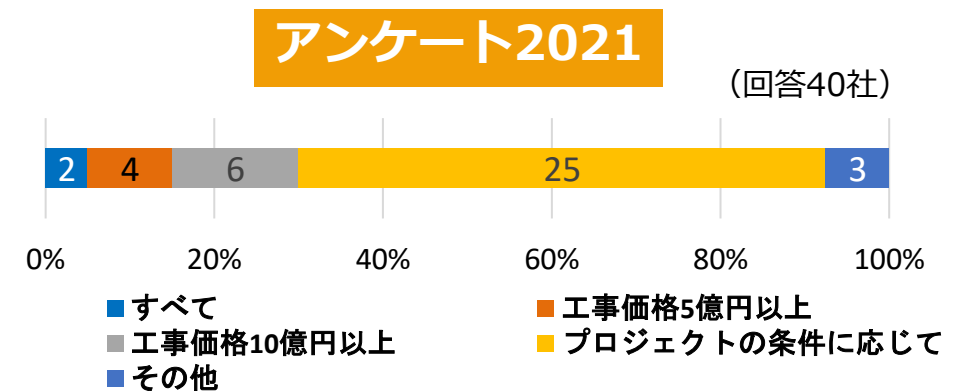
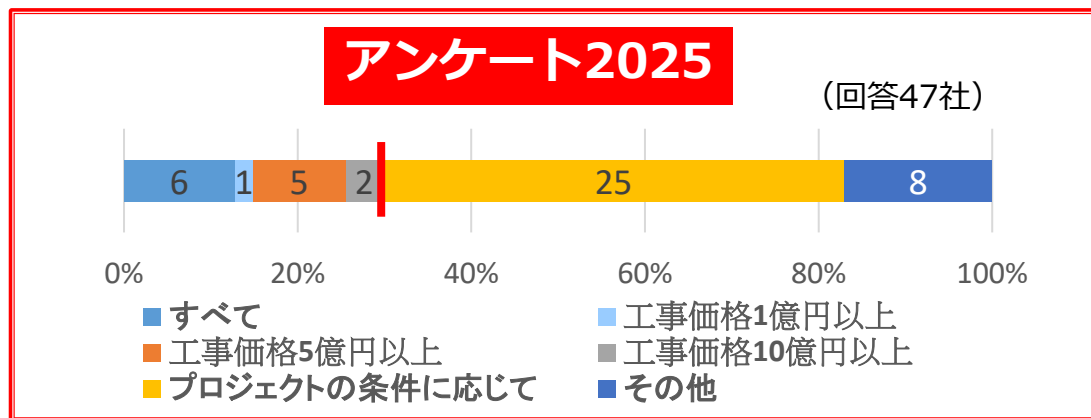
2. BIM推進の方針 ①BIM適用案件の選定方法

■ 2021年調査同様、プロジェクト条件に応じた適用が多い

設計



施工



• 全て又は一定以上の工事価格のプロジェクトを適用対象としているのは、設計で22%、施工で30%である。

2. BIM推進の方針 ①BIM適用案件の選定方法

その他 (アンケート自由記載より)

- 【設計】**
- 特殊形状である建築物、施工困難を有する建築物を選定。
 - 用途として清掃工場、大型物流倉庫、構造として鉄骨造
 - 案件の規模、案件担当者の技量
 - RC構造部分の配筋納まりはすべての案件でBIMモデル化し、納まり検討を実施。
 - 工事価格5,000万円以下、改修工事、プレハブ建屋の工事は除外。
 - 小規模工事・改修工事を除く新築工事全般適用。
 - 建物用途、規模、発注者等を総合的に判断。
 - 試行段階のため、難易度が低い案件を選定。
 - 未だ取り組みスキーム構築中につき、限定的なテスト物件と担当者が選択した物件に適用。
 - 工事価格に関わらず、事業主要望仕様や当社取組体制の状況による。
 - 設計者の意向による。
 - 建物用途・目的用途による。
 - 設計の期間、建物形状、施主要望などの要因により対応。
 - 発注者要求事項や社会的課題に対する活用効果に応じて適用。
 - 注力案件
 - 現状、設計段階では対応していない。
 - BIMによる効率化が見込めないものは適用していない。
 - BIMを習得した者が担当した案件
 - 担当者による
 - 設計施工案件で人手がある時
 - 明確な基準はなく、都度判断。

2. BIM推進の方針 ①BIM適用案件の選定方法

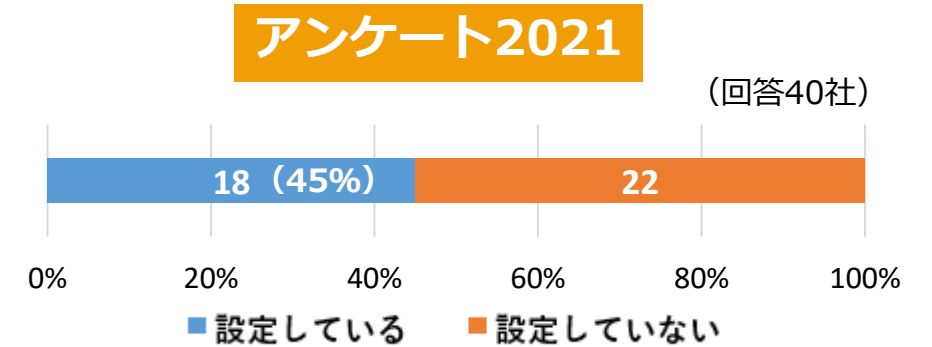
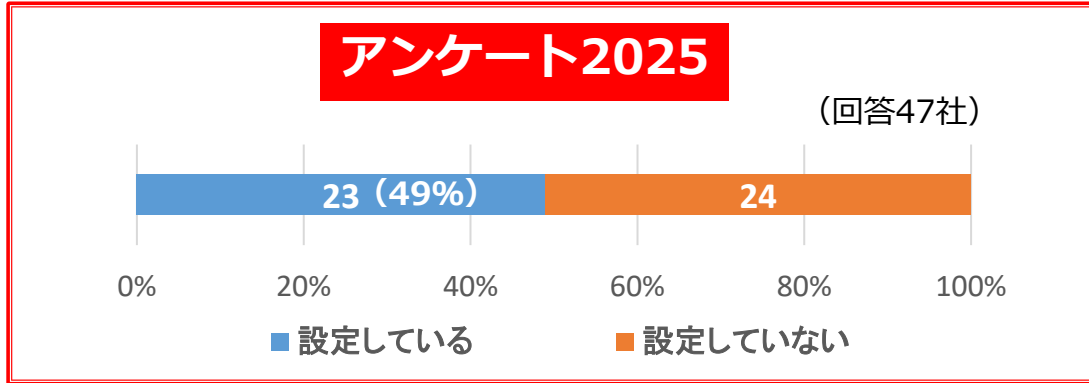
その他 (アンケート自由記載より)

- 【施工】**
- 主に地下躯体工事における配管や配筋の干渉確認のために作成。あとは特殊な構造や複雑な形状の建物において可視化や不具合箇所の抽出のために作成。
 - 用途、難易度、作業所要望
 - 作業所より施工BIM適用の依頼があった場合、適用を実施。
 - 設計施工案件および設計施工案件以外の特殊工事案件
 - 建物用途、規模、施工条件等を総合的に判断。
 - 自社設計施工案件で、工期及び人員、請負金額に余裕があるもの
 - 試行段階のため、価格では決定しない。
 - 新築物件、JR営業線近接工事等の施工条件が特殊な物件
 - 目的用途による。
 - BIMプロジェクト案件（事前に指定による案件）、設計BIM活用案件、現場要望、施主要望などの要因により対応。
 - 発注者の要望、複雑な形状の建物
 - 工事が輻輳し、施工ステップを可視化して検討したい案件
 - 金額にかかわらず新築物件全て
 - 工事価格3億円以上
 - 工事価格での条件はなく、設計施工案件、作業所からの要望、施工難易度の高いものを対象としている。
 - プロジェクト側の要望、本部判断による選択、支店判断による選択等による。支店によっては新築全案件という場合もある。
 - BIMを使える者に時間的余裕があれば躯体、足場モデルを作成。
 - 生コンの拾いのみなら全て
 - 明確な基準はなく、都度判断。
 - 管轄部署、工事担当者から依頼を受けて対応している。

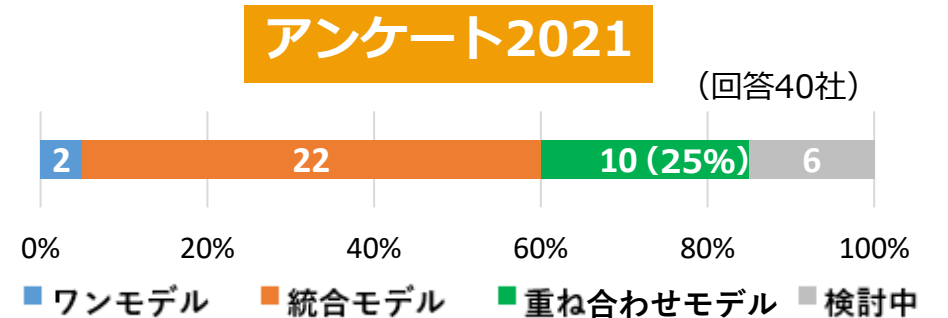
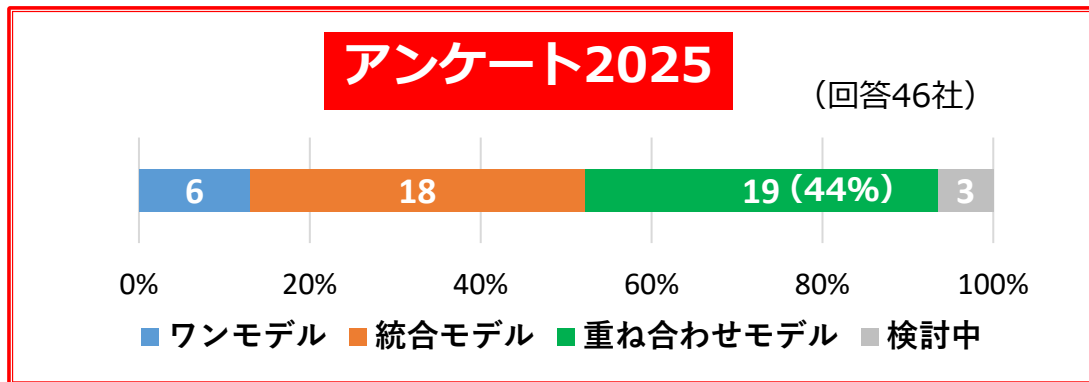
2. BIM推進の方針 ①BIMワークフロー及びデータ運用方法

■ 標準となるBIMワークフローの設定は2021年調査から増えてほぼ半数（49%）に

標準となるBIMワークフロー



主たるデータ運用方法（方針）



• データ運用方法は、**重ね合わせモデル**の運用が前回から約2倍に増えて統合モデルとほぼ同数になった。

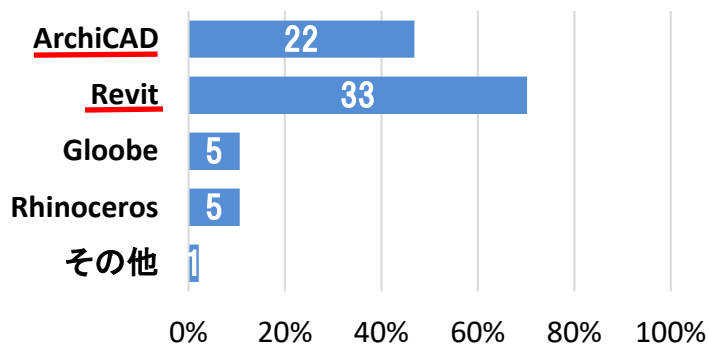
2. BIM推進の方針 ③使用しているBIM関連ツール

■ 使用する職能でRevitとRebroの割合が60%以上で、Archicadは50%前後である

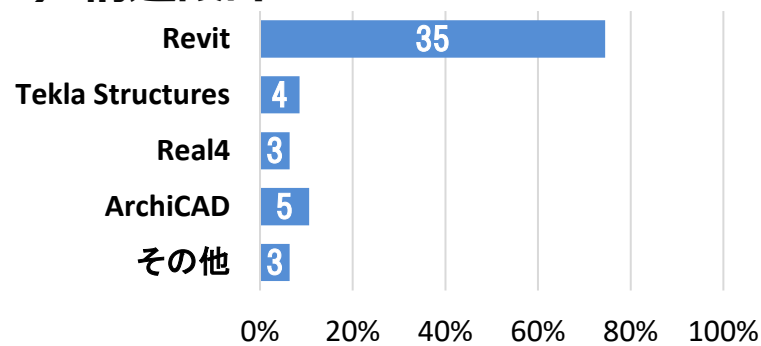
設計

(回答47社、複数回答可)

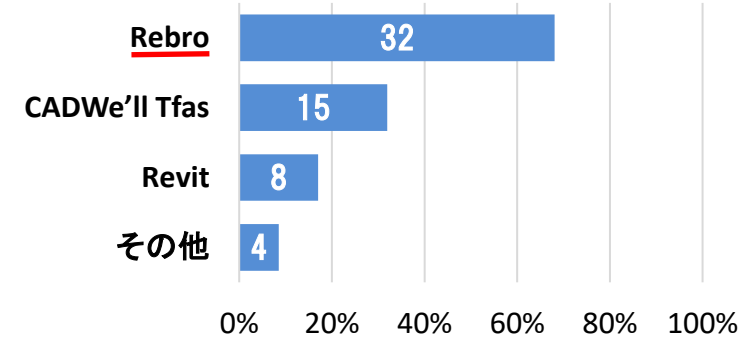
1) 建築設計



2) 構造設計



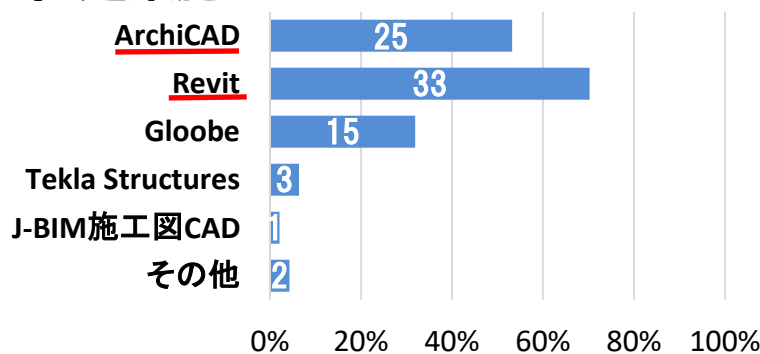
3) 設備設計



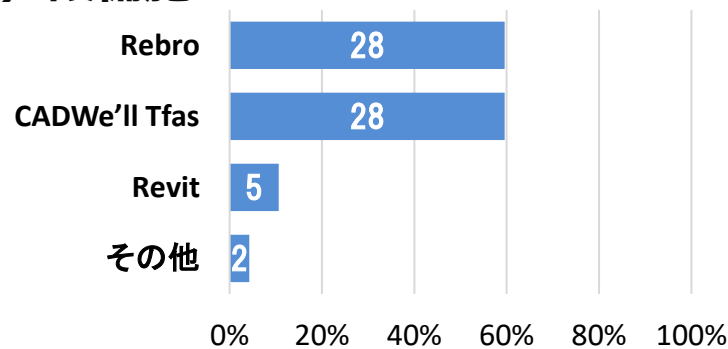
施工

(回答47社、複数回答可)

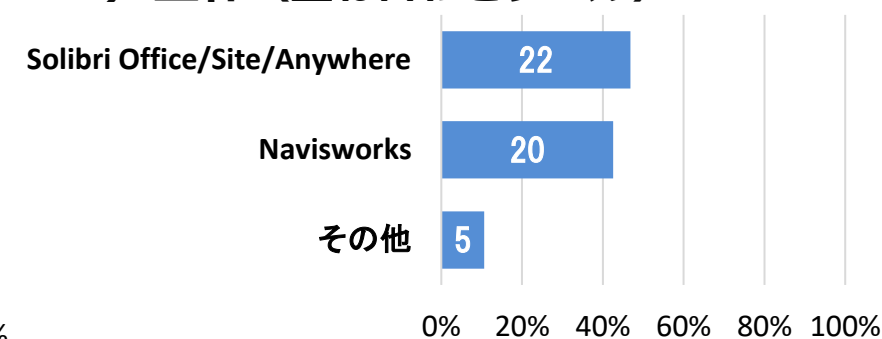
4) 建築施工



5) 設備施工



6) 全体（重ね合わせツール）



- 設備施工ではRebroとCADWe'll Tfasが同じ使用割合である。
- 重ね合わせツールのSolibriとNavisworksの使用割合はほぼ同等で50%弱である。

1. 回答企業の属性

2. BIM推進の方針

3. BIM推進の整備状況

【人材の整備状況】

- ① BIM推進組織及びBIM運用支援組織
- ② 作業所長の参画時期及びBIMマネージャーの配置
- ③ BIMモデラー
- ④ BIM教育

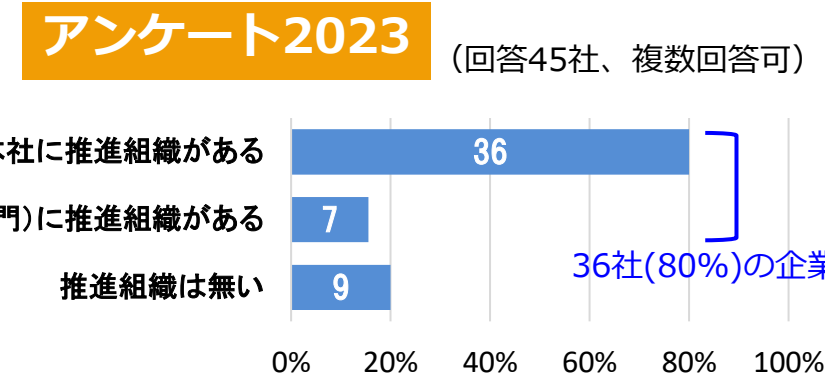
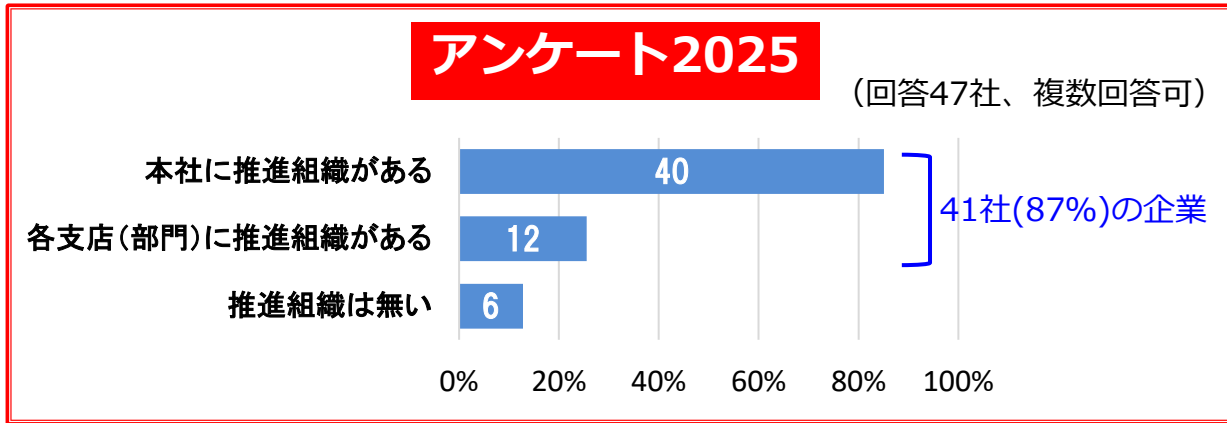
【道具の整備状況】

- ⑤ BIM実行計画書
- ⑥ モデル作成のマニュアル又はガイド
- ⑦ テンプレート
- ⑧ 共通データ環境

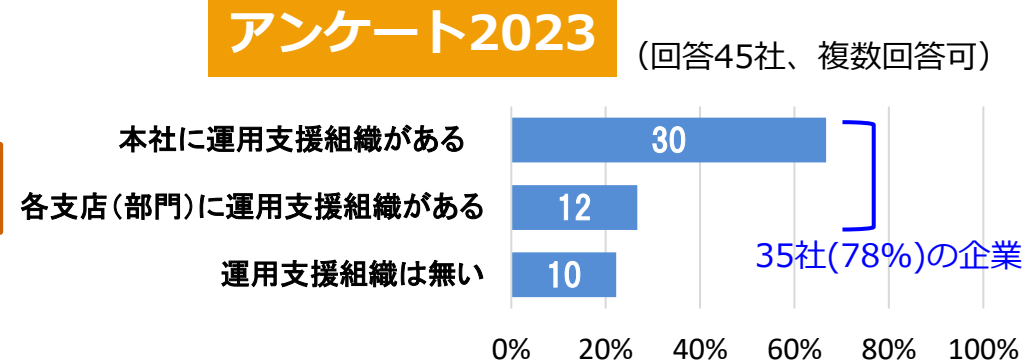
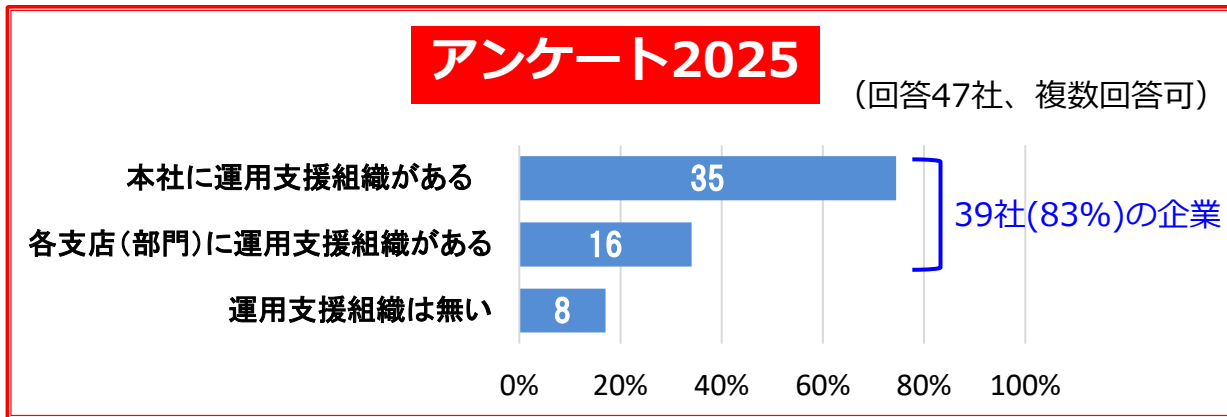
3. BIM推進の整備状況 ① BIM推進組織及び運用支援組織

■ BIM推進組織がある企業は87%で、2023年調査から増加

BIM推進組織



BIM運用支援組織



• 83%の企業はBIM運用支援組織がある。

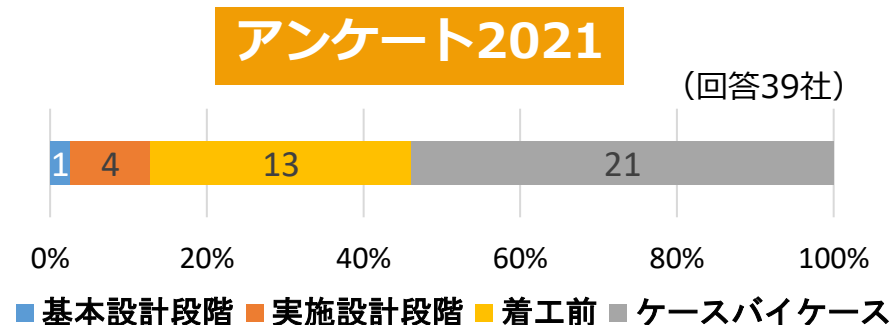
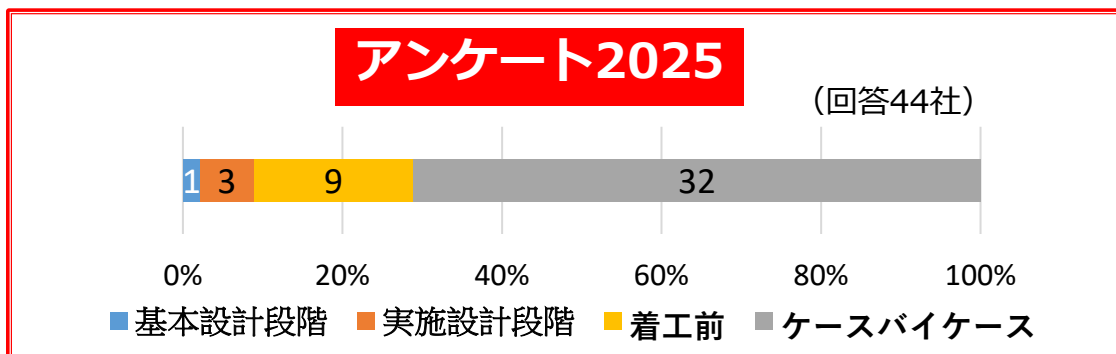
3. BIM推進の整備状況

②作業所長の参画時期及びBIMマネージャーの配置

■ BIMマネージャーは2021年調査から配置無しが増加

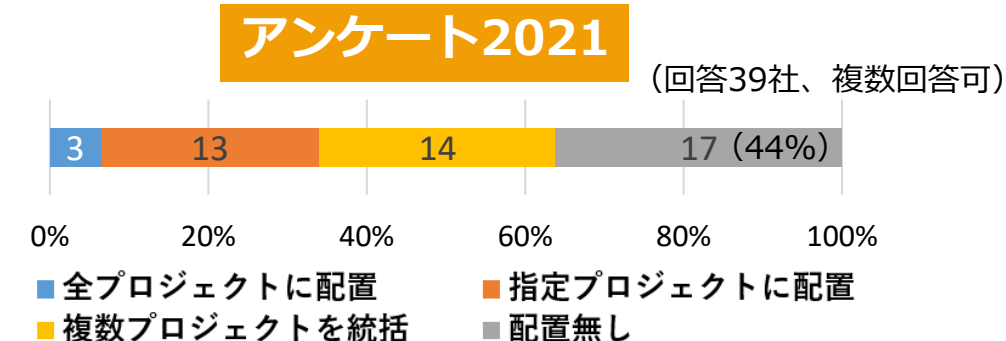
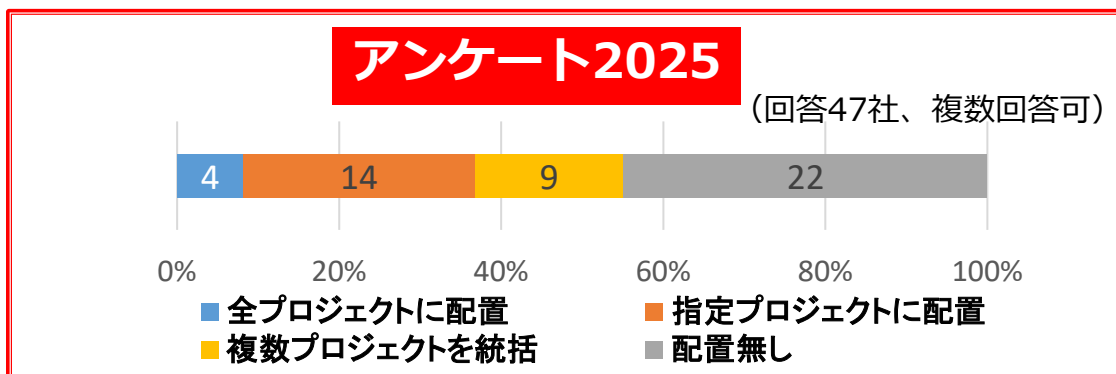
作業所長の参画時期

(設計施工一貫のプロジェクト)



BIMマネージャーの配置

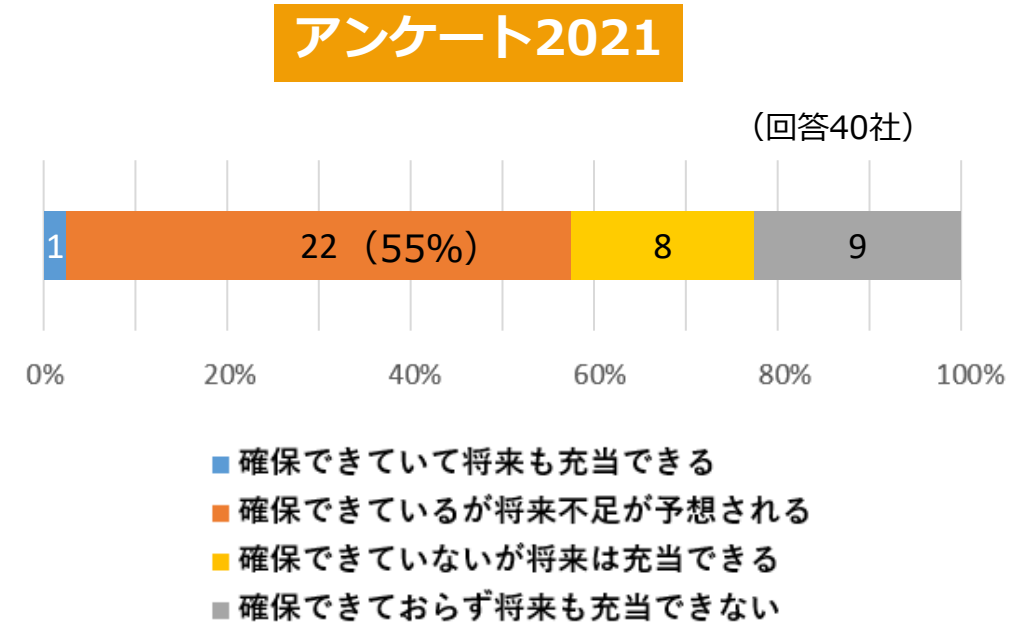
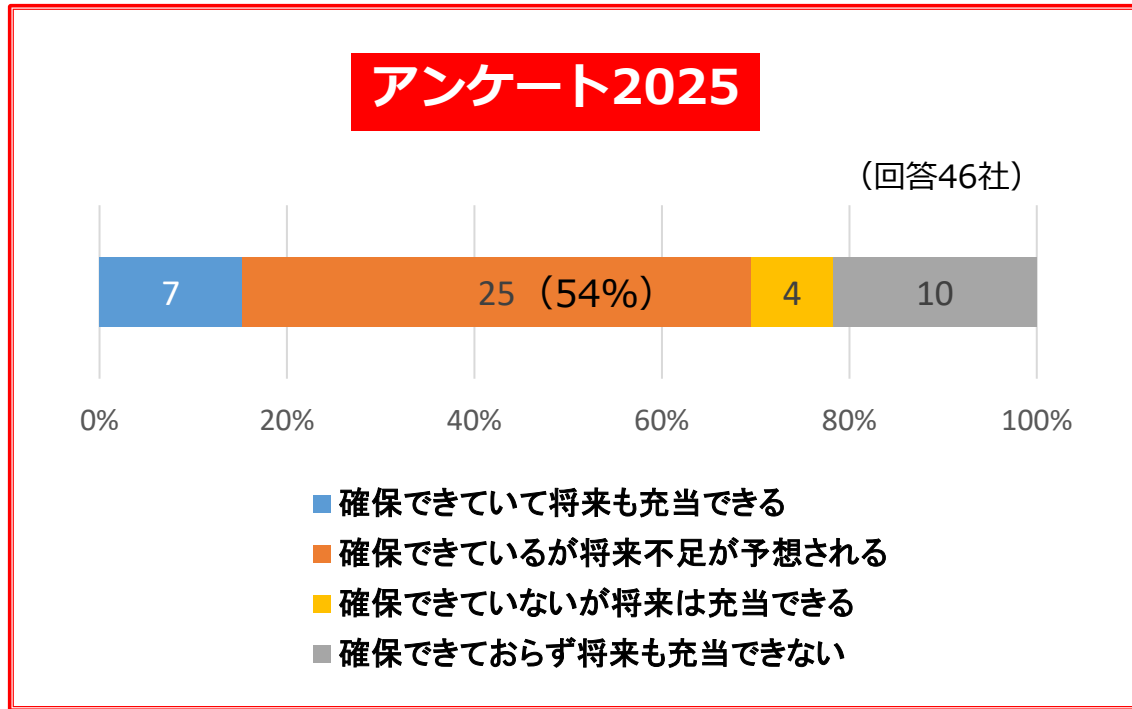
(53%)



- 作業所長の参画時期は着工前又はケースバイケースがほとんどで、しくみとして設計段階での配置を定めている企業が限られる傾向は変わらない。
- BIMマネージャーは全プロジェクトでの配置は限られる。

3. BIM推進の整備状況 ③BIMモデラー

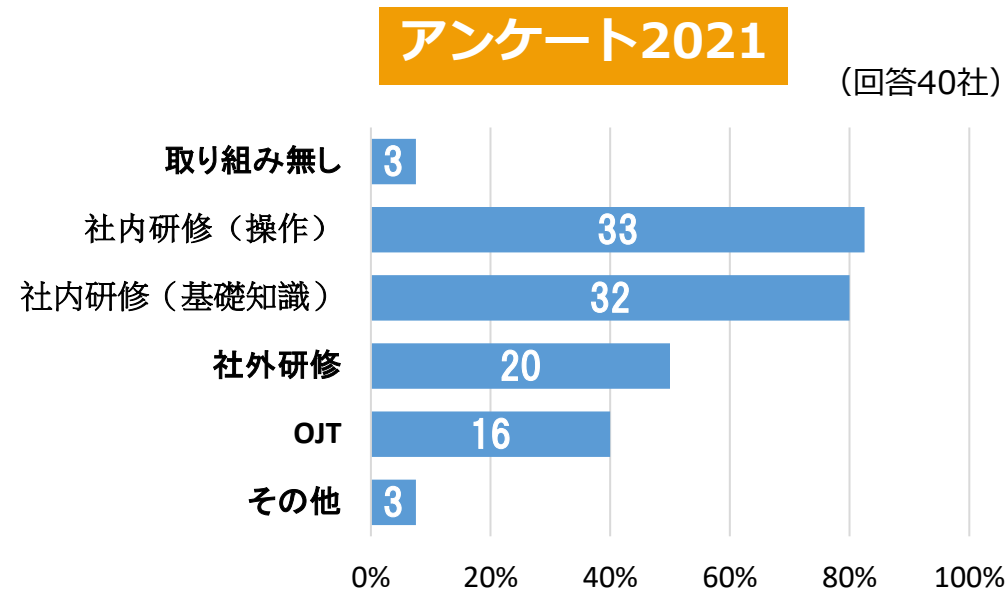
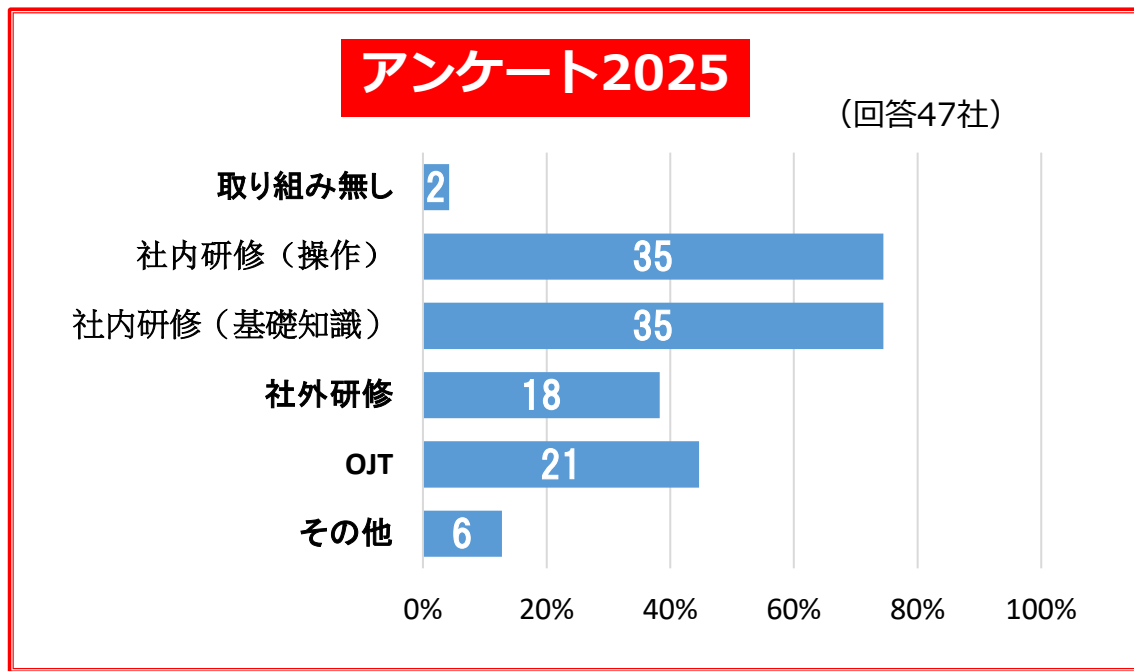
■ 2021年調査同様、確保できているが将来不足を予想が過半数（54%）



・ 確保できていて将来も充当できると回答した企業が2021年調査から増加している。

3. BIM推進の整備状況 ④BIM教育

■ 社内研修は2021年調査同様の実施状況



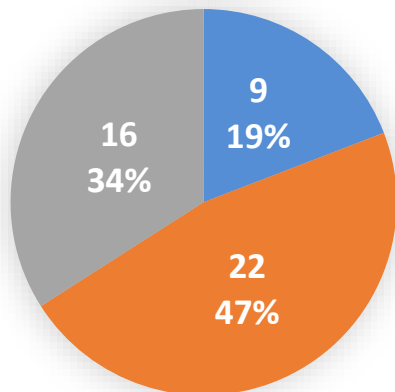
• OJTが2021年調査から増加している。

3. BIM推進の整備状況 ⑤BIM実行計画書

■ 全プロジェクトでの作成・運用は2021年調査から19%に増加

アンケート2025

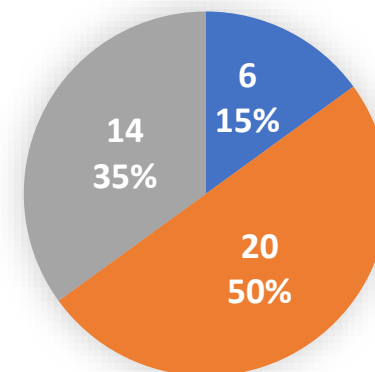
(回答47社)



- 全プロジェクトで作成している
- 指定プロジェクトで作成している
- 作成していない

アンケート2021

(回答40社)



- 全プロジェクトで作成している
- 指定プロジェクトで作成している
- 作成していない

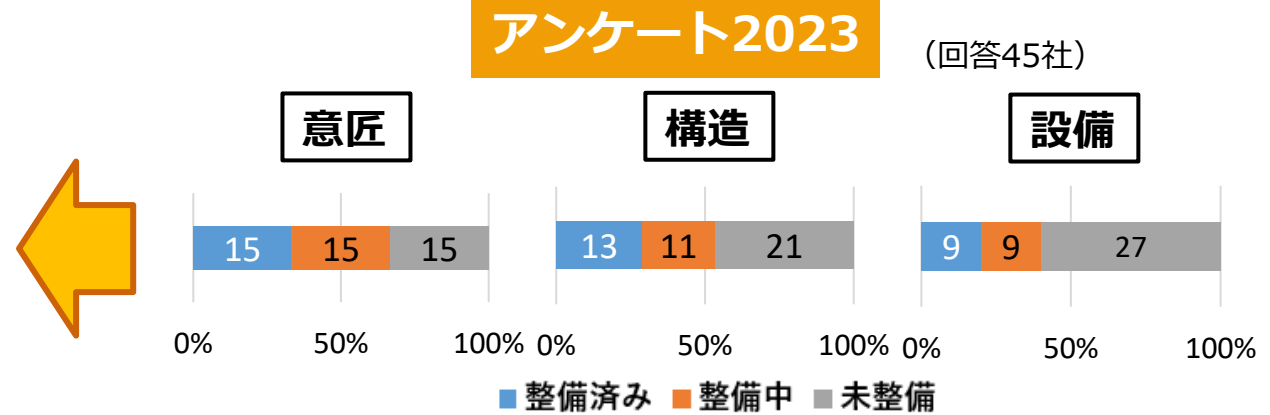
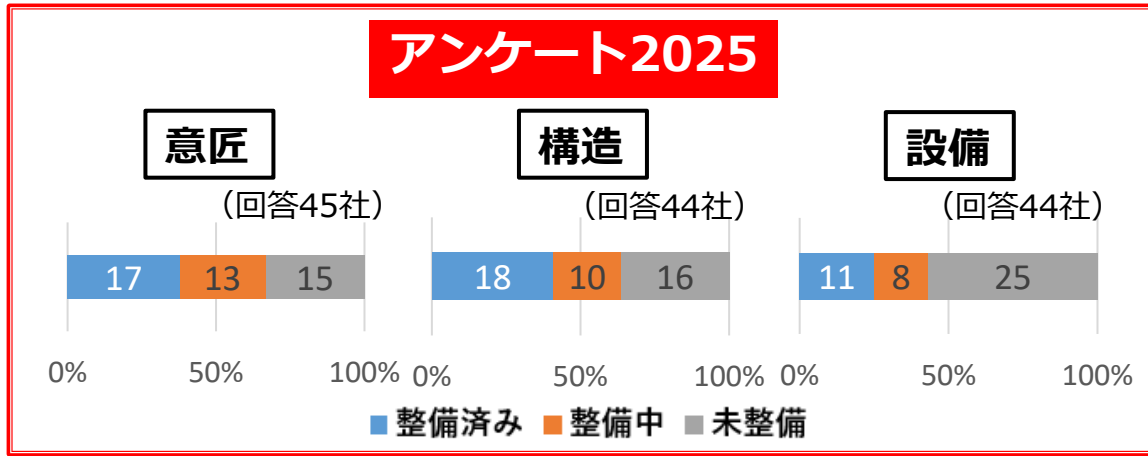


• 34%の企業はBIM実行計画書を作成していない。

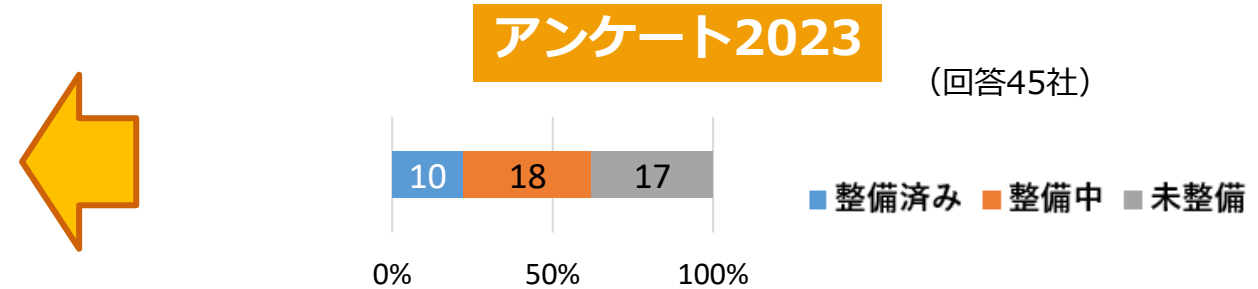
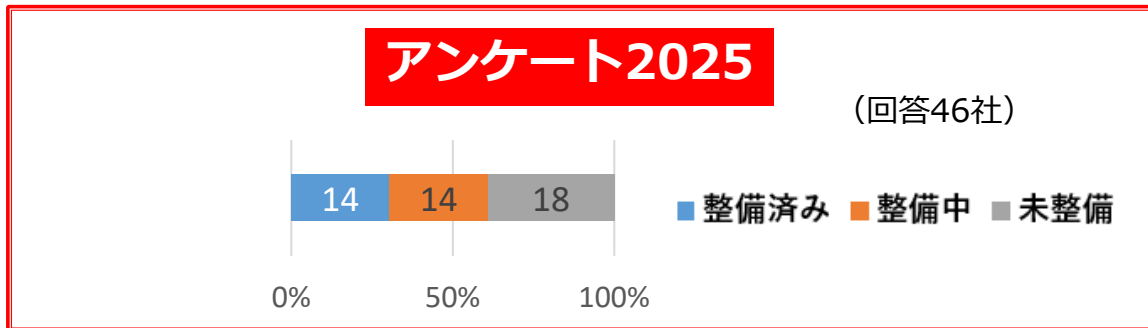
3. BIM推進の整備状況 ⑥モデル作成のマニュアル又はガイド

■ 設計・施工とも2023年調査から整備が進んでいる

設計モデル作成のマニュアル又はガイド



施工モデル作成のマニュアル又はガイド



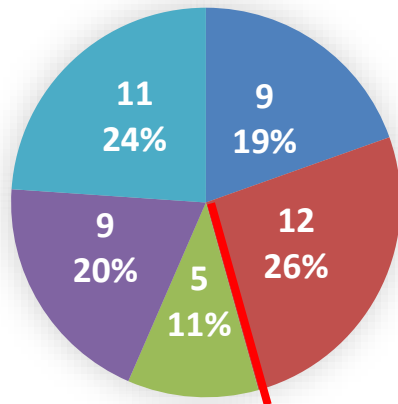
- 構造設計で整備済みの企業が前回調査から増えている。

3. BIM推進の整備状況 ⑦テンプレート

■ 2023年調査から増加して、45%の企業が整備済み

アンケート2025

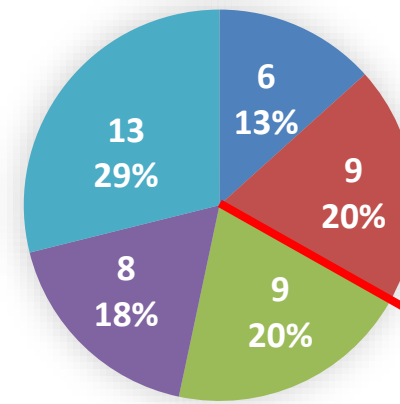
(回答46社)



- 整備済み(設計と施工で共通のテンプレート)
- 整備済み(設計と施工で別のテンプレート)
- 整備中(設計と施工で共通のテンプレート)
- 整備中(設計と施工で別のテンプレート)
- 未整備

アンケート2023

(回答45社)



- 整備済み(設計と施工で共通のテンプレート)
- 整備済み(設計と施工で別のテンプレート)
- 整備中(設計と施工で共通のテンプレート)
- 整備中(設計と施工で別のテンプレート)
- 未整備

• 30%の企業が設計と施工で共通のテンプレートを整備済みまたは整備中

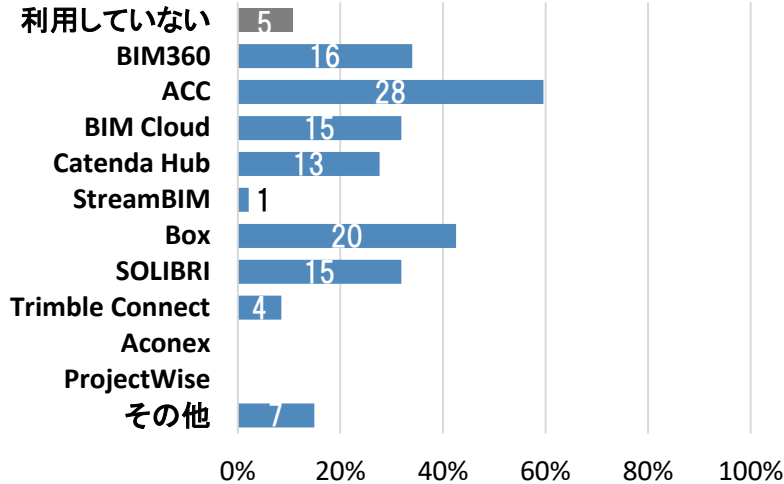
3. BIM推進の整備状況 ⑧共通データ環境

■ 主な利用目的はBIMモデルのデータ共有・同時編集、最新情報の一元管理

利用している共通データ環境（CDE）サービス（ツール）

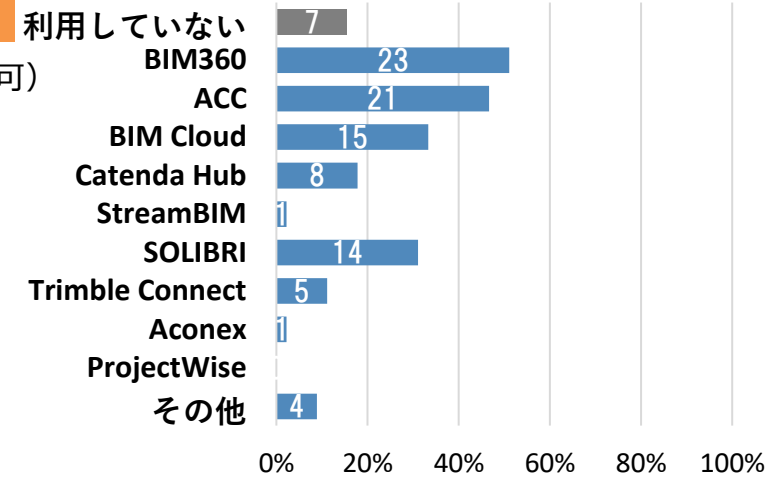
アンケート2025

(回答47社、複数回答可)



アンケート2023

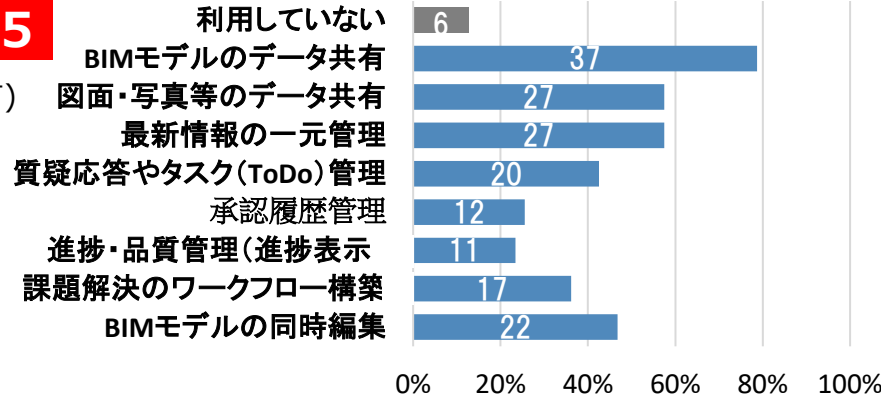
(回答45社、複数回答可)



共通データ環境（CDE）の利用目的

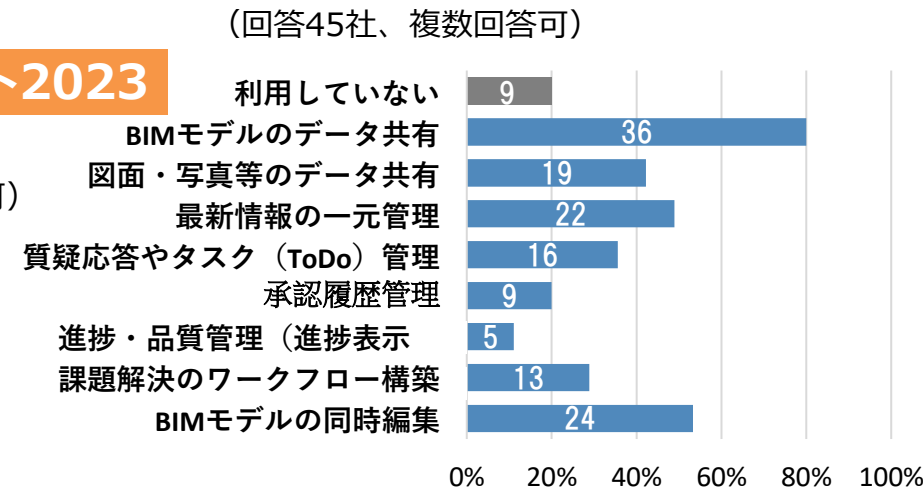
アンケート2025

(回答47社、複数回答可)



アンケート2023

(回答45社、複数回答可)



・ CDEツールはACCとBoxの使用率が高い。

1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況

4. 設計におけるBIM活用状況

- ① プロジェクトにおける活用度合い
- ② 意匠設計での活用度合い
- ③ 構造設計での活用度合い
- ④ 設備設計での活用度合い
- ⑤ 積算（見積部門）での活用度合い
- ⑥ 設計施工間での連携の度合い

4. 設計におけるBIM活用状況

■ プロジェクトにおけるBIMの活用・展開度合いを定量的に明示

BIM展開状況の定量把握

※後述の「5. 施工におけるBIM活用状況」「6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況」「7. 改修工事における活用状況」を含む

- <母数>
- 設計： 2024年11月～2025年10月に着工した工事価格1億円以上の設計施工の新築工事プロジェクト数
 - 施工及び引渡し・維持管理・運用： 2024年11月～2025年10月に竣工した工事価格1億円以上の新築工事プロジェクト数
 - 改修工事： 2024年11月～2025年10月に竣工した全ての改修工事プロジェクト数

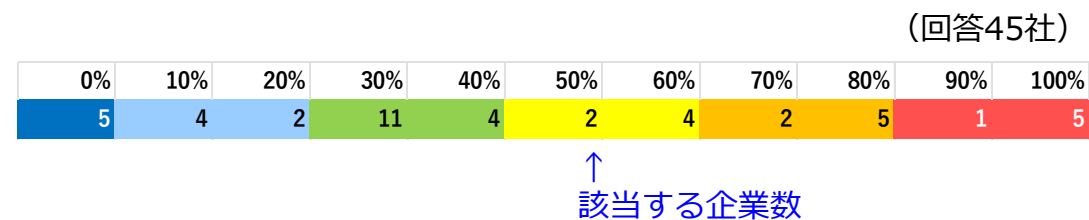
<設問例>

Q5-1 プロジェクトでの活用状況(設計でBIMを活用しているプロジェクトの割合)について、お答えください。

<input type="radio"/> 未実施
<input type="radio"/> 10%
<input type="radio"/> 20%
<input type="radio"/> 30%
<input type="radio"/> 40%
<input type="radio"/> 50%
<input type="radio"/> 60%
<input type="radio"/> 70%
<input type="radio"/> 80%
<input type="radio"/> 90%
<input type="radio"/> 100%

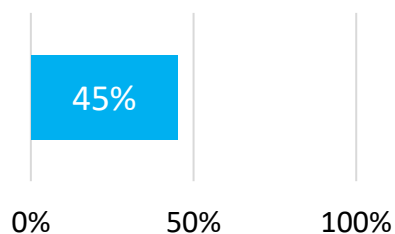
<回答集計・分析例>

【PJの活用度合いの分布】



【平均活用率の算定】

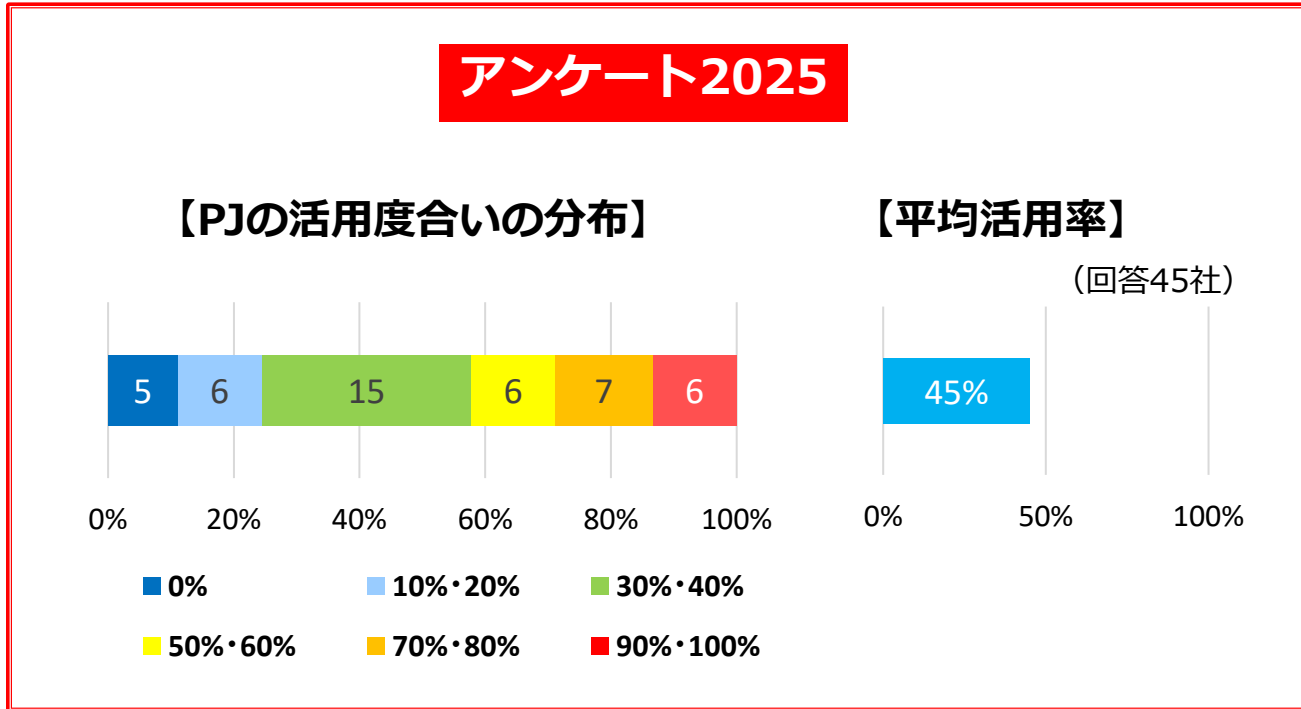
10%区分の活用レベルごとに該当企業数の比率を乗じて合算



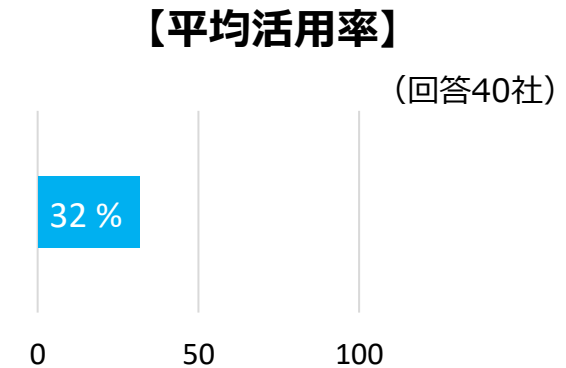
$$(5社 \times 0\% + 4社 \times 10\% + 2社 \times 20\% + 11社 \times 30\% + 4社 \times 40\% + 2社 \times 50\% + 4社 \times 60\% + 2社 \times 70\% + 5社 \times 80\% + 1社 \times 90\% + 5社 \times 100\%) \div 45社 = 45\%$$

4. 設計におけるBIM活用状況 ①プロジェクトにおける活用度合い

■ 平均活用率は2021年調査の32%から45%に増加



アンケート2021



• BIMを活用しているプロジェクト数が30%又は40%の企業が最も多く、次に70%又は80%の企業が多い。

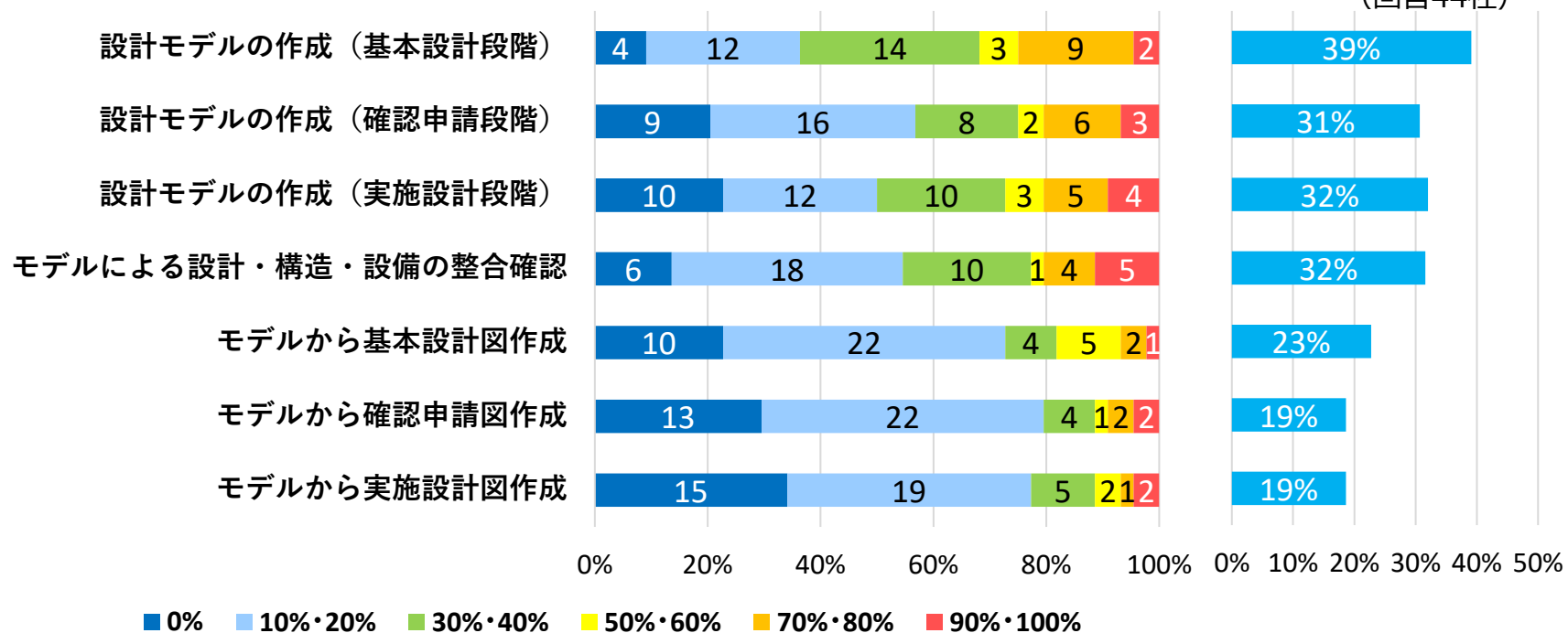
4. 設計におけるBIM活用状況

② 建築設計での活用度合い

■ 基本設計モデル作成は39%で2023年調査とほぼ同じ

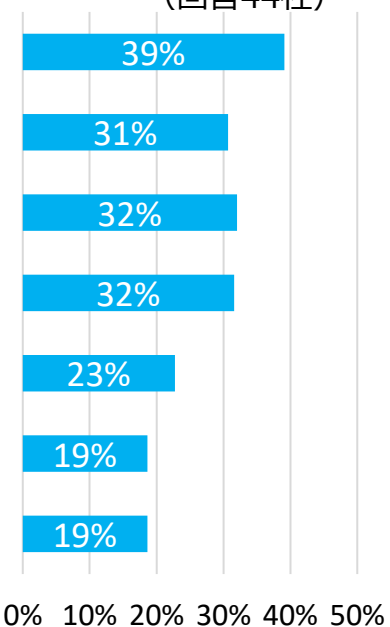
アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】



【平均活用率】

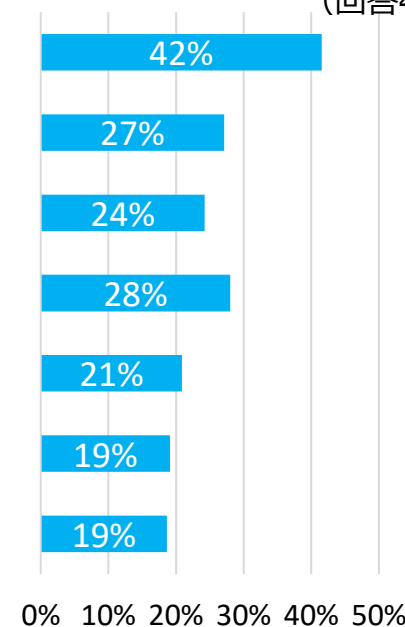
(回答44社)



アンケート2023

【平均活用率】

(回答45社)



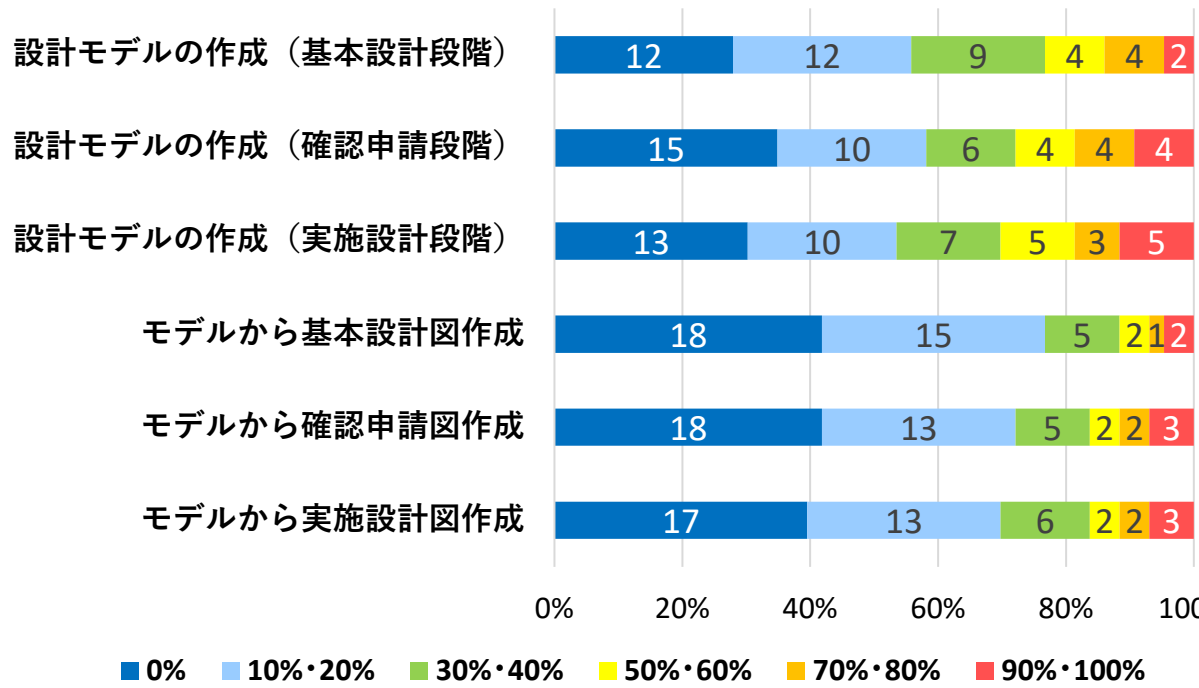
- 実施設計段階での設計モデル作成は32%と2023年調査から増加し、モデルから設計図作成はどの段階も前回とほぼ同じ20%前後である。

4. 設計におけるBIM活用状況 ③構造設計での活用度合い

■ 実施設計段階での設計モデル作成は32%と2023年調査から増加

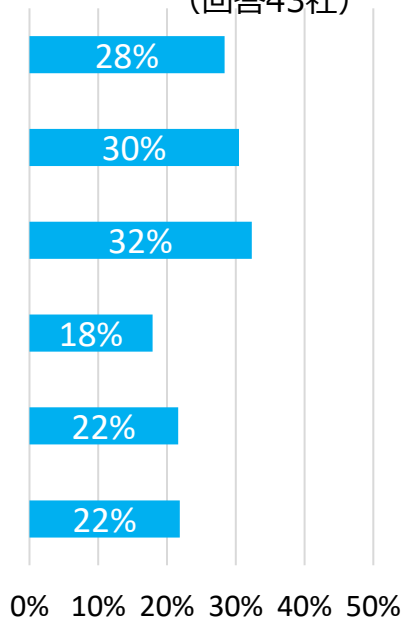
アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】



【平均活用率】

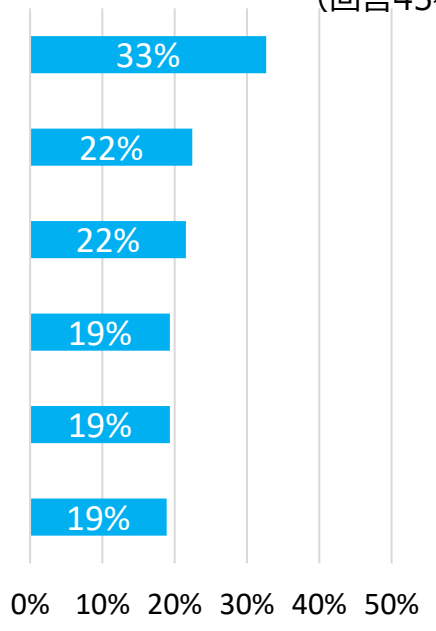
(回答43社)



アンケート2023

【平均活用率】

(回答45社)



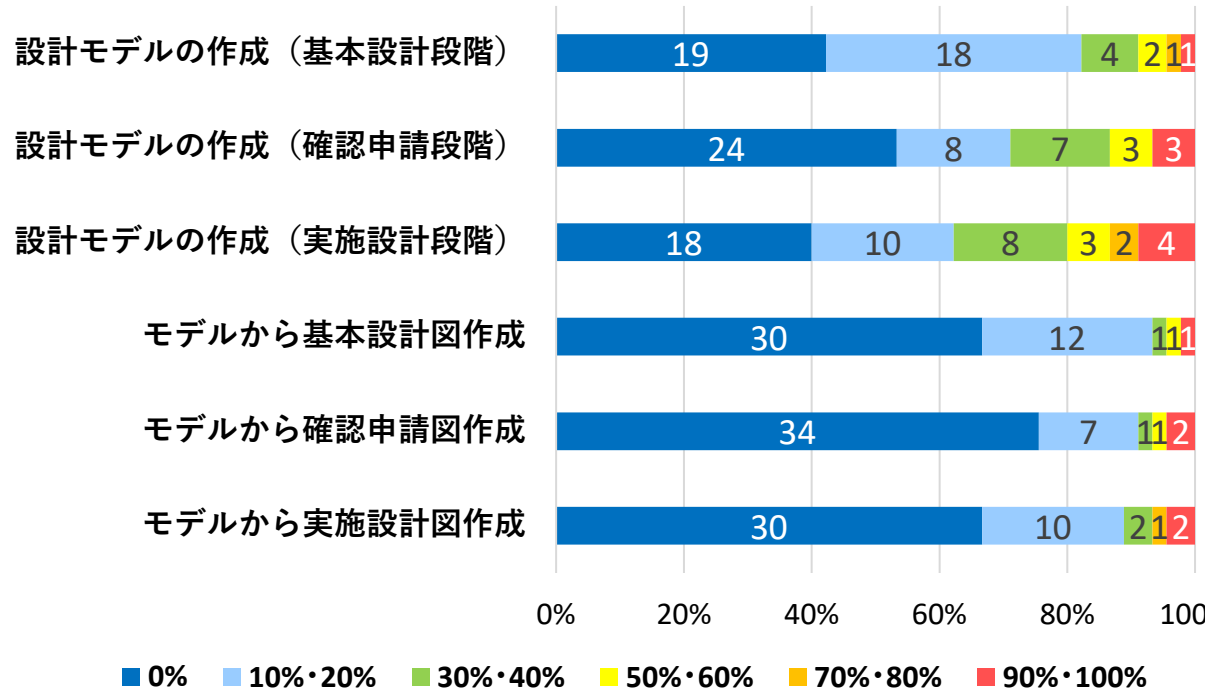
• 基本設計モデル作成は28%と2023年調査から少し減少し、モデルから設計図作成はどの段階も前回とほぼ同じ20%前後である。

4. 設計におけるBIM活用状況 ④設備設計での活用度合い

■ 実施設計段階での設計モデル作成は23%と2023年調査から増加

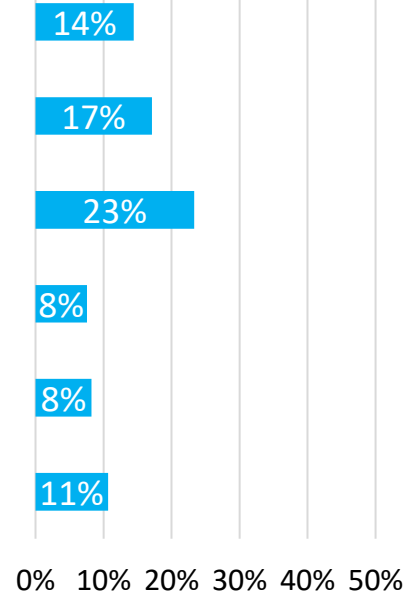
アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】



【平均活用率】

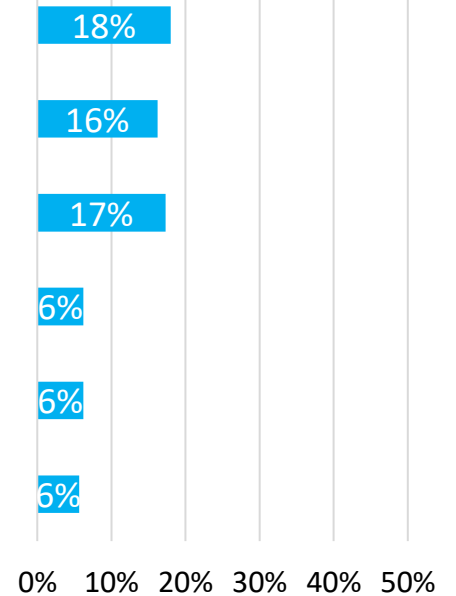
(回答45社)



アンケート2023

【平均活用率】

(回答45社)



- 基本設計モデル作成は14%と2023年調査から少し減少し、モデルから設計図作成はどの段階も前回から少し増えて10%前後である。

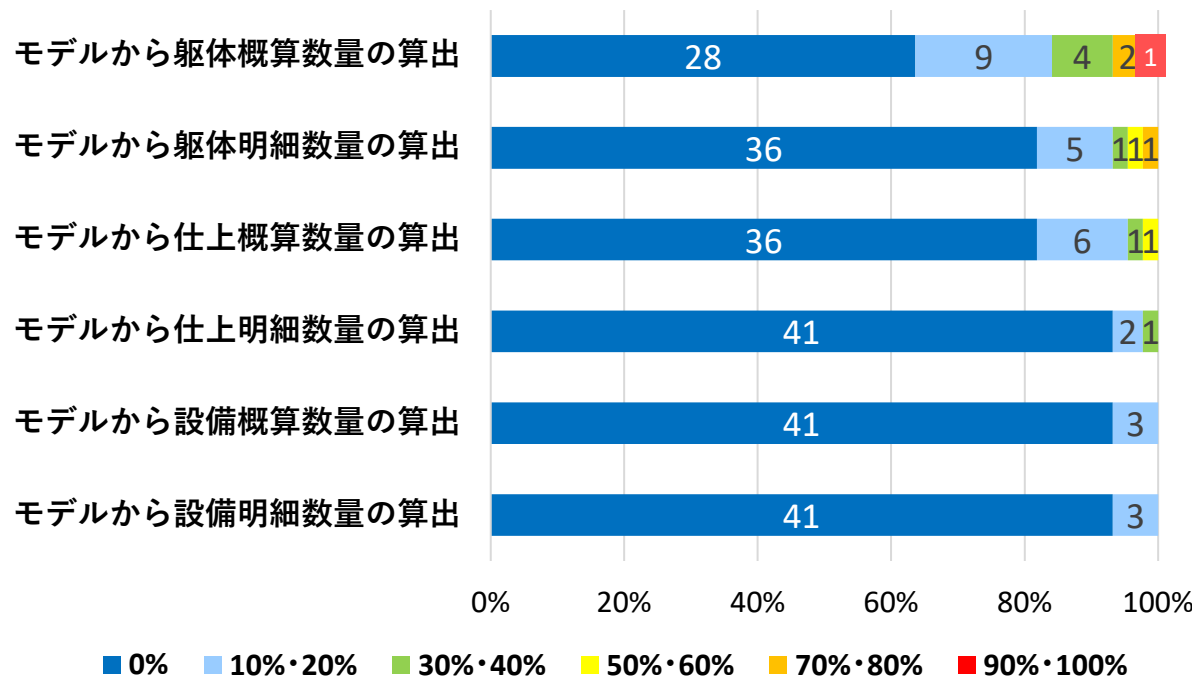
4. 設計におけるBIM活用状況

⑤積算（見積部門）での活用度合い

■ モデルから躯体概算数量の算出は11%、躯体明細数量の算出は5%で前回から減少

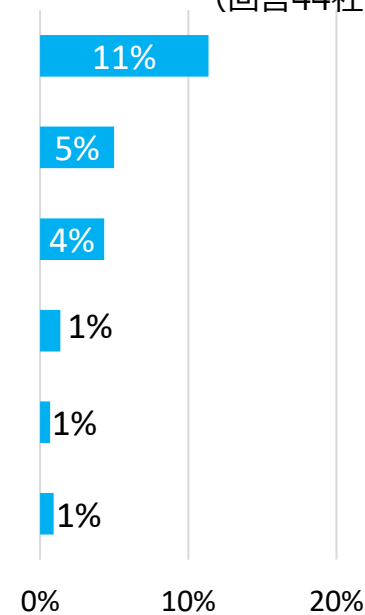
アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】



【平均活用率】

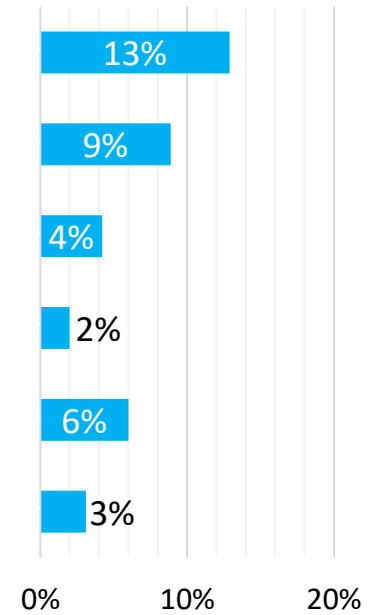
(回答44社)



アンケート2023

【平均活用率】

(回答45社)



・ モデルから仕上数量算出は2023年調査とほぼ同じで、設備数量算出は前回から減少している。

4. 設計におけるBIM活用状況

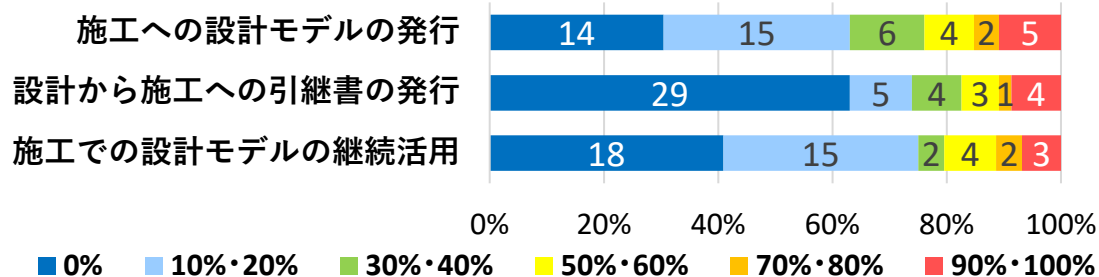
⑥ 設計施工間での連携の度合い

- 設計施工一貫ではモデル発行が27%に、施工での継続活用が21%に2021年調査から増加

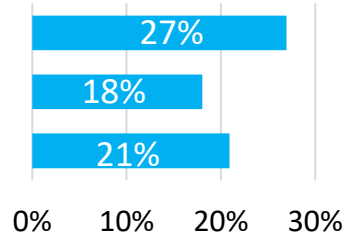
設計施工一貫

アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】 (回答46社)

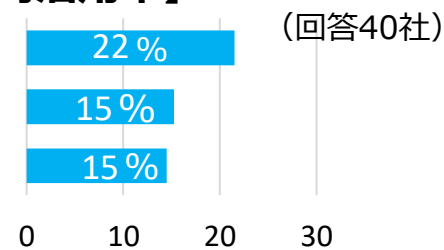


【平均活用率】



アンケート2021

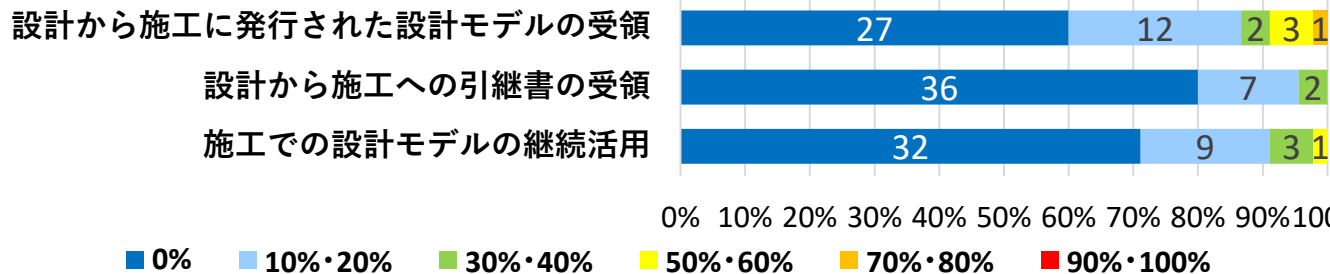
【平均活用率】



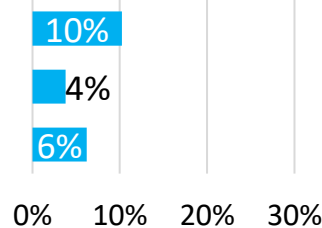
設計施工分離

アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】 (回答45社)

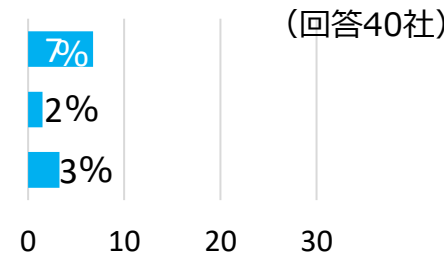


【平均活用率】



アンケート2021

【平均活用率】



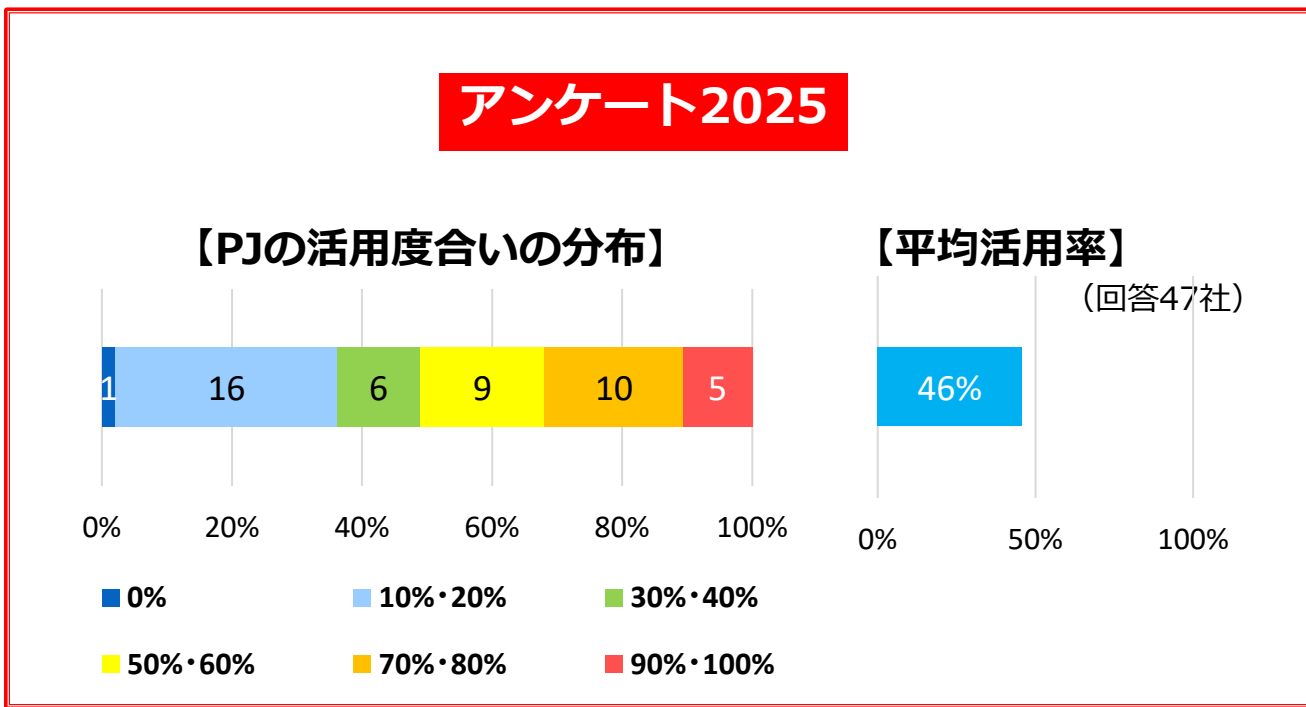
- ・ 設計施工分離ではモデル受領が10%に、施工での設計モデルの継続活用が6%に2021年調査から増加している。

1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況
4. 設計におけるBIM活用状況
- 5. 施工におけるBIM活用状況**
 - ① プロジェクトにおける活用度合い
 - ② 施工計画・事前検討での活用度合い
 - ③ 専門工事会社との連携状況
 - ④ 施工図作成での活用度合い
 - ⑤ 施工管理での活用度合い
 - ⑥ 施工での活用度合い

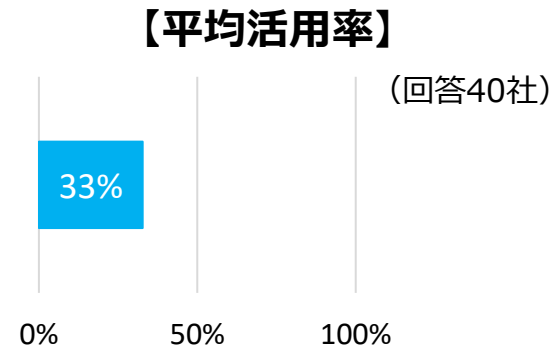
5. 施工におけるBIM活用状況

①プロジェクトにおける活用度合い

■ 平均活用率は2021年調査の33%から46%に増加



アンケート2021



• BIMを活用しているプロジェクト数が10%又は20%の企業が最も多く、次に70%又は80%の企業が多い。

5. 施工におけるBIM活用状況

② 施工計画・事前検討での活用度合い

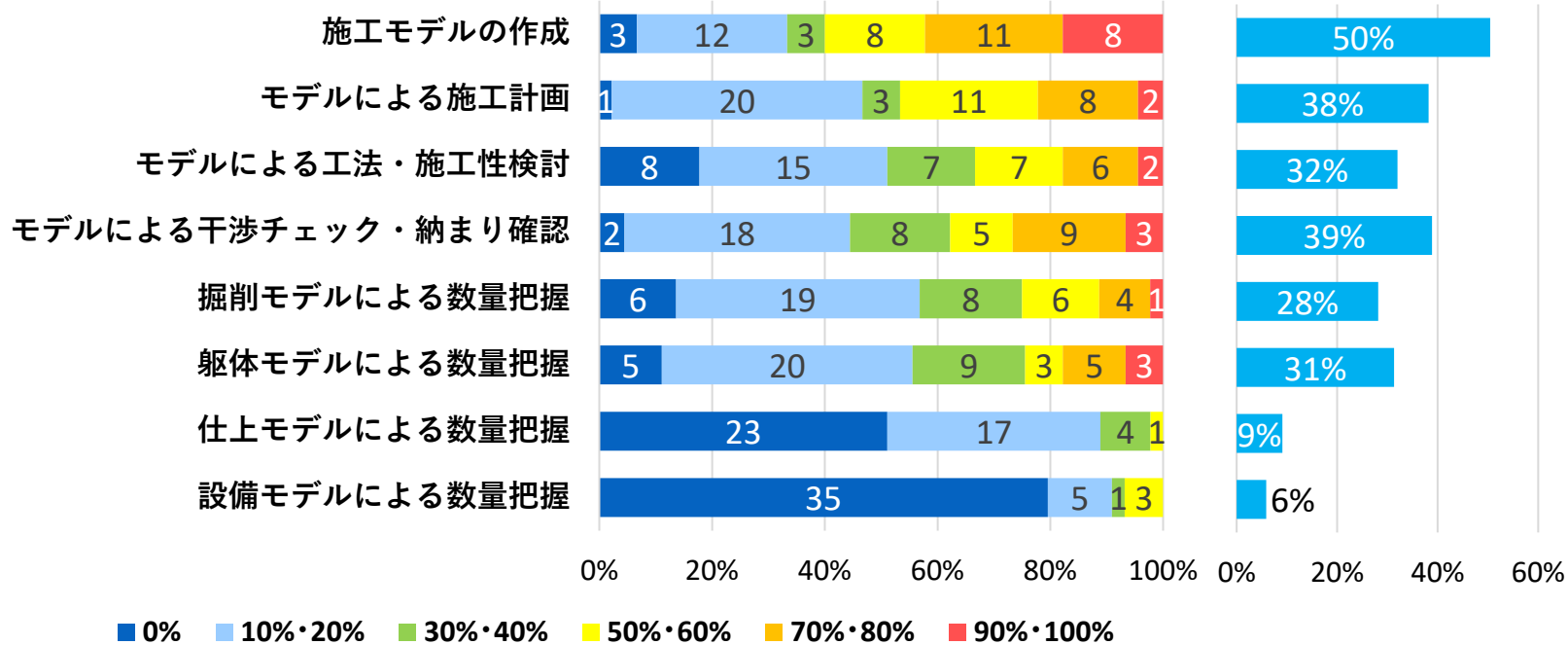
■ 躯体数量把握は2021年調査の16%から31%に大きく増加

アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】

【平均活用率】

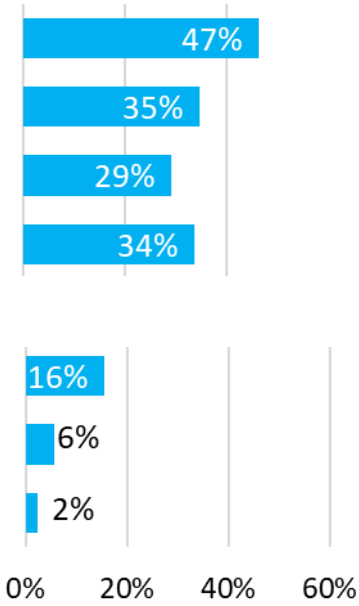
(回答45社)



アンケート2021

【平均活用率】

(回答40社)



- 施工モデル作成は50%の実施である。
- すべての項目で2021年調査から増加しているが、仕上・設備での数量把握での活用度合いが低い。

5. 施工におけるBIM活用状況

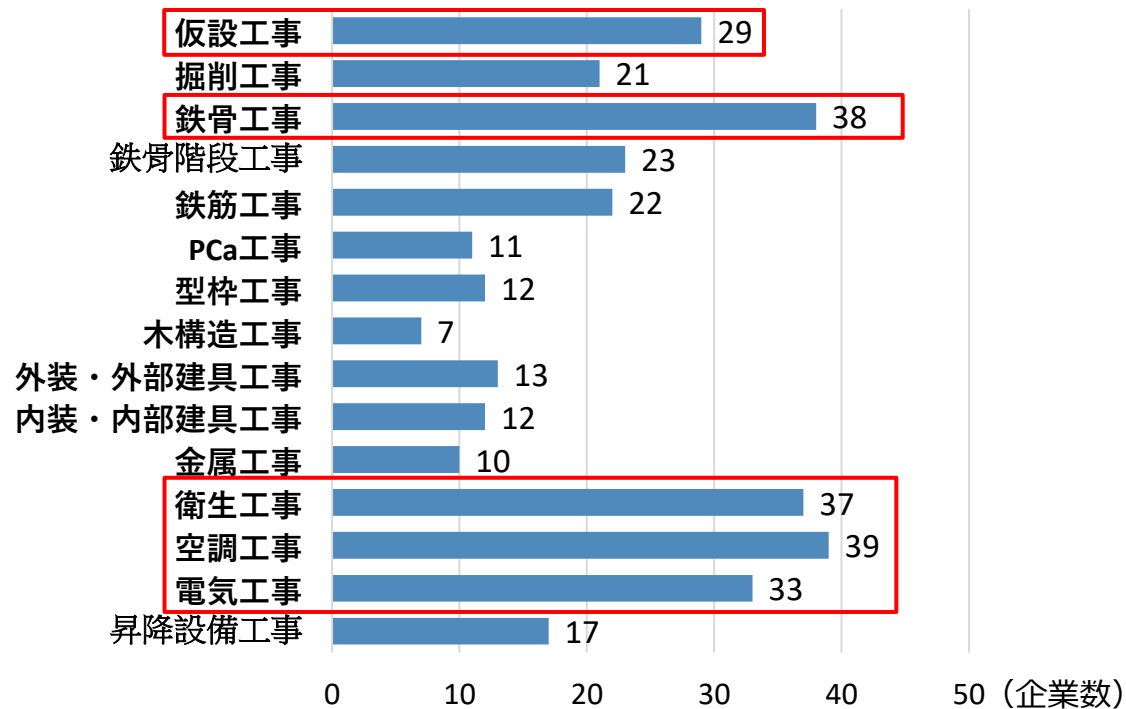
③ 専門工事会社との連携状況

■ 仮設、鉄骨、衛生、空調、電気の各工事で過半数の企業が専門工事会社と連携

BIMモデル連携を実施することがある工種

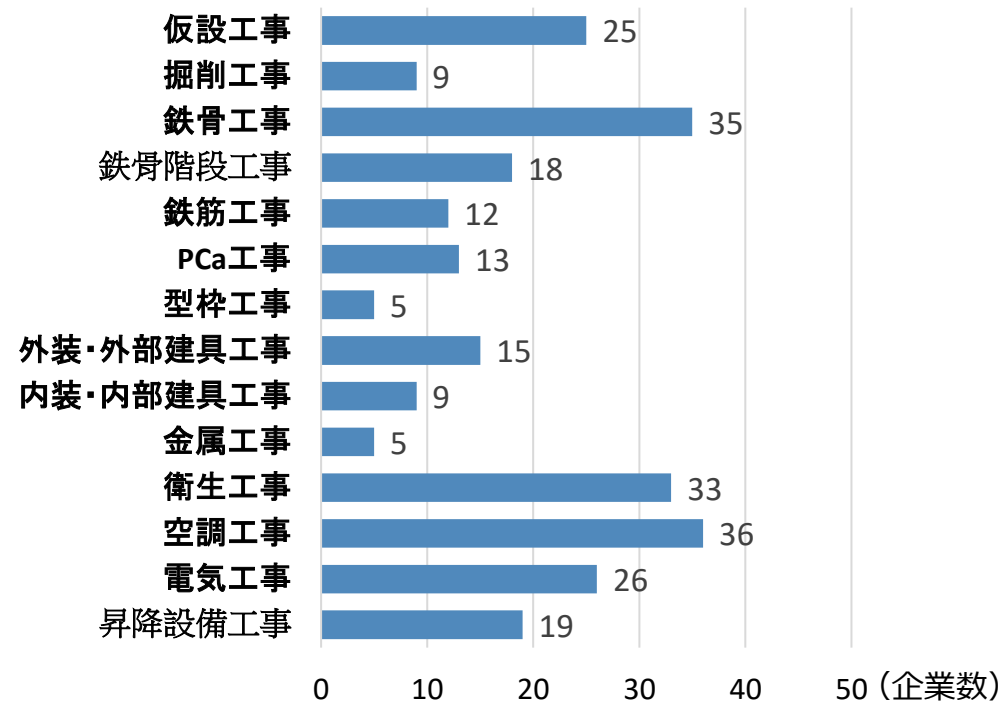
アンケート2025

(回答47社、複数回答可)



アンケート2021

(回答40社、複数回答可)



・ 2021年調査と比べて、掘削工事と鉄筋工事で連携する企業の増加が顕著である。

5. 施工におけるBIM活用状況 ③専門工事会社との連携状況

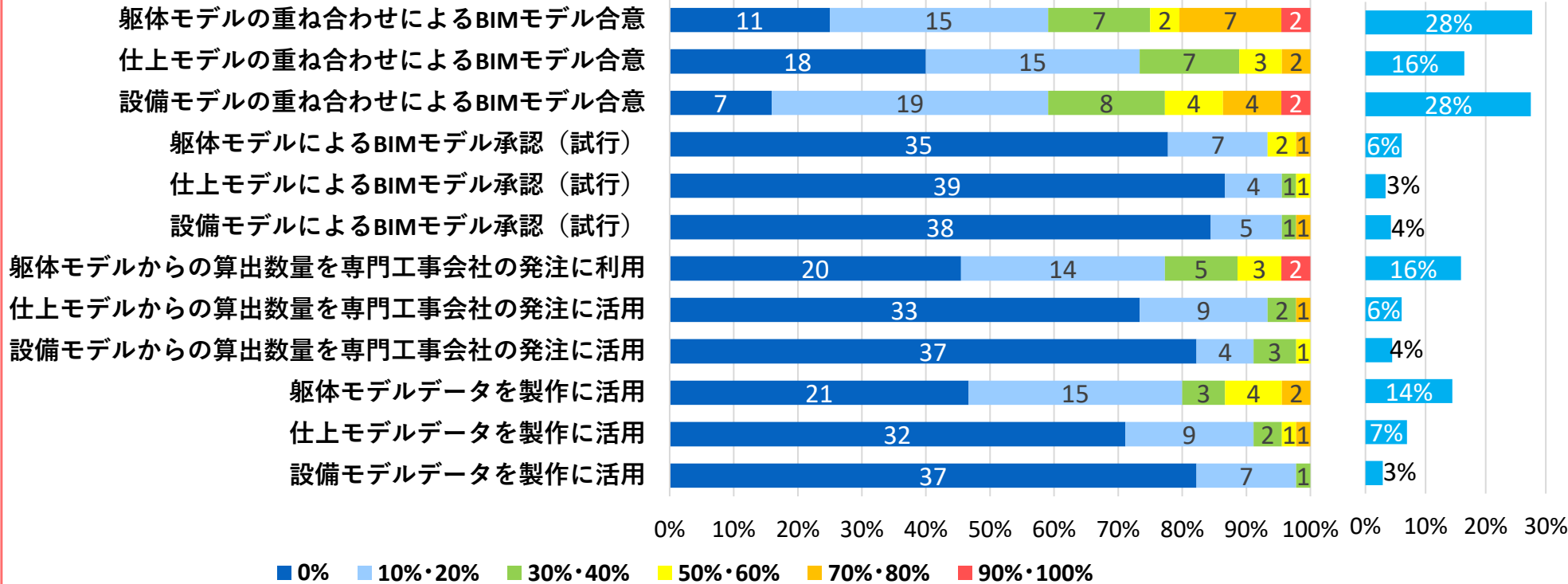
■ BIMモデル合意、BIMモデル承認、発注・製作への活用は2023年調査とほぼ同様

アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】

【平均活用率】

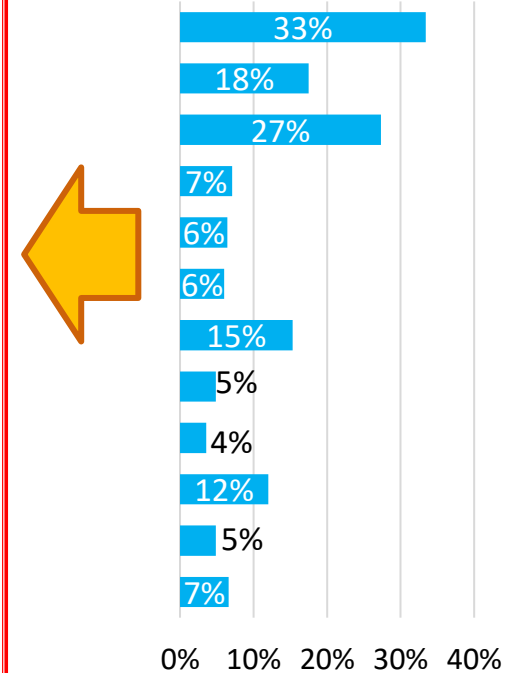
(回答45社)



アンケート2023

【平均活用率】

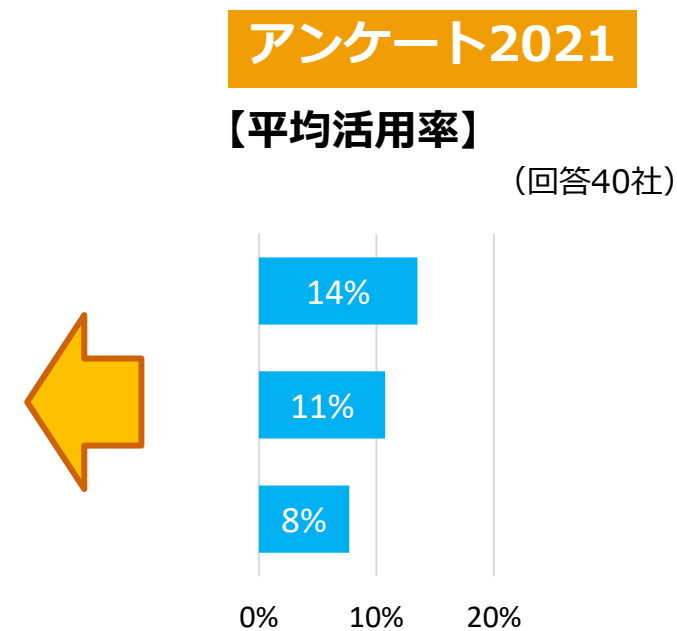
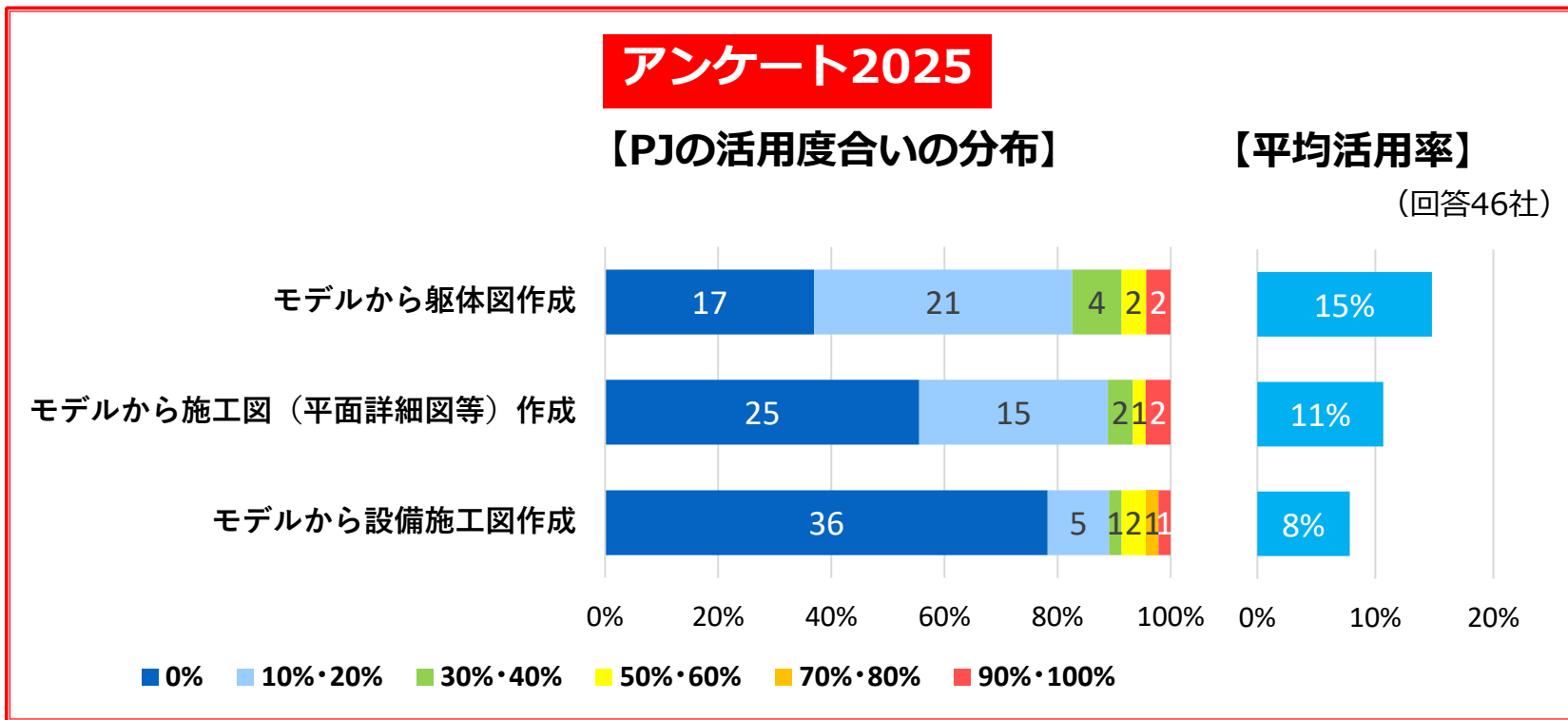
(回答45社)



• BIMモデル承認への活用は3～6%、製作への活用は10%内外と限定的である。

5. 施工におけるBIM活用状況 ④施工図作成での活用度合い

■ 躯体図作成、仕上施工図作成、設備施工図作成への活用は2021年調査とほぼ同様



• 活用率はいずれも20%未満に留まっている。

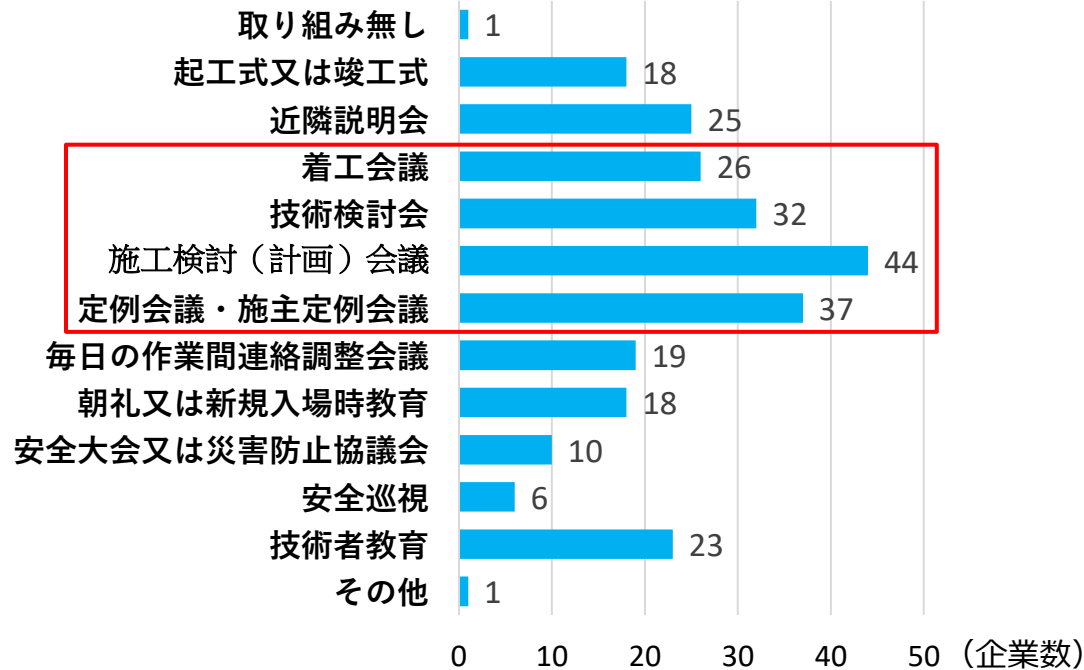
5. 施工におけるBIM活用状況 ⑤施工管理での活用度合い

■ 2021年調査同様、各会議での活用度合いが高い

施工BIMの活用シーン

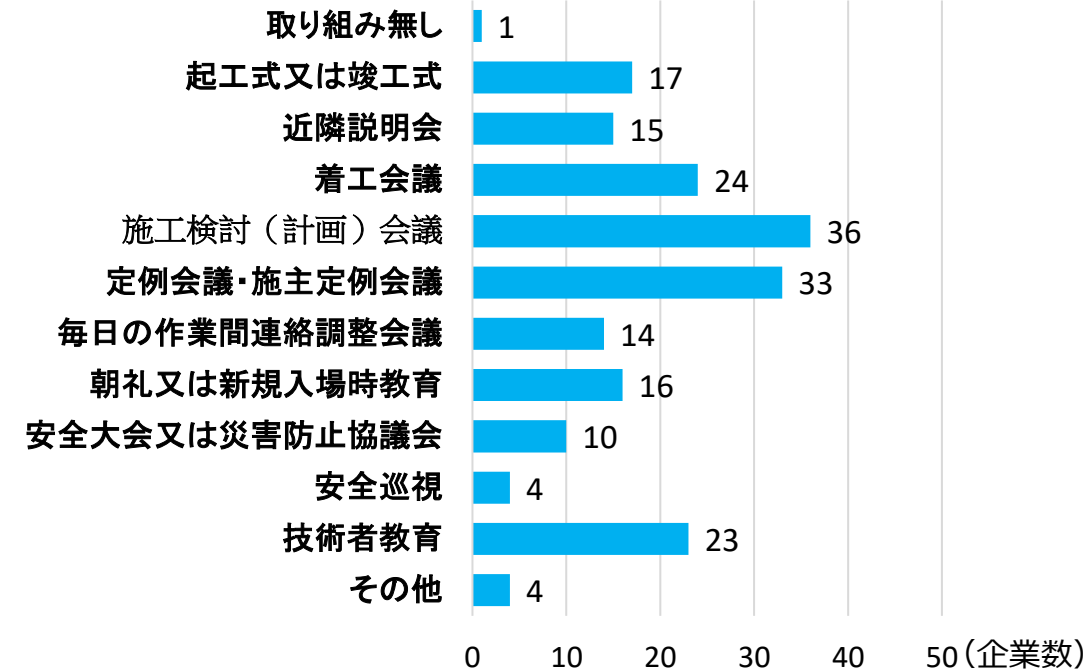
アンケート2025

(回答47社、複数回答可)



アンケート2021

(回答40社、複数回答可)



・ 2021年調査から近隣説明会での活用度合いが高くなっている。

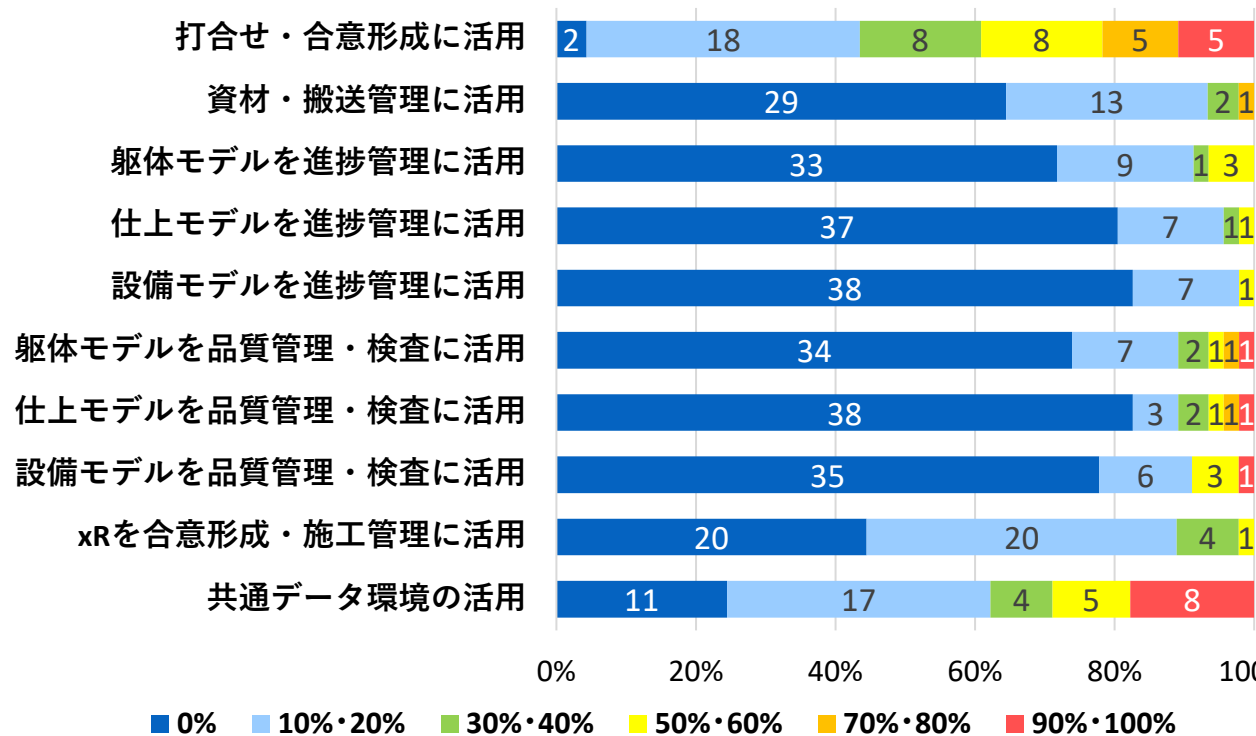
5. 施工におけるBIM活用状況

⑤ 施工管理での活用度合い

■ 仕上・設備の品質管理・検査への活用、共通データ環境での活用が2021年調査から増加

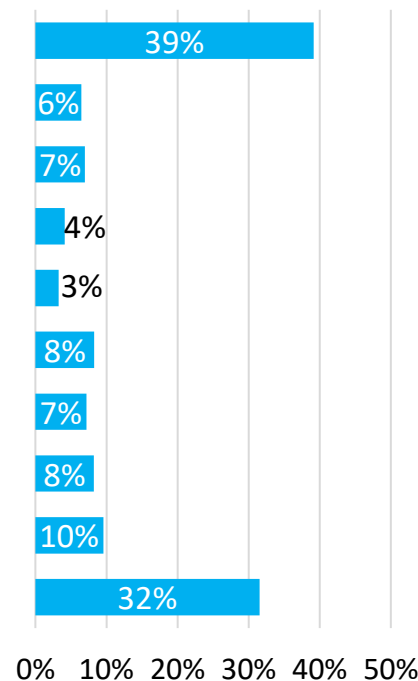
アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】



【平均活用率】

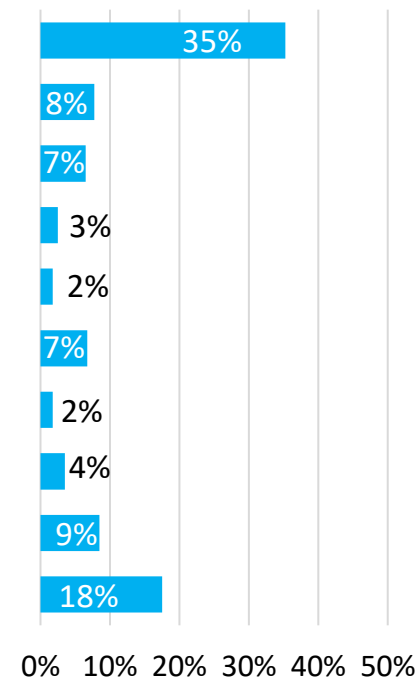
(回答46社)



アンケート2021

【平均活用率】

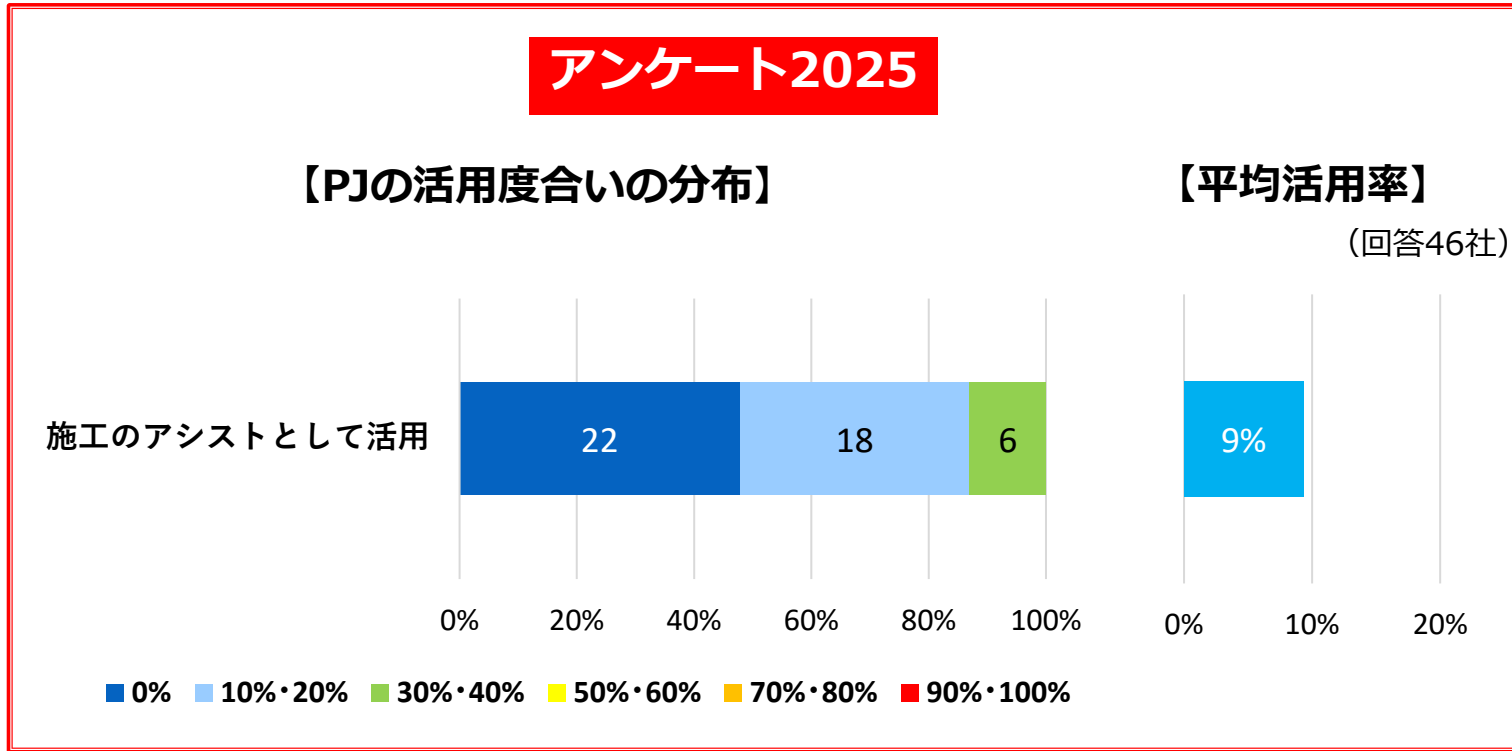
(回答40社)



・ 進捗管理、品質管理・検査への活用は未だ10%以下に留まっている。

5. 施工におけるBIM活用状況 ⑥施工での活用度合い

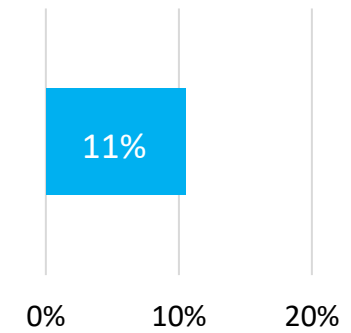
■ 施工アシストとしての活用は2021年調査から減少して9%に



アンケート2021

【平均活用率】

(回答40社)



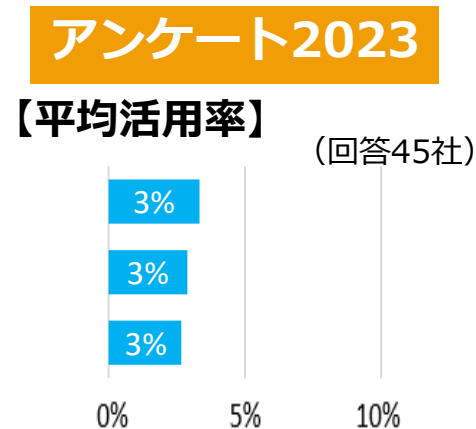
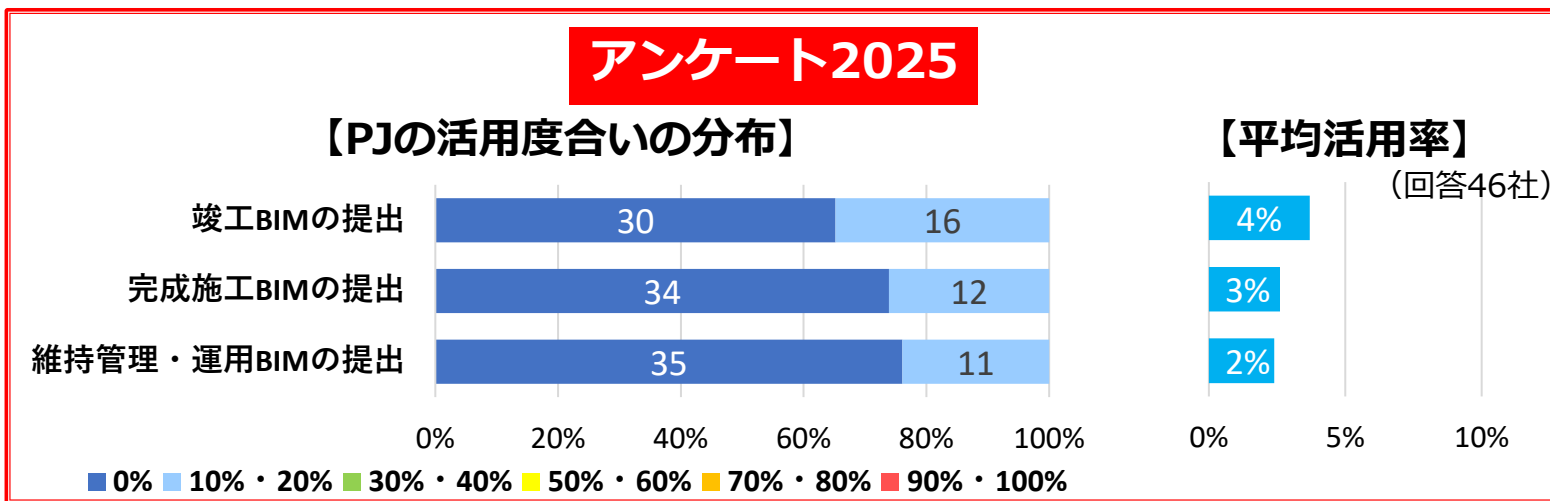
- 活用事例として、BIMデータ連携したICT建機による掘削、ARツールを活用した墨出し（杭頭補強筋取付位置、配管取付位置等）、BIMと連携した墨出しロボットによる自動墨出しが挙げられる。

アンケート結果の集計・分析－6

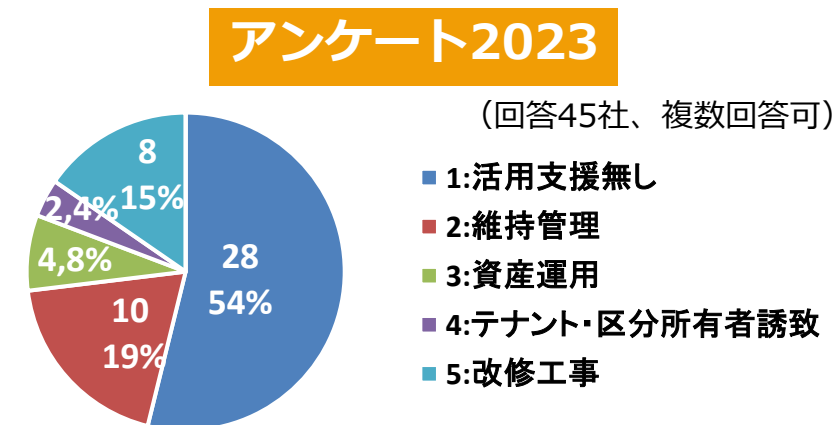
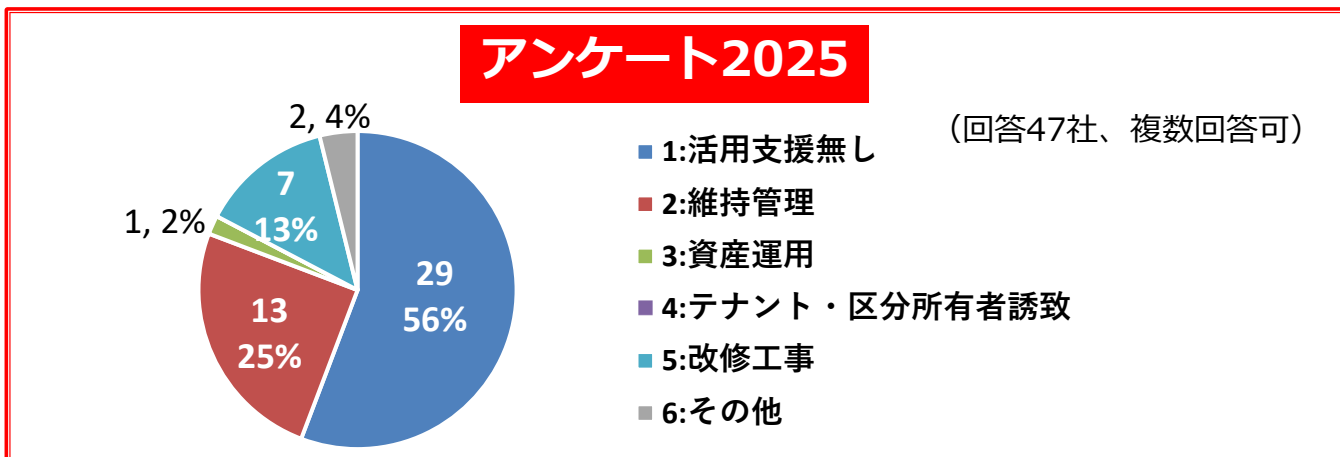
1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況
4. 設計におけるBIM活用状況
5. 施工におけるBIM活用状況
- 6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況**

6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況

■ 2023年調査同様、活用度合いは低く4%以下に限定



維持管理・運用BIMの目的



・ 目的として挙げているのは維持管理と改修工事が大半で、運用での活用は限定される。

6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況

その他 (アンケート自由記載より)

【引渡して 増えた業務】

- 提出に必要な属性情報の入力
- 建築、設備情報の更新、変更箇所の修正
- 提出用のモデル更新作業（竣工時の情報との整合）
- 施主へのBIMデータ引き渡しには、EIR(AIR)による情報要件の設定が必要で、維持管理、FM・AMへのデータ連携の場合、そのための維持管理BIMデータ作成業務が発生する。
- 提出用にモデルを修正（施工BIMからの簡易モデル）、属性情報の入力（機器仕様、竣工年月等）、フロアラインの整理（建築、電気、設備各モデルで統合がとれていなかったの）
- 提出モデルのチェック、提出モデルの修正、提出モデルのオブジェクトプロパティ修正、データ軽量化、維持管理属性追加、維持管理コード追記、オブジェクト名称変更
- 提出のための現地確認、竣工用モデルへの修正、提出モデル確認のための会議

【維持管理・運用 BIMの業務】

- FMアプリとの連携
- 建物日常管理業務
- 建築、設備、電気モデルの統合・修正、建築モデルの簡易化（データ容量の軽量化）、属性情報の入力（部屋に建築仕上げ等、オブジェクトに機器仕様等）、FMアプリ用のID入力、データのIFC化、オブジェクトの仕分け（Rebroのシステム管理機能）、竣工図書のハイパーリンク（Rebro）
- 現地竣工図からのモデルの作り起こし、発注者との共有
- モデル再作成、軽量化、管理したい情報の入力
- 長期修繕費用の算出
- BIMデータの作成、金額、起算日等の入力、データの閲覧環境の提示（納品しない）
- モデル容量の軽量化、提出モデル確認のための会議

アンケート結果の集計・分析－7

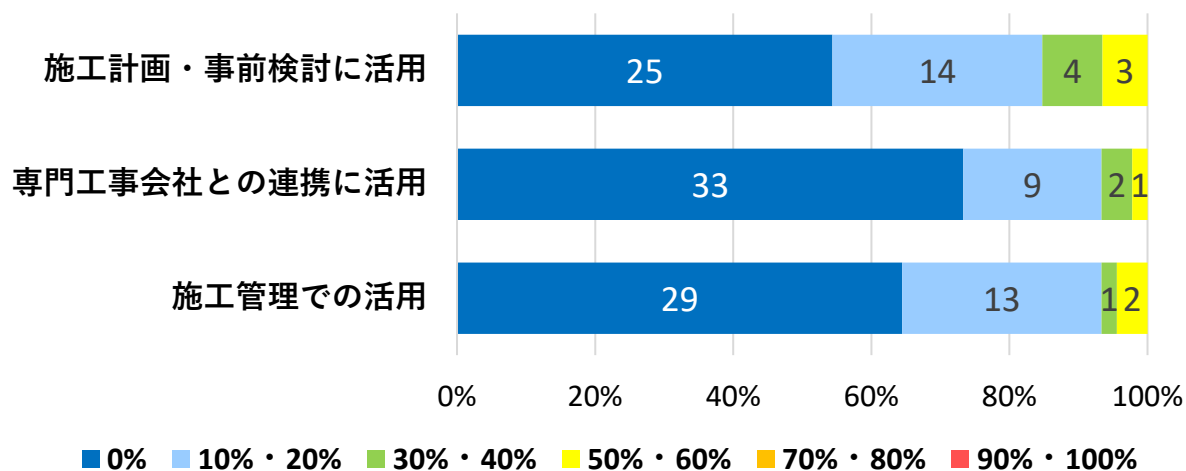
1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況
4. 設計におけるBIM活用状況
5. 施工におけるBIM活用状況
6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況
- 7. 改修工事における活用状況**

7. 改修工事における活用状況

■ 2021年調査同様に施工計画での活用がやや高いが、限定的

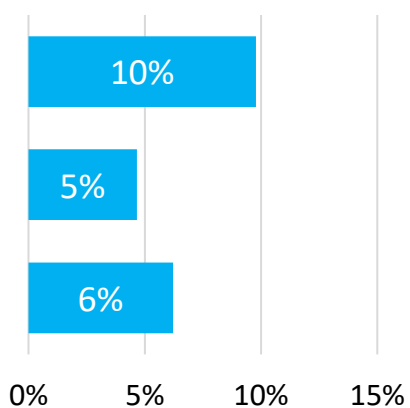
アンケート2025

【PJの活用度合いの分布】



【平均活用率】

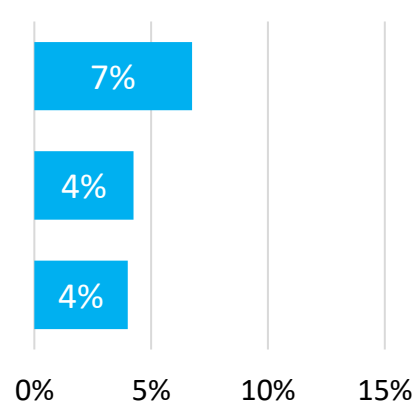
(回答46社)



アンケート2021

【平均活用率】

(回答40社)



• 全体として2021年調査から増加したが、限定的である。

アンケート結果の集計・分析－8

1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況
4. 設計におけるBIM活用状況
5. 施工におけるBIM活用状況
6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況
7. 改修工事における活用状況
- 8. BIM推進の方針・整備と活用の相関**
 - ① BIMワークフロー設定との相関
 - ② BIM実行計画書作成との相関

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ①BIMワークフロー設定との相関

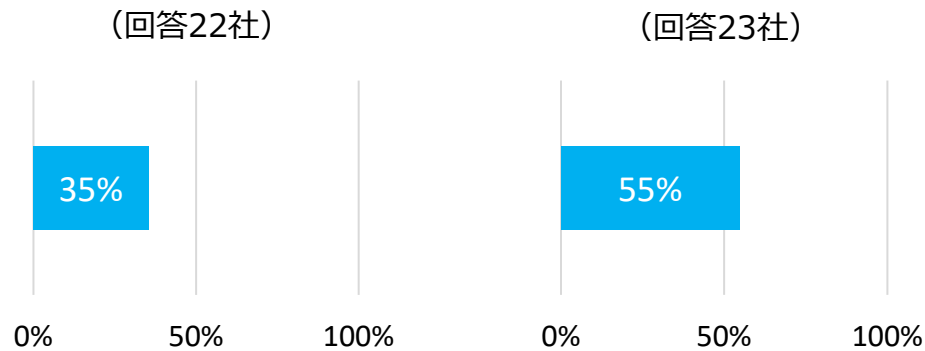
■ BIMワークフローを設定している場合、設計全体で20%高い活用

設計①：プロジェクトにおける活用度合い

BIMワークフロー無し

BIMワークフロー有り

【平均活用率】

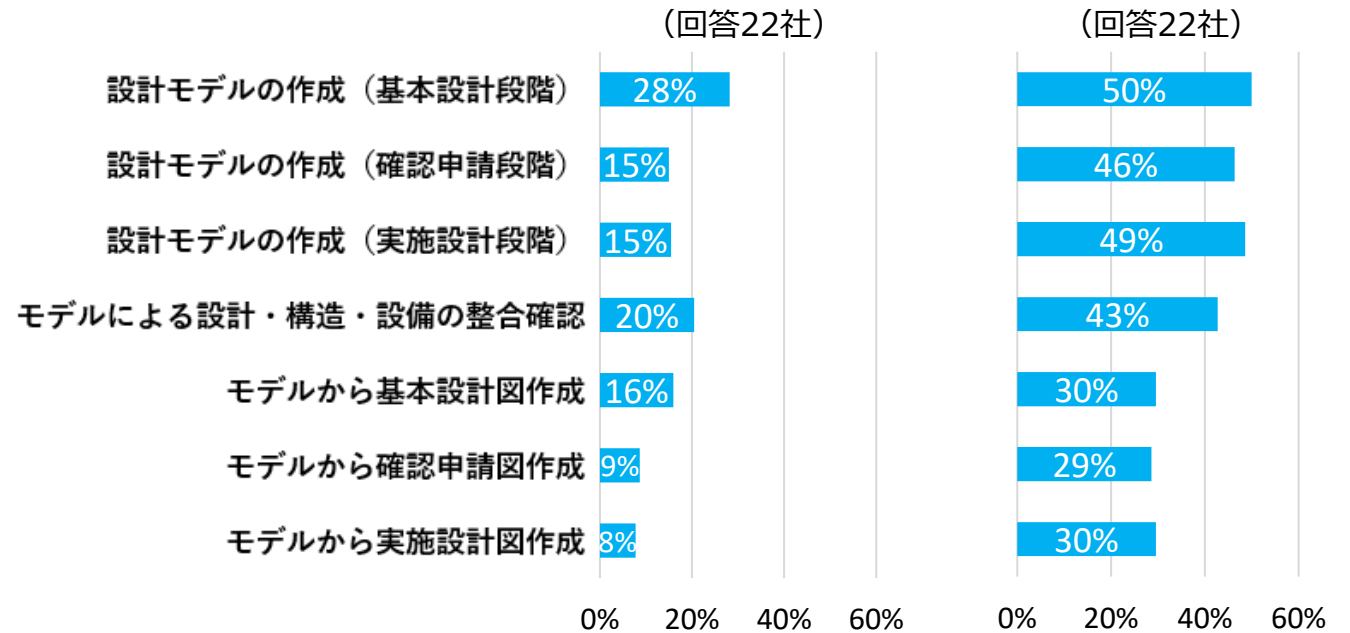


設計②：建築設計での活用度合い

BIMワークフロー無し

BIMワークフロー有り

【平均活用率】



- 建築設計では、確認申請段階及び実施設計段階での設計モデル作成が30%以上、設計図作成が20%以上高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ①BIMワークフロー設定との相関

■ BIMワークフローを設定している場合、構造設計及び設備設計で20%程度高い活用

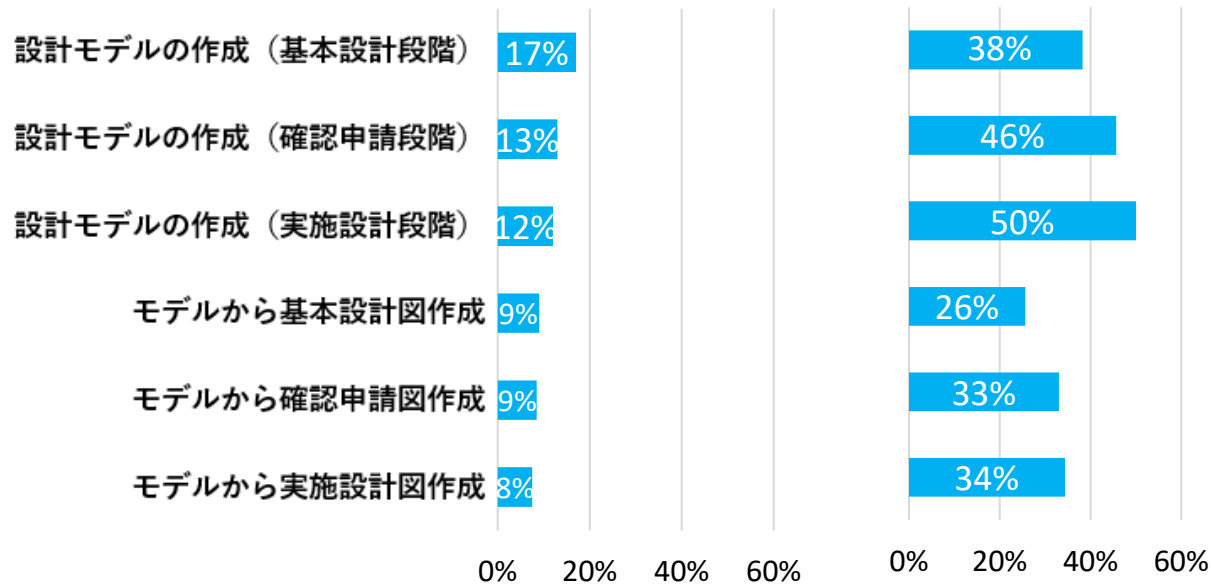
設計③：構造設計での活用度合い

BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

【平均活用率】

(回答20社)

(回答23社)



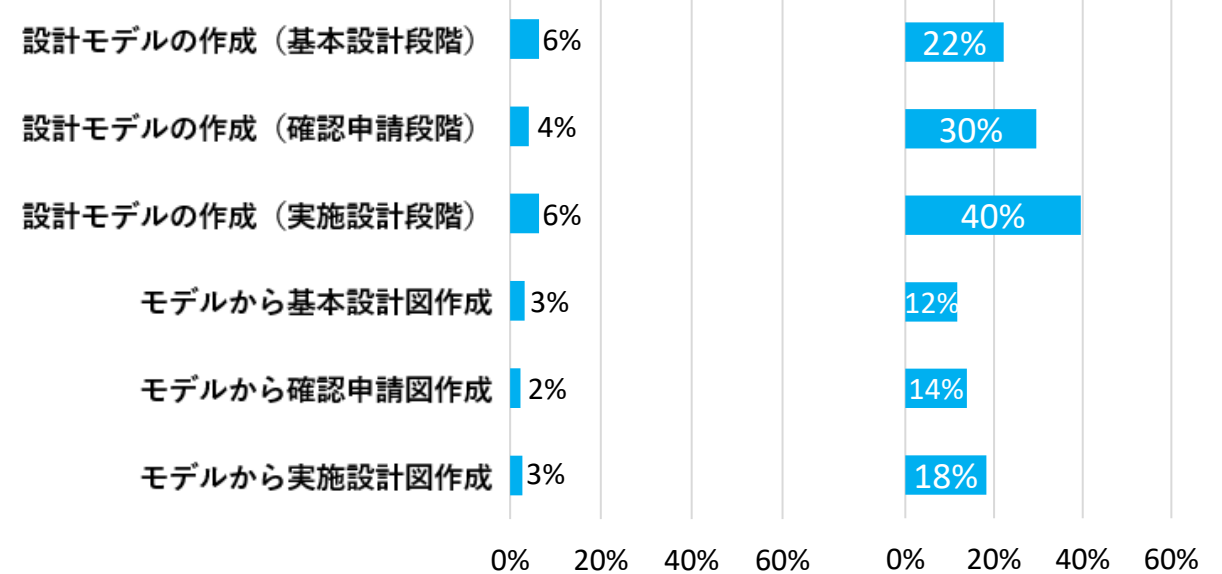
設計④：設備設計での活用度合い

BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

【平均活用率】

(回答22社)

(回答23社)



- 構造設計では、確認申請段階及び実施設計段階での設計モデル作成が30%以上、設計図作成が20%以上高い活用となっている。
- 設備設計では、確認申請段階及び実施設計段階での設計モデル作成が25%程度高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ①BIMワークフロー設定との相関

■ BIMワークフローを設定している場合、設計施工一貫で30%程度高い連携

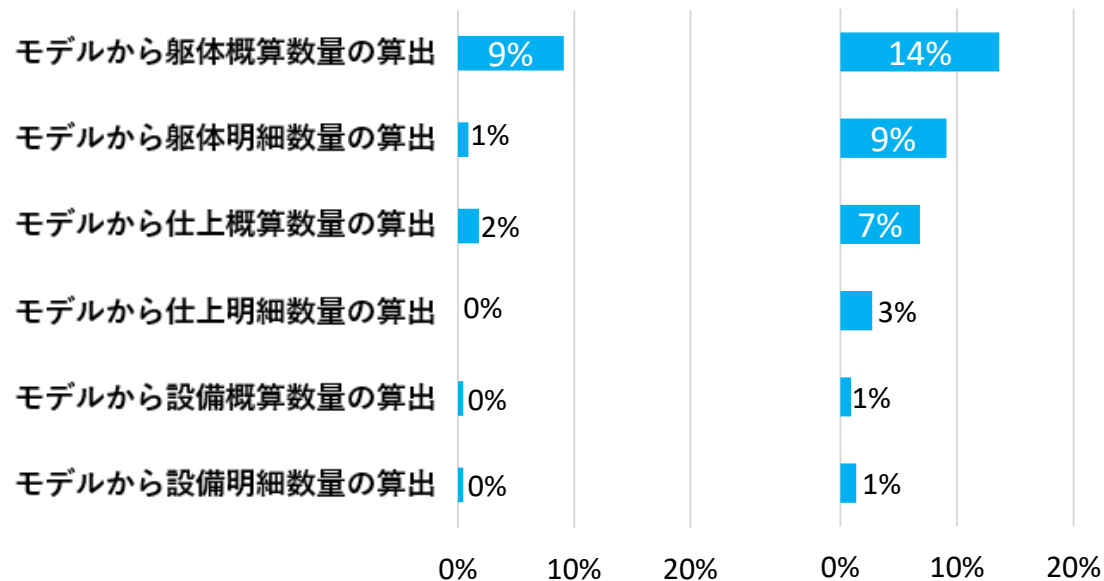
設計⑤：積算（見積部門）での活用度合い

BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

【平均活用率】

(回答22社)

(回答22社)



設計⑥：設計施工間での連携の度合い

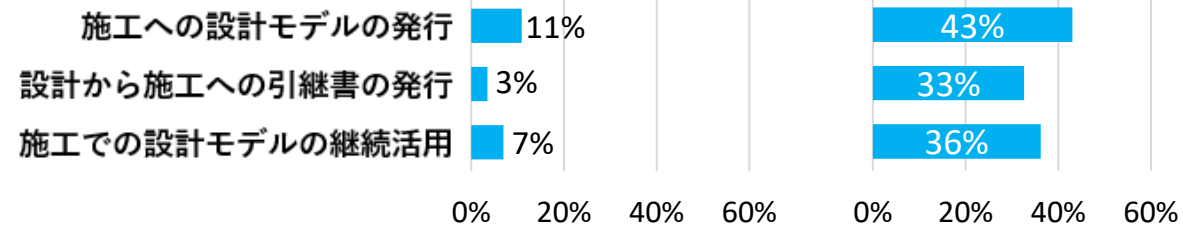
BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

【平均活用率】

設計施工一貫

(回答23社)

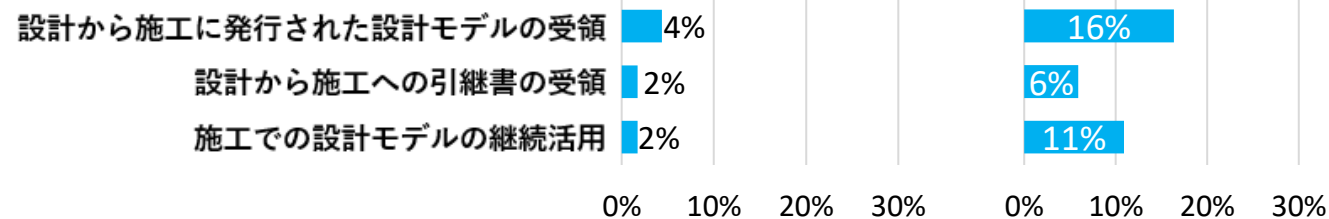
(回答23社)



設計施工分離

(回答23社)

(回答22社)



- 躯体及び仕上積算で3%～8%高い活用となっている。
- 設計施工分離で10%程度高い連携となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ①BIMワークフロー設定との相関

■ BIMワークフローを設定している場合、施工全体で23%高い活用

施工①：プロジェクトにおける活用度合い

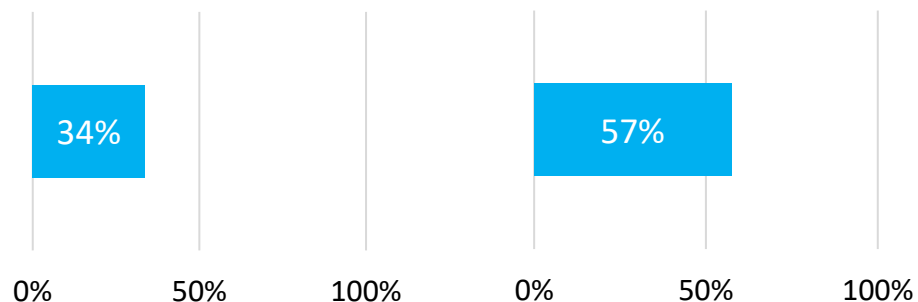
BIMワークフロー無し

BIMワークフロー有り

【平均活用率】

(回答22社)

(回答23社)



施工②：施工計画・事前検討での活用度合い

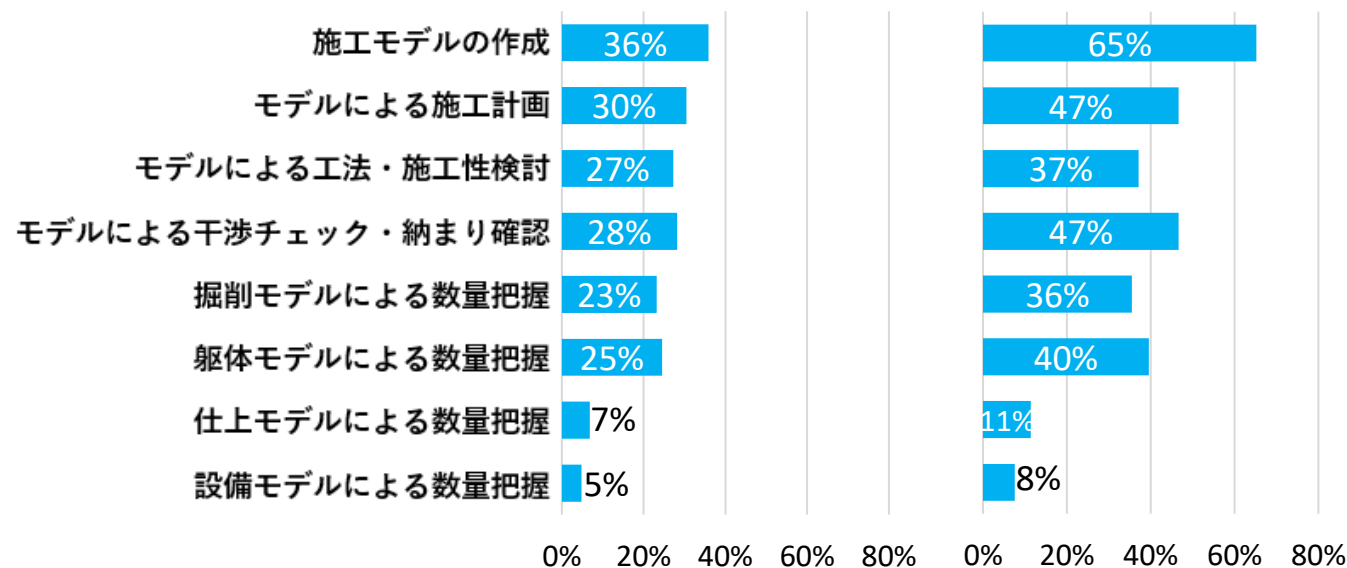
BIMワークフロー無し

BIMワークフロー有り

【平均活用率】

(回答22社)

(回答21社)



• 施工モデル作成で30%程度、施工計画、納まり確認で20%程度高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ①BIMワークフロー設定との相関

■ BIMワークフローを設定している場合、専門工事会社連携及び施工図作成で15%程度高い活用

施工③：専門工事会社との連携状況

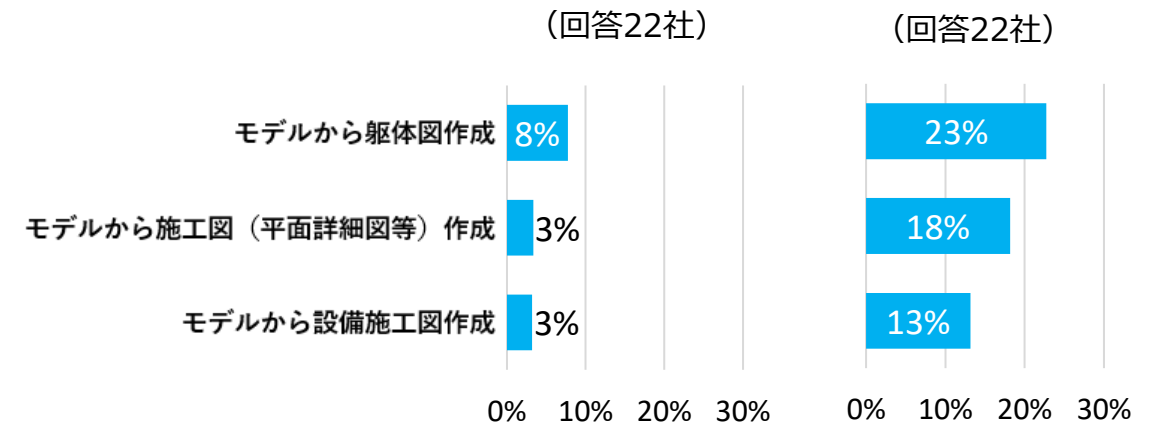
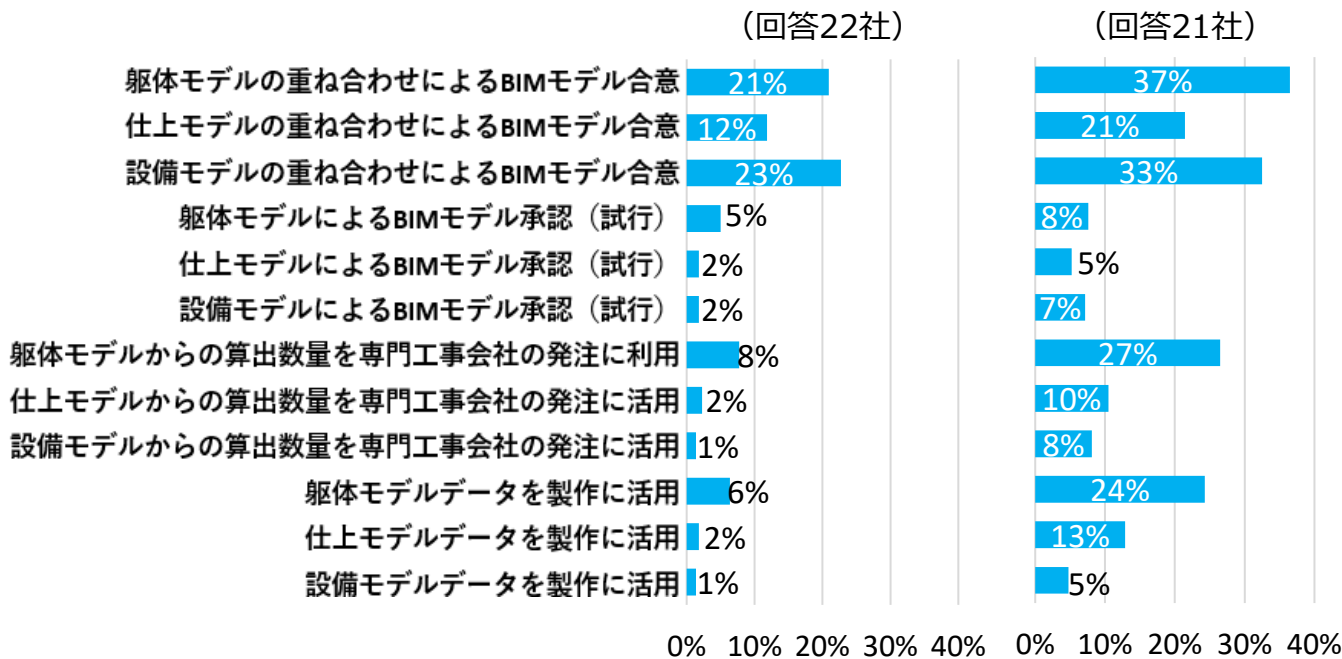
施工④：施工図作成での活用度合い

BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

【平均活用率】

【平均活用率】



・ 特に、躯体工事のBIMモデル合意、発注、製作で20%程度高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ①BIMワークフロー設定との相関

■ BIMワークフローを設定している場合、施工管理で15%程度高い活用

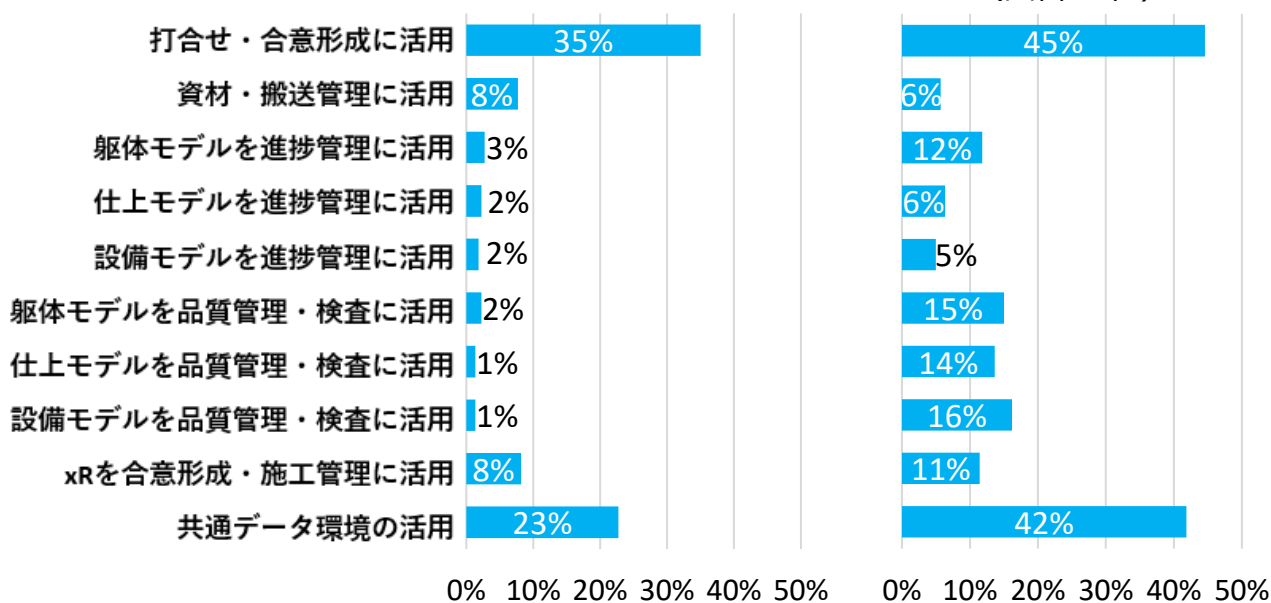
施工⑤：施工管理での活用度合い

BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

【平均活用率】

(回答22社)

(回答22社)



施工⑥：施工アシストでの活用度合い

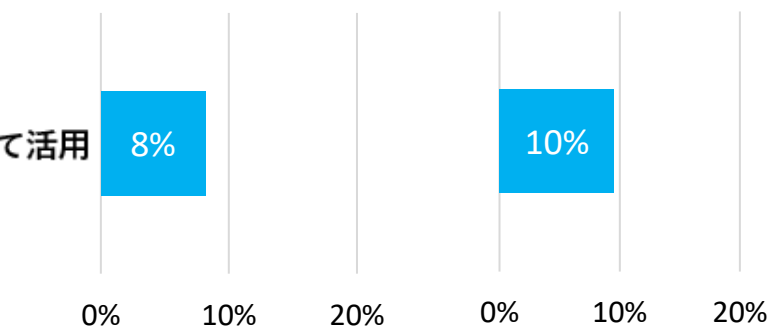
BIMワークフロー無し BIMワークフロー有り

【平均活用率】

(回答22社)

(回答22社)

施工のアシストとして活用*



※BIMデータを使った施工支援（例：自動墨出し、ICT建機）

- 品質管理で15%程度、共通データ環境で19%高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ②BIM実行計画書作成との相関

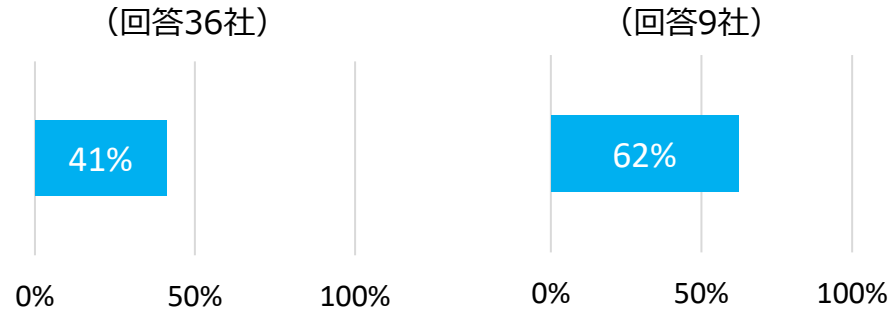
■ BIM実行計画書を作成している場合、設計全体で21%高い活用

設計①：プロジェクトにおける活用度合い

BIM実行計画書無し

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

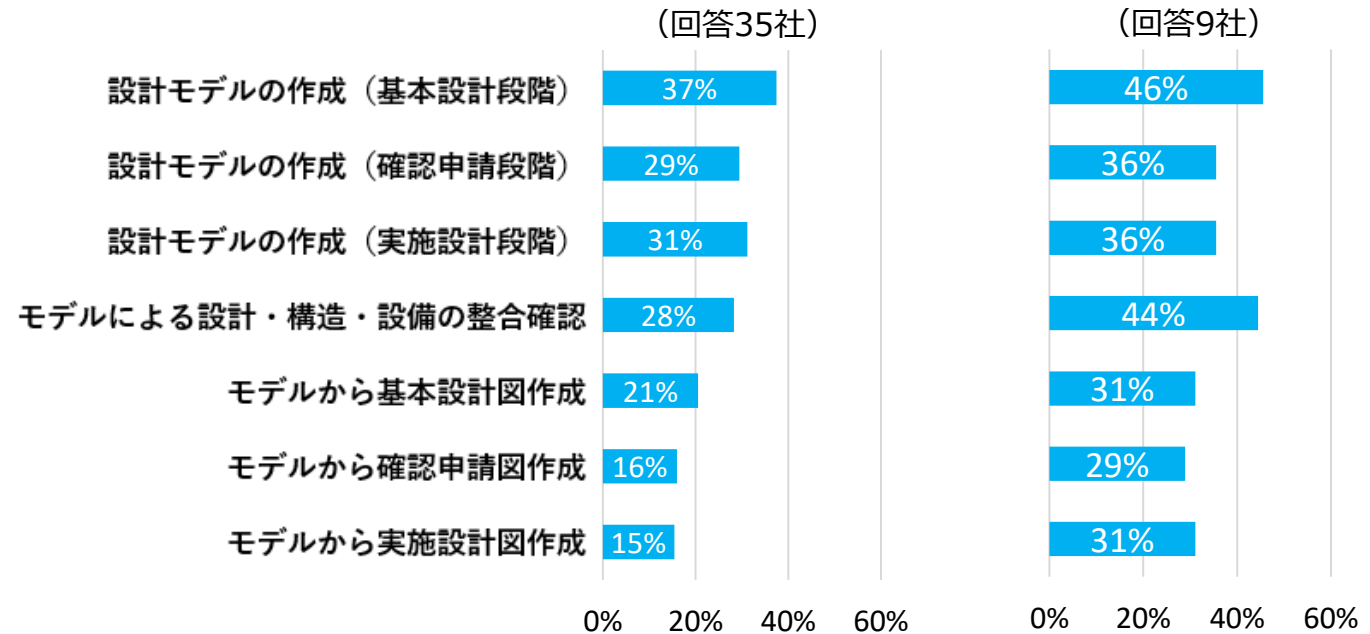


設計②：建築設計での活用度合い

BIM実行計画書無し

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】



- 設計・構造・設備の整合確認及び建築設計での実施設計図作成で16%高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ②BIM実行計画書作成との相関

■ BIM実行計画書を作成している場合、構造設計で10%程度高い活用

設計③：構造設計での活用度合い

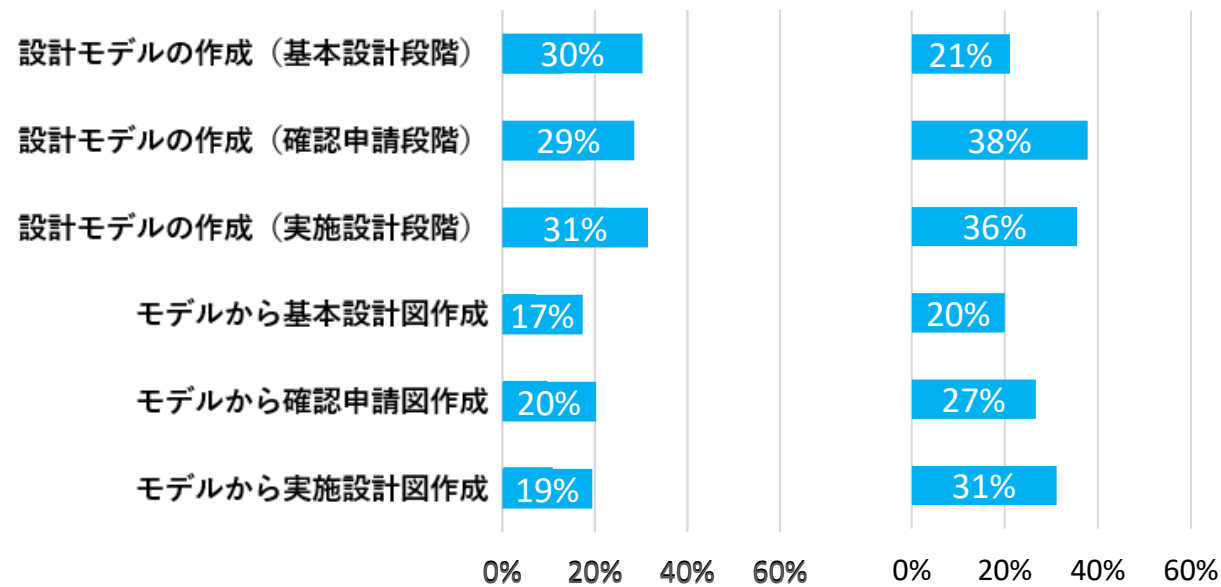
BIM実行計画書無し **BIM実行計画書有り**

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

(回答34社)

(回答9社)



設計④：設備設計での活用度合い

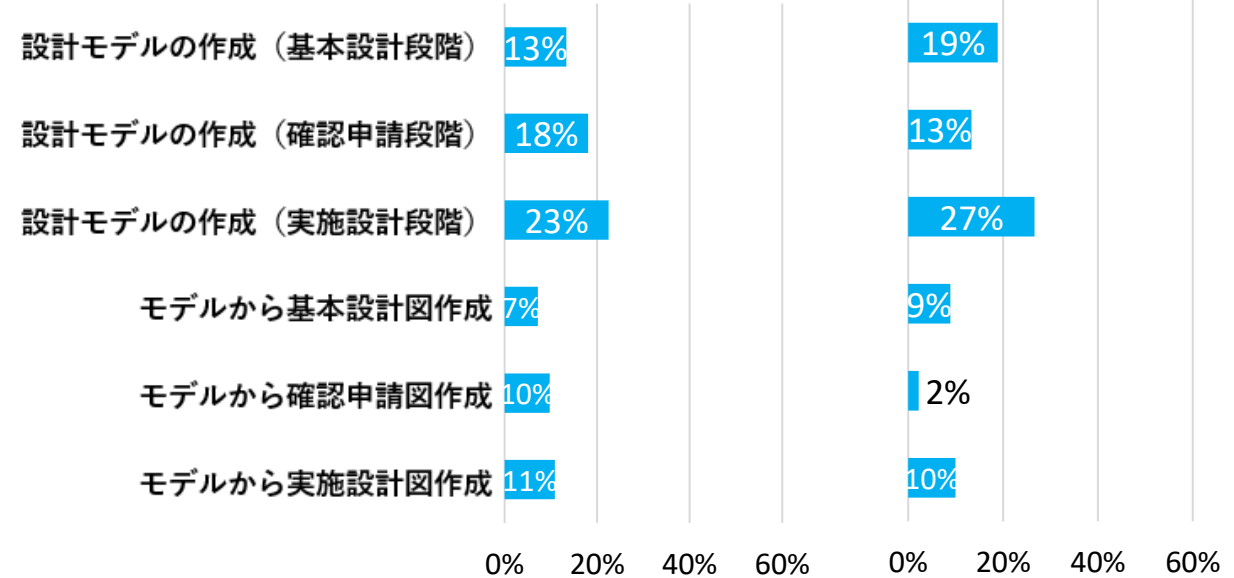
BIM実行計画書無し **BIM実行計画書有り**

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

(回答36社)

(回答9社)



- 構造設計では、確認申請段階での設計モデル作成が9%、実施設計図作成が12%高い活用となっている。
- 設備設計では、BIM実行計画書作成との相関にバラつきがある。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ②BIM実行計画書作成との相関

■ BIM実行計画書を作成している場合、設計施工一貫で5%程度高い連携

設計⑤：積算（見積部門）での活用度合い

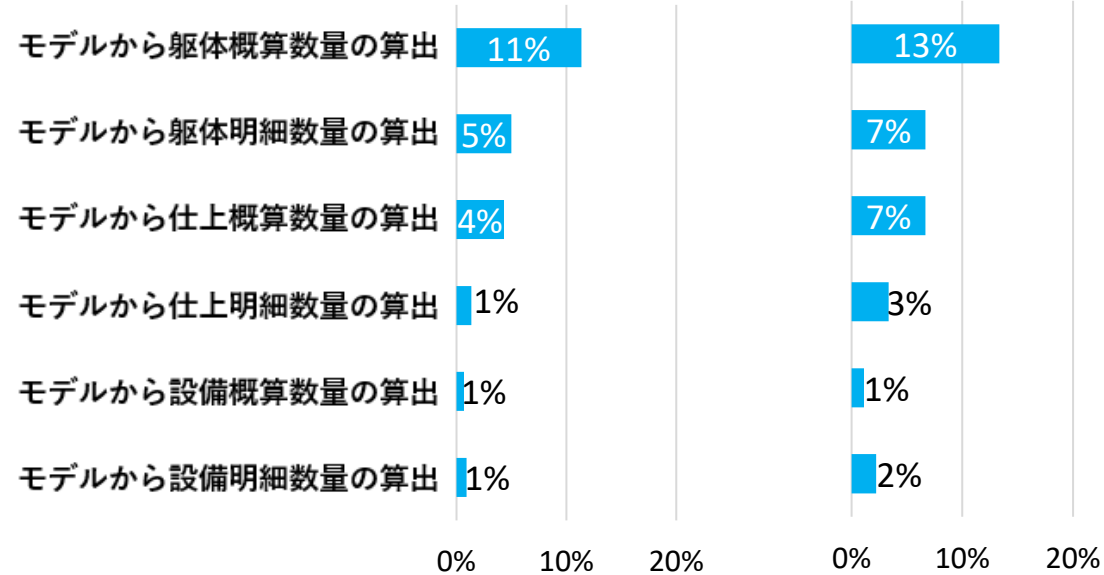
BIM実行計画書無し BIM実行計画書有り

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

(回答35社)

(回答9社)



設計⑥：設計施工間での連携の度合い

BIM実行計画書無し BIM実行計画書有り

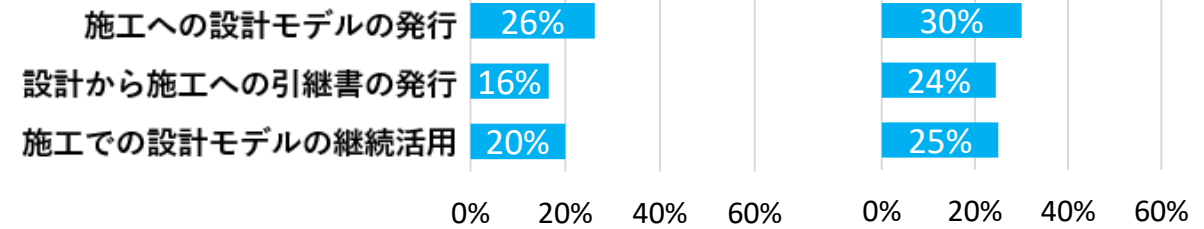
※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

設計施工一貫

(回答37社)

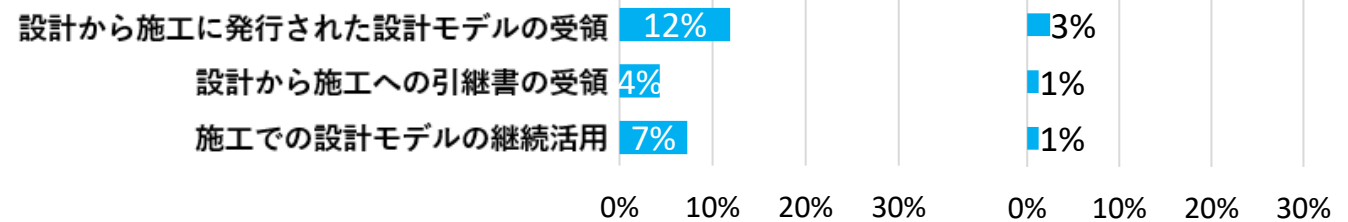
(回答9社)



設計施工分離

(回答37社)

(回答9社)



- ・ 積算での活用向上は1%~3%に留まっている。
- ・ 設計施工分離での連携は低下している。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ②BIM実行計画書作成との相関

■ BIM実行計画書を作成している場合、施工全体で20%高い活用

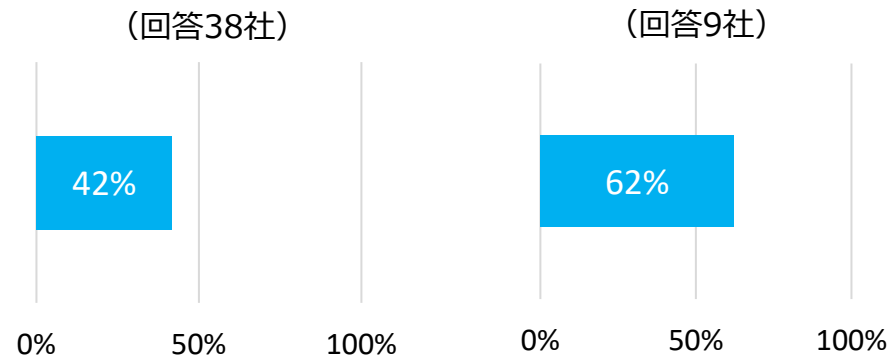
施工①：プロジェクトにおける活用度合い

BIM実行計画書無し

BIM実行計画書有り

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】



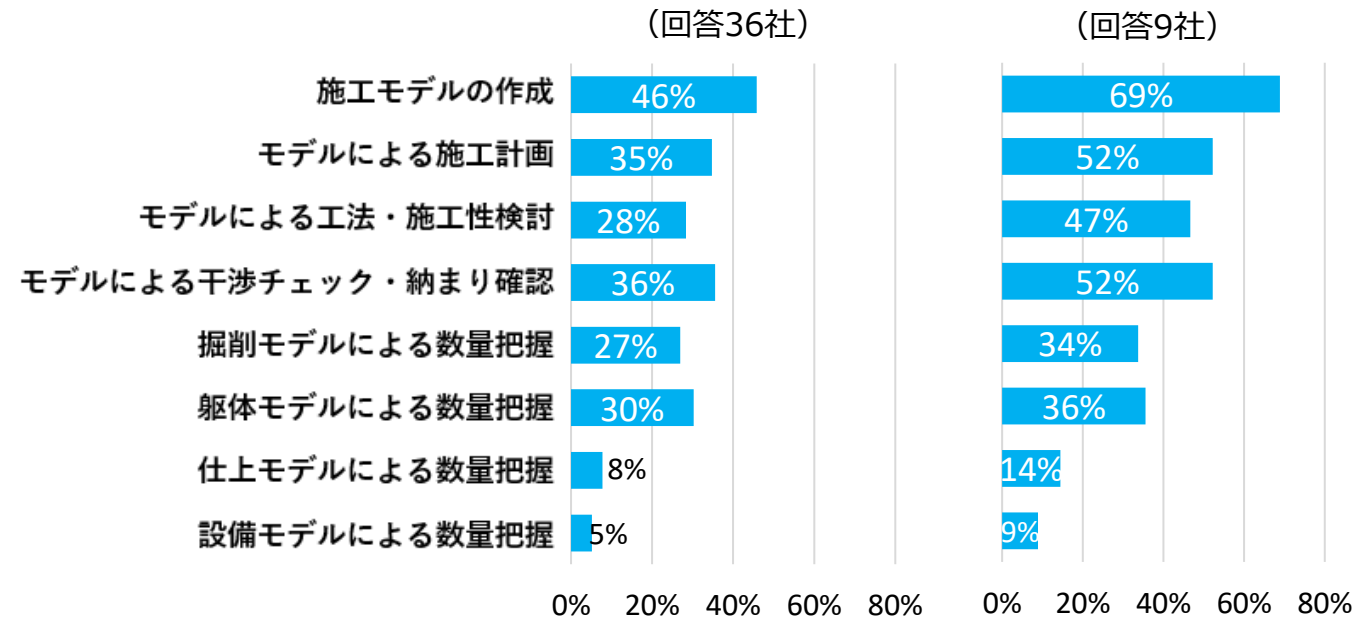
施工②：施工計画・事前検討での活用度合い

BIM実行計画書無し

BIM実行計画書有り

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】



・ 施工モデル作成で23%、施工計画、工法・施工性検討、納まり確認で16%～19%高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ②BIM実行計画書作成との相関

■ BIM実行計画書を作成している場合、専門工事会社連携及び施工図作成で15%程度高い活用

施工③：専門工事会社との連携状況

施工④：施工図作成での活用度合い

BIM実行計画書無し **BIM実行計画書有り**

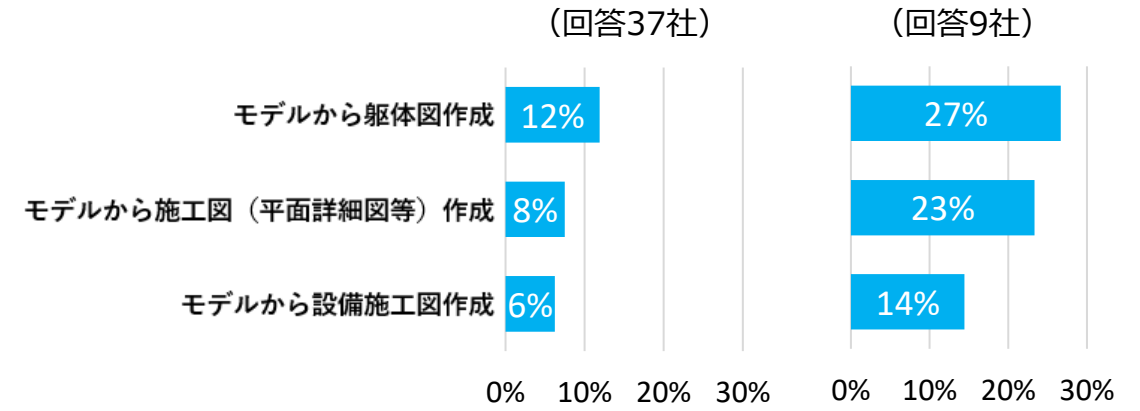
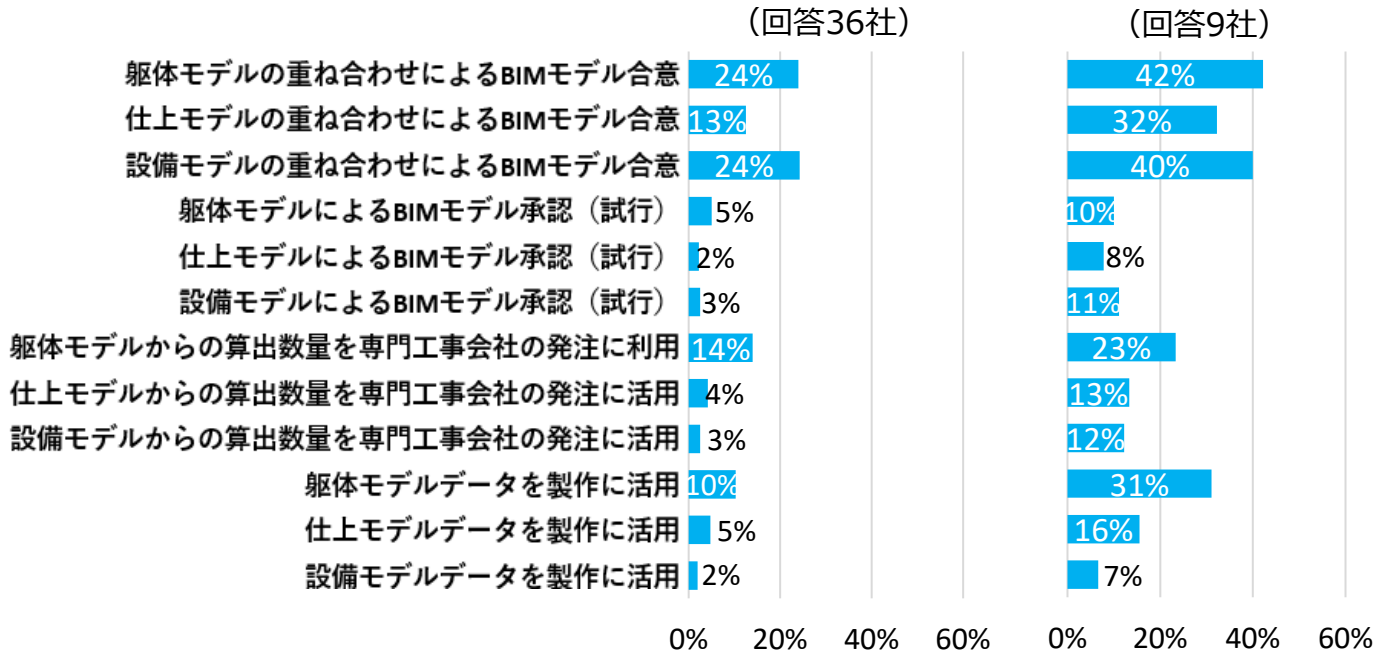
BIM実行計画書無し **BIM実行計画書有り**

※指定PJのみ作成含む

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

【平均活用率】



• BIMモデル合意で16%～19%、躯体の製作活用で21%、躯体図及び平面詳細図作成で15%高い活用となっている。

8. BIM推進の方針・整備と活用の相関 ②BIM実行計画書作成との相関

■ BIM実行計画書を作成している場合、施工管理で15%程度高い活用

施工⑤：施工管理での活用度合い

BIM実行計画書無し

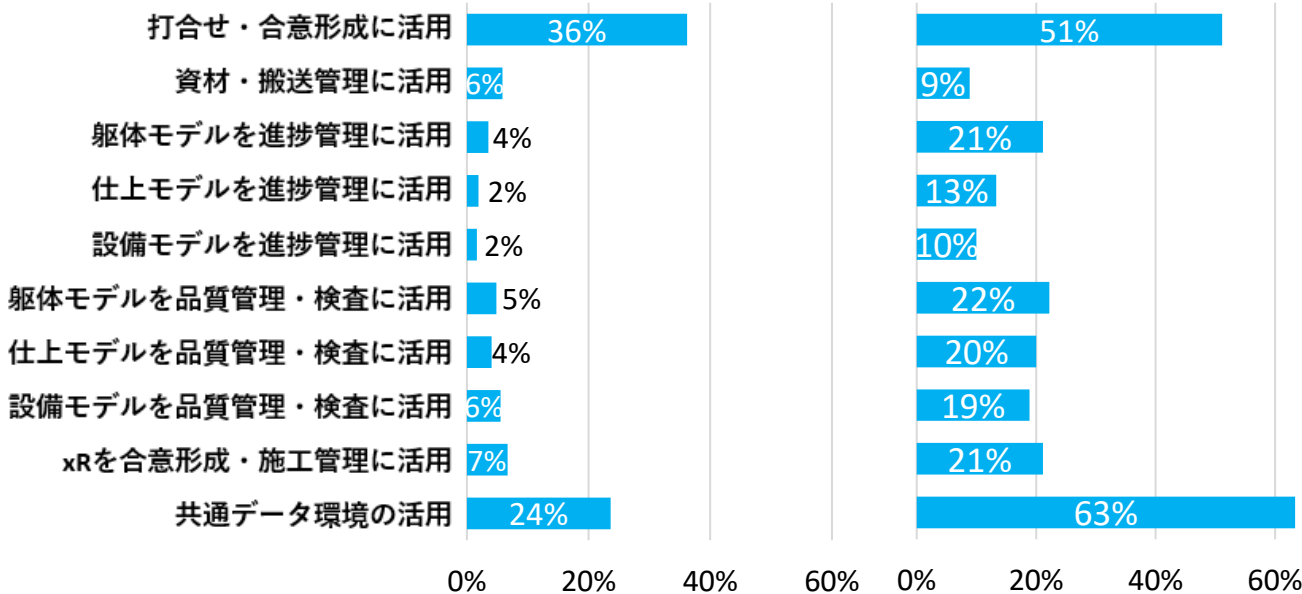
BIM実行計画書有り

※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

(回答37社)

(回答9社)



施工⑥：施工アシストでの活用度合い

BIM実行計画書無し

BIM実行計画書有り

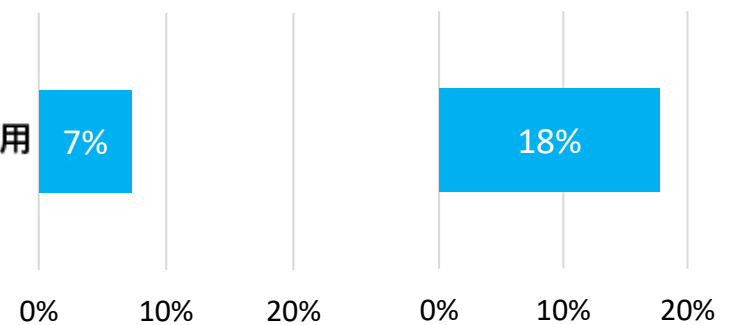
※指定PJのみ作成含む

【平均活用率】

(回答37社)

(回答9社)

施工のアシスト[※]として活用



※BIMデータを使った施工支援（例：自動墨出し、ICT建機）

- 合意形成で15%、躯体の進捗管理で17%、品質管理で13%~17%高い活用となっている。
- 特に共通データ環境では、BIM実行計画書無しの24%に対して63%の高い活用となっている。

アンケート結果の集計・分析－9

1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況
4. 設計におけるBIM活用状況
5. 施工におけるBIM活用状況
6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況
7. 改修工事における活用状況
8. BIM推進の方針・整備と活用の相関

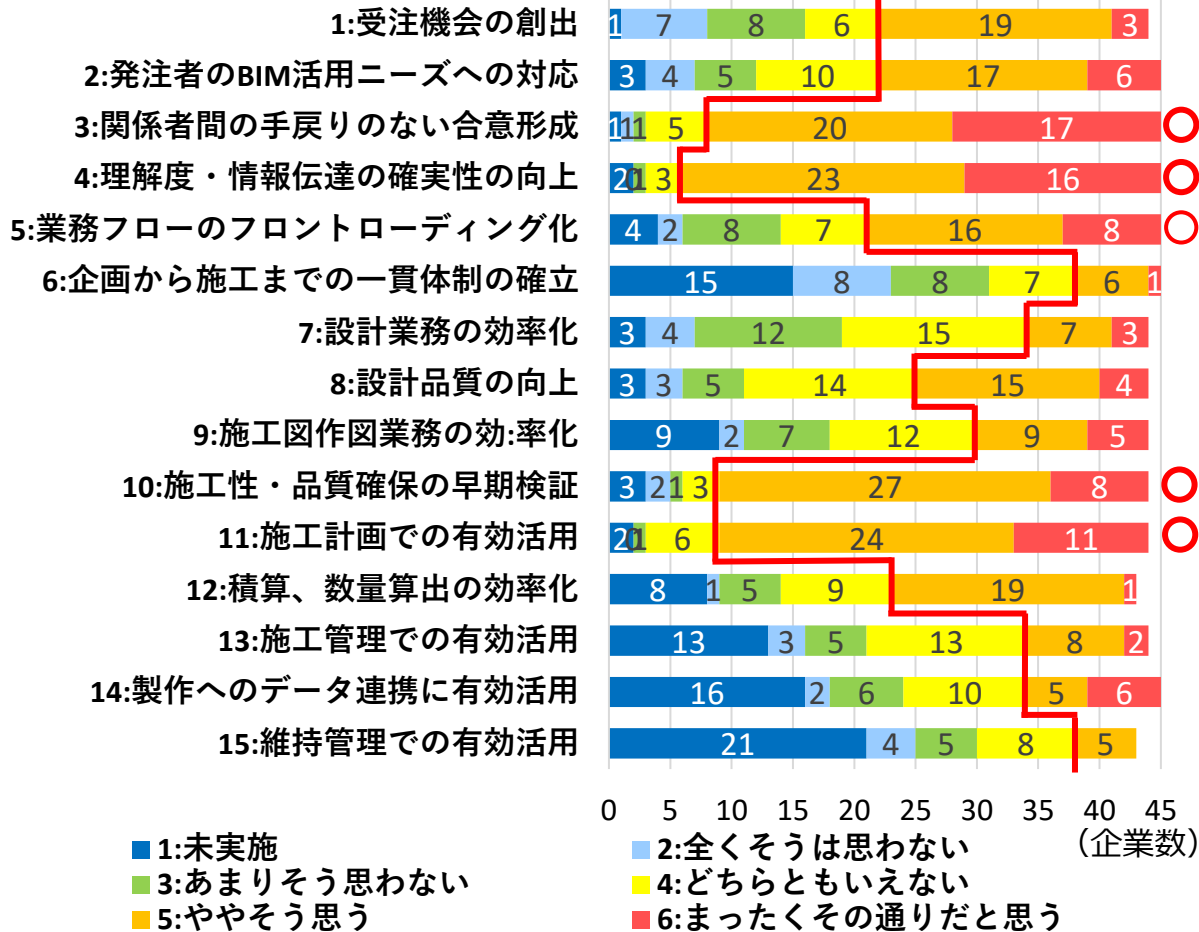
9. 効果、課題、将来性

- ① BIMの効果
- ② BIMの課題
- ③ BIMの課題対応
- ④ BIMの将来性

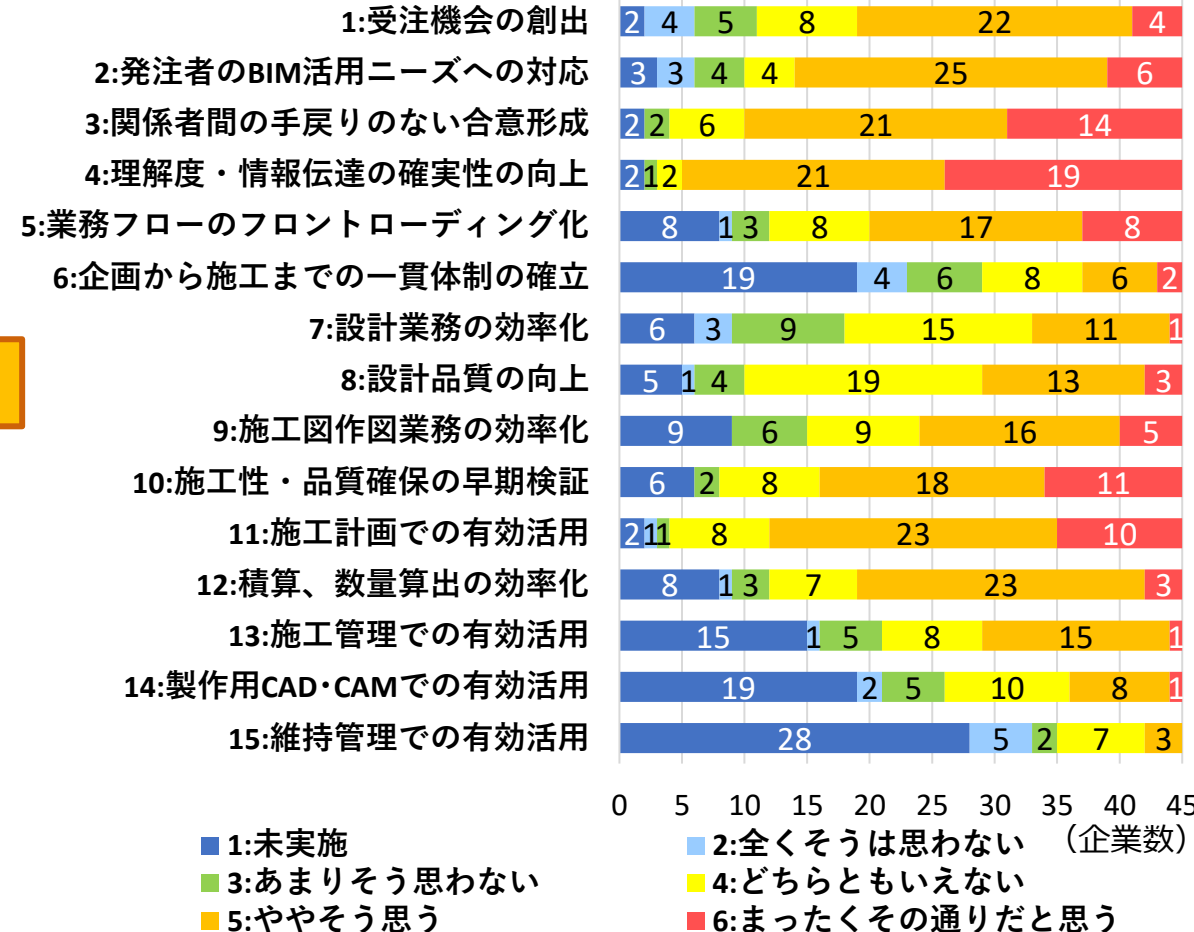
9. 効果・課題・将来性 ①BIMの効果

■ 2023年調査同様、理解度の向上、手戻り無い合意形成、施工計画、施工性・品質確保に効果を実感

アンケート2025 (回答45社)



アンケート2023 (回答45社)



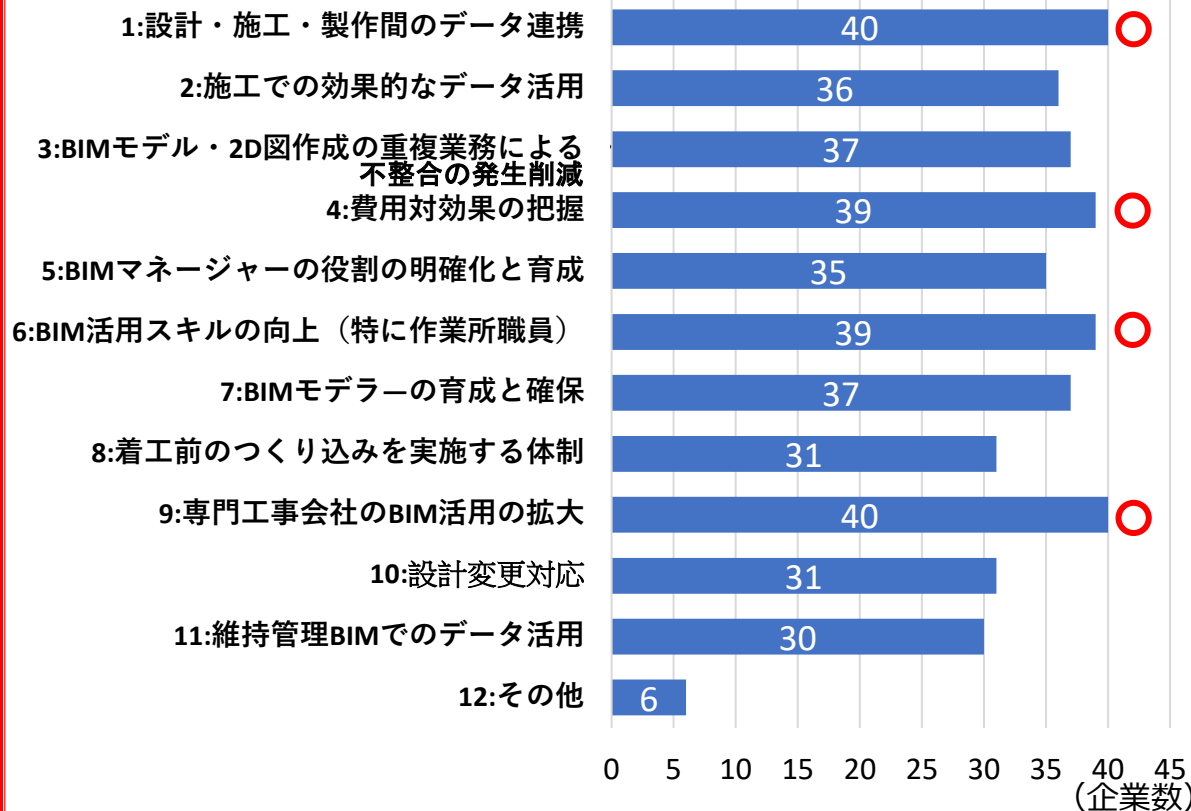
・ 業務フローのフロントローディング化にも効果を感じている。

9. 効果・課題・将来性 ②BIMの課題

- 多くの企業が関係者間のデータ連携、費用対効果の把握、BIM活用スキルの向上、専門工事会社のBIM活用拡大を課題と認識

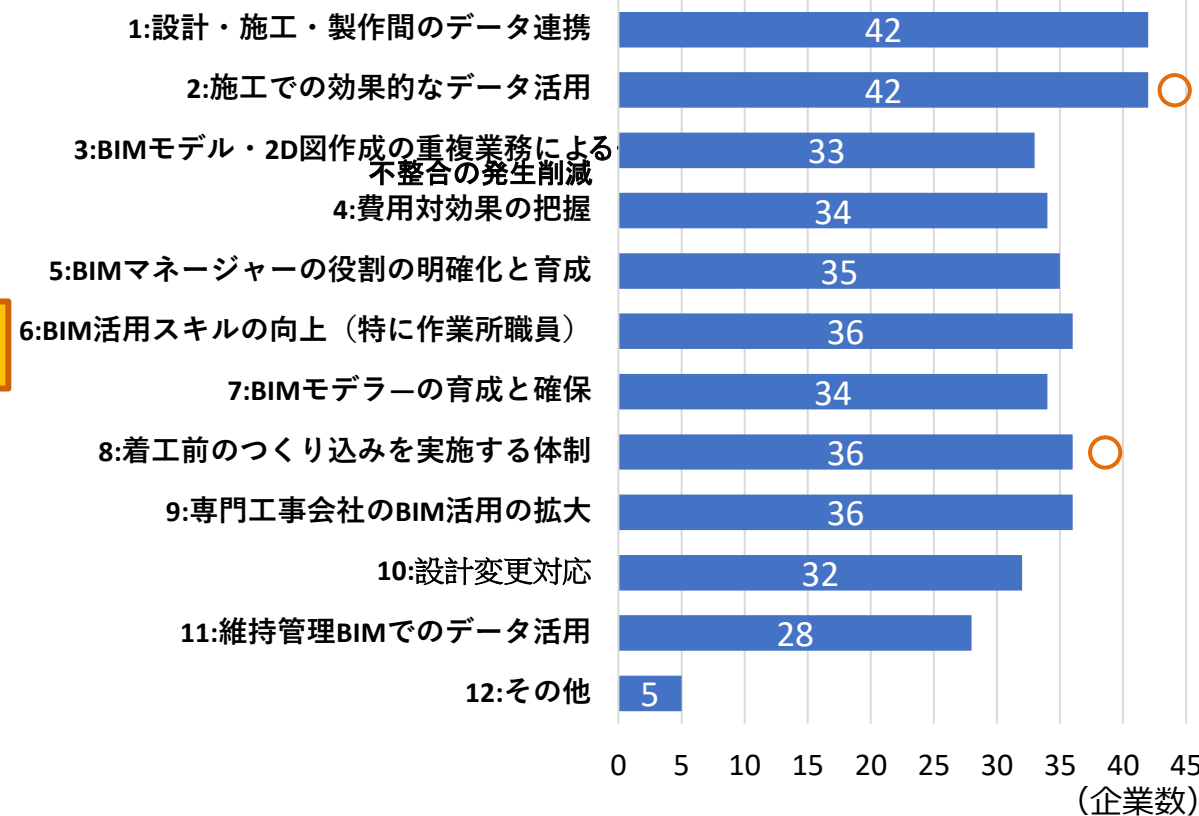
アンケート2025

(回答47社、複数回答可)



アンケート2023

(回答45社、複数回答可)

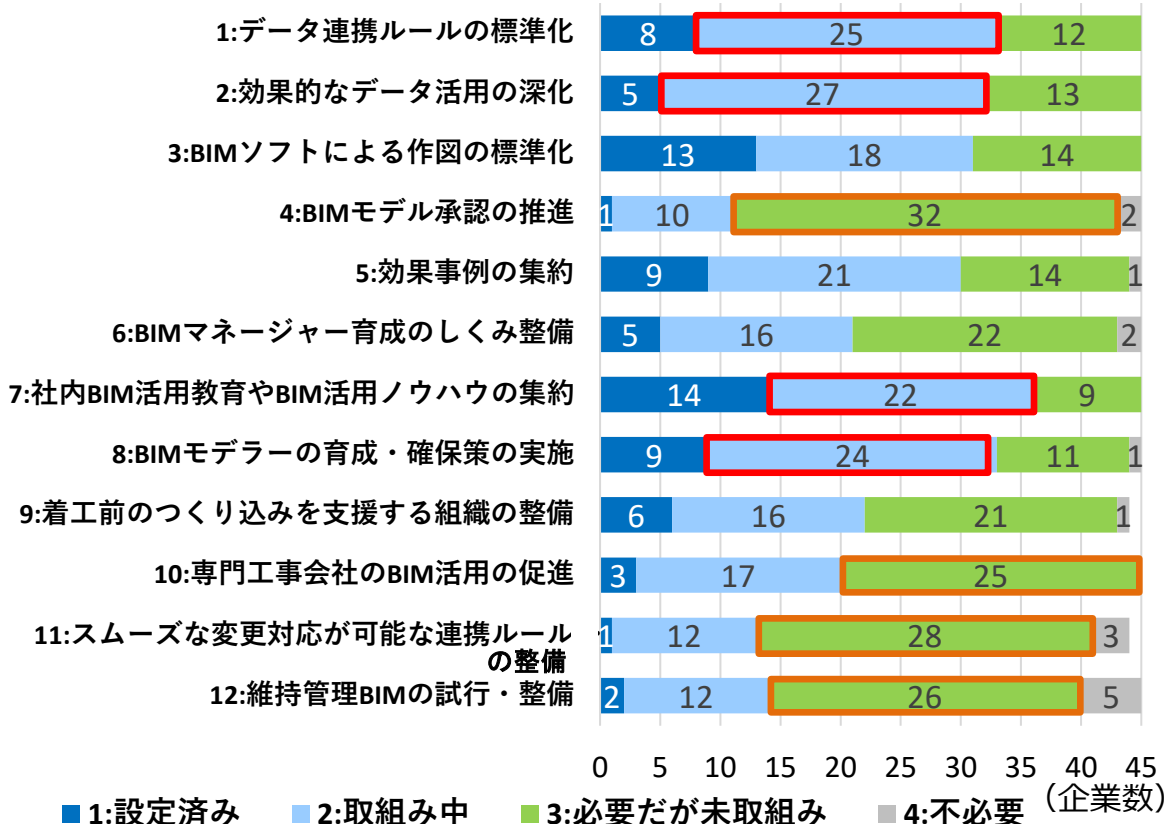


- 各企業がほぼ全ての項目を課題と考えている。
- 2023年調査と比べて、施工でのデータ活用、着工前のつくり込み体制を課題と考える企業は減少している。

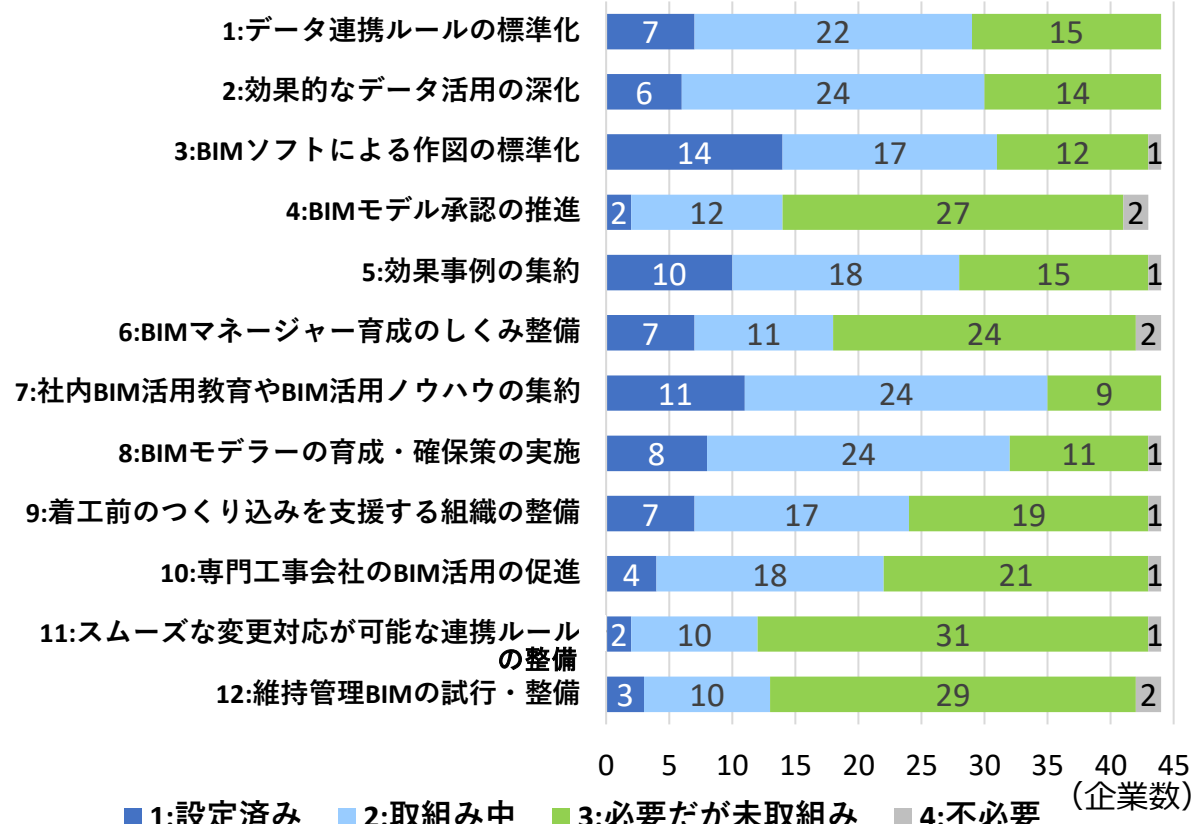
9. 効果・課題・将来性 ③BIMの課題対応

■ 2023年調査同様、多くの企業がデータ連携の標準化、データ活用の深化、活用ノウハウ集約、モデラー確保に取り組む中

アンケート2025 (回答45社、複数回答可)



アンケート2023 (回答44社、複数回答可)



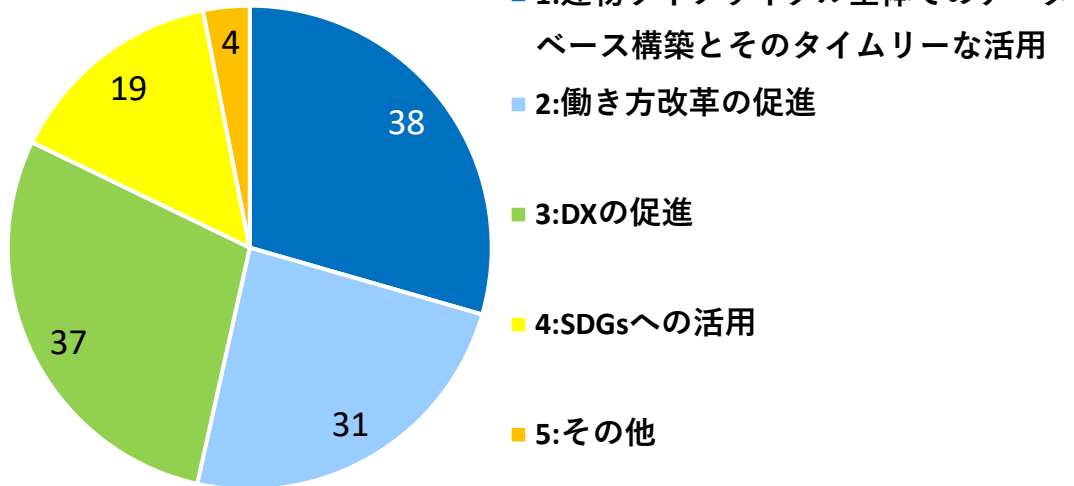
- 各企業がほぼ全ての項目の課題対応を必要と考えている。
- BIMモデル承認、専門工事会社のBIM活用促進、変更対応が可能な連携ルール、維持管理BIMについて、未取組みだが必要と考えている企業が多い。

9. 効果・課題・将来性 ④BIMの将来性

■ 前回調査同様、多くの企業が建物ライフサイクル全体での活用とDXの促進を選択

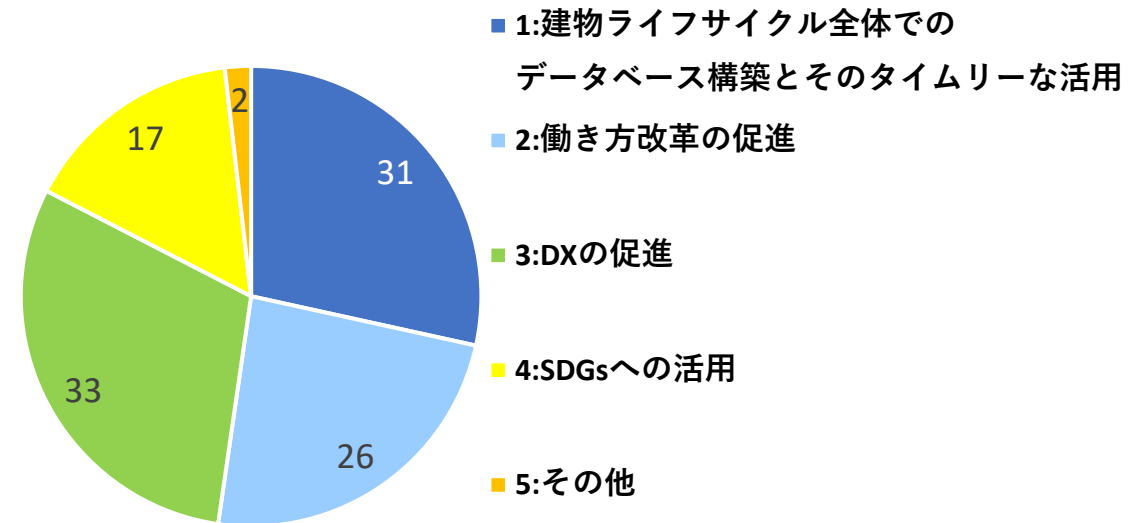
アンケート2025

(回答47社、複数回答可)



アンケート2021

(回答40社、複数回答可)



9. 効果・課題・将来性

その他意見

(アンケート自由記載より)

【導入効果】

- 仮設計画、クレーン検討の迅速化
- BIMデータを情報化生産に繋ぐことによる入力ミスや入力手間の削減、人を介さないことによる伝達ミスの撲滅
- 現状把握に活用できた。
- 施工時のコンサル及び各協力業者との合意形成
- 設計・提案品質の向上、施主合意、教育

【課題】

- 設計変更の期限を建設業界として基準を決めることにより、工期短縮や労務削減が更に可能となる。
- 発注者に対して適正な設計期間と着工前の準備期間を確保する、国によるガイドラインの作成
- 設計では、設計業務を外注依存しているため、外注がBIM設計していないとBIM設計ができない状況。
- 施工では、施工技術スキルを先輩技術者が、BIMスキルは若手技術者が相互の補完関係ができており、BIM活用が徐々に進んでいる状況。
- BIMマネージャー（本社でBIM戦略を練り推進を行う人材）ではなくBIMコーディネーター（現場のBIMデータのマネジメントを行う）の育成が課題
- 設計の効率化や受注の機会の創出など導入メリットの把握と検討
- 異なるBIMソフト間のデータ連携
- 業界標準の設定
- 基盤の整備及び教育に関する一元的な組織の構築

【将来性】

- AIやその他最先端情報通信技術との連携による建設現場のオートメーション化
- BIMデータを含めたDBの集約によるサプライチェーンへの連携とデータドリブンの活用
- 省人化、設計と生産の高度化、働きやすい作業所環境の醸成
- 建物をデータベース化し、デジタルツインの基盤とすること

アンケート結果の集計・分析－10

1. 回答企業の属性
2. BIM推進の方針
3. BIM推進の整備状況
4. 設計におけるBIM活用状況
5. 施工におけるBIM活用状況
6. 引渡し・維持管理・運用における活用状況
7. 改修工事における活用状況
8. BIM推進の方針・整備と活用の相関
9. 効果、課題、将来性

10. BIM未導入企業の回答分析

① 導入・普及の阻害要因

10. BIM未導入企業の回答分析 ①導入・普及の阻害要因

■ 教育体制や基盤情報が未整備、サポート体制が不十分、発注者から要求がないことが挙げられている

【社内の理解】

(回答2社、複数回答可)

BIM活用の必要性が低いと認識され関係部署の理解や支援が得られない

2

新しいソフトウェアを覚えるのが厄介、3次元CADは敷居が高い

2

【コスト】

(回答2社、複数回答可)

導入に伴う対価が得られない(費用対効果がわからない)

2

発注者にBIM活用による費用負担を求めるのが難しい

1

【人材・教育】

(回答2社、複数回答可)

社内にBIMに精通した人材がない

2

BIMに関する教育のための体制が整っていない

1

【情報】

(回答1社、複数回答可)

基準やライブラリ等の基盤情報が整備されていない

1

【ソフトウェア】

(回答2社、複数回答可)

BIM関連ソフトウェアが高額である

1

サポート体制が十分でない

2

【社外との協働】

(回答1社、複数回答可)

発注者から要求がない

1

BIMを使うと、作図や承認スケジュールに乗らない

1

- その他、関係部署の理解・支援が得られない、費用対効果がわからない、社内にBIMの精通した人材がないことなどが挙げられている。

アンケートに対する意見・要望

【意見】	【回答】
<p>① 生成AIの登場からしばらく経ったが、情報通信技術は目覚ましいスピードで進化し続けている。同様に、BIMソリューションや標準化も日々アップデートされている。過去との比較において従来の設問も重要だが、その時々の時勢を反映した項目も加えてほしい。</p> <p>② 「スムーズな変更対応が可能な連携ルールの整備」の具体が分かりづらかった。</p> <p>③ 設問ごとに回答者がバラバラに並んでおり、回答しにくかった。</p> <p>④ アンケートの項目が、設計に対してなのか施工に対してなのか不明確なものがあり、回答を保留したものがある。</p> <p>⑤ BIMマネージャーとBIMコーディネーターを混同している可能性がある。BIMの本質は、建物情報をデータベース化することで他のデータベースと連携して使うことが目的である。設問はすべて3D活用についてでありBIMに関する設問になっていない。</p> <p>⑥ 設計BIMと施工BIMを一つとしてアンケートをされると中途半端な回答となる。</p>	<p>⇒次回調査で反映を検討する。</p> <p>⇒変更の定義と区分、役割と責任範囲、変更発生時の連携フロー、モデル・情報の管理ルール、判断スピードを落とさない運用ルール等を整備することが考えられる。</p> <p>⇒全体又は設計施工連携に関する項目があり、双方で調整の上で回答してもらうことを想定している。</p> <p>⇒BIMマネージャーについては、社内のプロジェクト全体のBIM戦略を設定・推進する者を指す場合と個々のプロジェクトのBIMマネジメントを行う者を指す場合など、企業によって呼称に差異があり、本調査では後者を意図しているので、次回調査で明確にする。また本調査では、3D活用だけでなく、属性データの活用を主な設問としているが、他のデータベースとの連携についても次回調査で追加を検討する。</p> <p>⇒③④の回答に同じ。</p>

アンケートに対する意見・要望

【調査の要望】	【回答】
<p>① AIなどの最先端情報通信技術とのBIM連携比率などの項目を追加してほしい。</p> <p>② BIMソフトのテンプレート整備等、環境整備・社内教育等をどの程度、コンサル等へ依頼しているかを調査してほしい。</p> <p>③ 施工BIM活用において、作業所でのBIMモデラー（オペレーター）の配置状況について調査してほしい。</p> <p>④ BIMのデータ活用についての取組み、BIMとAIの連携についての取組み</p> <p>⑤ 仮設数量の項目があるとよい。</p>	<p>⇒次回調査で追加を検討する。</p> <p>⇒次回調査で追加を検討する。</p> <p>⇒次回調査で追加を検討する。ただし、各社で公開していない具体的な定量データは取り扱わない。</p> <p>⇒次回調査で追加を検討する。</p> <p>⇒次回調査で追加を検討する。</p>

アンケートのまとめ

【プロジェクトにおける活用・展開度合い】

- 設計の活用度合いは32%から45%に増加、施工の活用度合いは33%から46%に増加している。
- 建築設計での活用は、基本設計モデル作成が39%、モデルから基本設計図作成が23%である。
- 構造設計での活用は、実施設計段階でのモデル作成が32%、モデルから実施設計図作成が22%である。
- 設備設計での活用は、実施設計段階でのモデル作成が23%、モデルから実施設計図作成が11%である。
- モデルから躯体概算数量の算出は11%、躯体明細数量の算出は5%に限定されている。
- 設計施工一貫では施工への設計モデルの発行が27%に、施工での継続活用が21%に向上している。
- 施工計画、工法・施工性検討、納まり確認、躯体数量把握での活用が30%以上あるのに比べ、仕上・設備数量把握での活用度合いは低い。
- 専門工事会社との連携について、BIMモデル合意、算出数量の発注への活用、製作への活用は前回とほぼ同様に、活用率はBIMモデル承認で3~6%、製作で10%内外と限定的である。
- 躯体図作成、仕上施工図作成、設備施工図作成への活用は前回とほぼ同様に、活用率はいずれも20%未満に留まっている。
- 施工管理での活用について、打合せ・合意形成及び品質管理・検査への活用、共通データ環境の活用が増加したが、活用率は進捗管理、品質管理・検査への活用がいずれも10%以下に留まっている。

アンケートのまとめ

【方針・整備状況】

- 標準となるBIMワークフローは前回から増えたが、半数の企業が未設定である。
- 設計施工一貫において設計段階に作業所長の早期配置を定めている企業は限定的である。
- BIMマネージャーは配置無しが増えて、全プロジェクトでの配置は限定的である。
- BIMモデラーについては、54%の企業が現状確保できているが将来不足を予想している。
- BIM実行計画書を全プロジェクトで作成・運用している企業は増加したが、19%に限定されている。
- 共通データ環境の主な利用目的は、BIMモデルのデータ共有・同時編集、最新情報の一元管理となっている。

【課題・将来性】

- 課題としては、多くの企業が関係者間のデータ連携、費用対効果の把握、BIM活用スキルの向上、専門工事会社のBIM活用拡大を挙げている。
- 課題対応としては、多くの企業がデータ連携の標準化、データ活用の深化、活用ノウハウ集約、モデラー確保に取り組んでいる。さらに、BIMモデル承認、専門工事会社のBIM活用促進、変更対応が可能な連携ルール、維持管理BIMを未取り組みだが必要と考えている企業が多い。
- BIMの将来性については、前回同様に多くの企業が建物ライフサイクル全体での活用とDXの促進を挙げている。

アンケートのまとめ

【BIM推進の方針・整備と活用の相関：BIMワークフローを設定している場合】

- 設計全体、建築設計、構造設計、設備設計で20%程度高い活用となっている。
- 設計施工一貫で30%程度高い連携となっている。
- 施工全体及び施工計画で20%程度高い活用となっている。
- 専門工事会社連携、施工図作成、施工管理で15%程度高い活用となっている。

【BIM推進の方針・整備と活用の相関：BIM実行計画書を作成している場合】

- 設計全体で20%程度高い活用となっている。
- 設計施工一貫で5%程度高い連携となっている。
- 施工全体及び施工計画で20%程度高い活用となっている。
- 専門工事会社連携、施工図作成、施工管理で15%程度高い活用となっている。

アンケート結果による課題抽出と日建連活動における取組み

アンケート結果による課題抽出

日建連活動における取組み

(『日建連の建築BIM | 定着に向けたロードマップ』による)

- 標準となるBIMワークフローは半数近くの企業が未設定。
- 設計施工一貫において施工への設計モデルの発行、施工での継続活用が向上しているが、未だ不十分。
- 設計施工一貫において設計段階に作業所長の早期配置を定めている企業は限定的。
- BIM実行計画書を全プロジェクトで作成・運用している企業は限定的。
- 多くの企業が、関係者間のデータ連携、BIM活用スキルの向上、専門工事会社のBIM活用拡大を課題に挙げている。
- 設計の活用度合いは高くなっているが、未だ不十分。
- 専門工事会社との連携は、BIMモデル承認や製作への活用度合いが低い。
- 施工図作成への活用度合いが低い。
- 施工計画・事前検討での活用は、数量把握での活用度合いが低い。
- 施工管理での活用は、進捗管理や品質管理への活用度合いが低い。
- BIMマネージャーは、配置無しが増えて全プロジェクトでの配置は限定的。
- BIMモデラーについては、現状確保できているが将来不足を予想している企業が多い。

- 「設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー」（日建連BIMワークフロー）の内容拡充
 - BIMによる設計部門と施工部門の共創のワークフロー提示
 - BIM実行計画書のひな型提示
 - 設備工事と鉄骨工事におけるBIMワークフローと共創のポイントを提示
- 設計BIMモデル作成ガイドの発行
- BIMモデル承認の手法検討・試行
- 活用目的別に整理したBIM活用事例集の発行
- 工事現場におけるBIM活用レシピの内容拡充
- BIM活用事例集に取組み例を提示

BIM啓発専門部会メンバーの紹介

主査	三輪 哲也	(株)竹中工務店
副主査	吉田 知洋	鹿島建設(株)
	岡田 隆司	(株)安藤・間
	古賀 稔章	(株)フジタ
	立岡 慎吾	大成建設(株)
	田中 元明	(株)大林組
	中村 治男	五洋建設(株)
	西山 英治	戸田建設(株)
	吉原 裕之	清水建設(株)

